

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	社会資本整備総合交付金			<b>担当部局庁</b>	大臣官房			<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始年度</b>	平成22年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	社会資本整備総合交付金等総合調整室			室長 榊 真一	
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	都市公園法、河川法、海岸法、下水道法、道路法、港湾法等			<b>関係する計画、通知等</b>	社会資本整備重点計画				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	公共事業				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	社会資本整備総合交付金は、地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ることを目的とする。								
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	<p>地方公共団体が作成した社会資本総合整備計画(社会資本整備総合交付金)(以下、「社会資本総合整備計画」という。)に基づき、政策目的実現のための基幹的な社会資本整備事業のほか、関連する社会資本整備や効果促進事業等を総合的・一体的に支援。</p> <p>&lt;基幹事業&gt;【基幹事業ごとの事業概要は別紙1参照】          社会資本総合整備計画の目標を実現するために交付金事業者が実施する基幹的な事業であって、次に掲げる事業          ① 道路事業、② 港湾事業、③ 河川事業、④ 砂防事業、⑤ 地すべり対策事業、⑥ 急傾斜地崩壊対策事業、⑦ 下水道事業、          ⑧ その他総合的な治水事業、⑨ 海岸事業、⑩ 都市再生整備計画事業、⑪ 広域連携事業、⑫ 都市公園等事業、          ⑬ 市街地整備事業、⑭ 都市水環境整備事業、⑮ 地域住宅計画に基づく事業、⑯ 住環境整備事業</p> <p>&lt;関連社会資本整備事業&gt;          社会資本総合整備計画の目標を実現するため、基幹事業と一体的に実施することが必要な社会資本整備重点計画第2条第2項各号(第14号及び当該社会資本総合整備計画に係る基幹事業が該当する号を除く。)に掲げる事業(維持に関する事業及びレクリエーションに関する施設の整備事業を除く。)及び住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律第2条第1項に規定する公的賃貸住宅の整備に関する事業</p> <p>&lt;効果促進事業&gt;          計画の目標実現のために基幹事業一体となって、基幹事業の効果を一層高めるために必要な事業等(ただし、交付金事業者の運営に必要な人件費、賃借料その他の経常的な経費への充当を目的とする事業等、交付対象となる地方公共団体の区域を著しく超えて運行される公共交通機関に係る事業等及びレクリエーションに関する施設の整備事業等を除く。)</p> <p>&lt;社会資本整備円滑化地籍整備事業&gt;          社会資本総合整備計画の目標を実現するため、基幹事業に先行し、又は併せて実施する国土調査法(昭和26年法律第180号)第6条の4第1項に規定する地籍調査であって、社会資本整備の円滑化に資するもの</p>								
<b>実施方法</b>	交付								
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	835,005	844,458	835,631	832,398	979,278		
		前年度から繰越し	122,122	2,500	0	-			
		翌年度へ繰越し	617,061	389,500	240,817	203,135			
		予備費等	▲ 389,500	▲ 240,817	▲ 203,135				
		計	-	-	-				
	執行額	1,184,688	995,641	873,313	1,035,533	979,278			
執行率 (%)	1,178,560	990,139	871,085						
		99%	99%	100%					
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標	社会資本総合整備計画中の成果目標の達成度 (%) (全国ベース)	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標	目標最終年度
				%	80	75	81	-	-
				目標値	100	100	100	-	-
				達成度	80	75	81	-	-
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標	社会資本総合整備計画数 (全国ベース)	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
			計画	2,530	2,606	2,562	-		
			活動実績	-	-	-	-		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠	当該年度の当初配分額(全国ベース) / 当該年度に社会資本整備総合交付金が当初配分された計画数(全国ベース)	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
			百万円	355.3	348.1	351.1	-		
			計算式	百万円 / 計画数	898,870 / 2,530	907,161 / 2,606	899,505 / 2,562	-	
<b>平成28・29年度予算内訳(単位:百万円)</b>	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	交付金事業	832,398	979,278	「新しい日本のための優先課題推進枠」232,407					
	計	832,398	979,278						

政策評価	政策	別紙2参照								
	施策	別紙2参照								
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 年度	目標年度 年度	
		別紙2参照	実績値							
			目標値							
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	別紙2参照									
	政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	改革項目	分野:	社会資本整備等	①コンパクト・プラス・ネットワークによる集約・活性化や施設の効果的・効率的な維持管理・更新					
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
目標値			-	-	-	-	-	-		
達成度		%	-	-	-	-	-			
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 28 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度	
		立地適正化計画に位置づけられた誘導施設について、市町村全域に存する当該施設数に対して、都市機能誘導区域内に立地する当該施設数の占める割合が増加している市町村数	成果実績	市町村数	-	-	-	-	-	
		目標値	市町村数	-	-	-	-	100		
達成度		%	-	-	-	-	-			
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 28 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度	
		市町村の全人口に対して、居住誘導区域内に居住している人口の占める割合が増加している市町村数	成果実績	市町村数	-	-	-	-	-	
		目標値	市町村数	-	-	-	-	100		
達成度		%	-	-	-	-	-			
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 28 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度	
		公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (三大都市圏)	成果実績	%	-	90.6	-	-	-	
		目標値	%	-	-	-	-	90.8		
達成度		%	-	99.8	-	-	-			
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 28 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度	
		公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (地方中枢都市圏)	成果実績	%	-	79.1	-	-	-	
		目標値	%	-	-	-	-	81.7		
達成度	%	-	96.8	-	-	-				
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 28 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度		
	公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (地方都市圏)	成果実績	%	-	38.7	-	-	-		
	目標値	%	-	-	-	-	41.6			
達成度	%	-	93	-	-	-				
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
都市機能の立地誘導及び都市交通システムの整備等を通じて、市町村等によるコンパクトシティの取組を促進し、立地適正化計画の具体化を図る。										

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	社会資本整備重点計画で掲げる重点目標と関連する事業を支援するとともに、三位一体の改革やPPP/PFIの推進などの社会情勢等の変化に合わせ、交付金制度の見直しや交付金の重点配分を行ってきている。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は地方公共団体等の社会資本の整備等の取組を支援するものであり、国が行うことが必要である。また、PPP/PFIの活用等により官民の多様な関係者が連携して取り組む総合的な整備計画に対して重点配分を行うなど、民間能力の活用の促進を図っている。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は地方公共団体等の社会資本の整備等を通じ、経済基盤の強化、都市環境の改善等を図るものであり、平成28年度より、社会資本重点整備計画等のKPI・指標と連動する重点配分対象を設定し、当該対象事業に対して重点的に交付金を配分する取組を始めており、優先度の高い分野の取組を促進している。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	国と地方公共団体等とは関係法令等に定められた妥当な負担関係を適用したものとなっている。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	地方公共団体等が作成する計画に基づき行う社会資本の整備等のために必要な経費について交付金を配分しており、単位当たりコストは妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	地方公共団体等が作成する計画に基づき行う社会資本の整備等であって、交付要綱に定める事業に限定している。また、平成27年度より効果促進事業の使途の見直しを行ったところ。
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	PPP/PFIの活用等により官民の多様な関係者が連携して取り組む、あるいは民間投資を喚起する総合的な整備計画に対して重点配分を行っている。 また、平成28年度より、限られた予算を効率的に配分するため、社会資本重点整備計画等のKPI・指標と連動した重点配分対象を設定し、重点的に交付金を配分する取組を薦めているところ。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果目標には地方公共団体が設定した計画内の成果目標の達成度を設定しており、地方公共団体が策定した計画に基づく事業を支援する本事業の趣旨に鑑み、適切な指標となっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	
整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	計画内の成果目標を概ね達成できている状況であり、整備された施設等が十分活用されているものと考えられる。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名
	国土交通省大臣官房社会資本整備総合交付金等総合調整室	386	防災・安全交付金
	国土交通省大臣官房社会資本整備総合交付金等総合調整室	387	社会資本整備総合交付金(全国防災)(平成27年度で終了)
復興庁統括官付参事官	196	社会資本整備総合交付金(復興)	社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金、社会資本整備総合交付金(全国防災)及び社会資本整備総合交付金(復興)との役割分担については、被災地域の復興等のための事業等にあつては社会資本整備総合交付金(復興)により、東日本大震災を教訓として、全国的に緊急に実施する必要性が高く、即効性のある防災、減災等のための事業にあつては社会資本整備総合交付金(全国防災)により、「命と暮らしを守るインフラ再構築」、「生活空間の安全確保」に対する集中的支援にあつては防災・安全交付金により、成長力強化や地域活性化等につながる事業にあつては社会資本整備総合交付金により支援しており、それぞれ適切な役割分担となっている。
点検・改善結果	点検結果	平成28年度については、経済・財政再生計画、財政制度等審議会等の指摘も踏まえ、費用対効果(B/C)の算出の要件化、不用率・未契約繰越率の把握、公表等の制度の見直しを行ってきた。また、地方公共団体からの要望に対する交付金の措置率が低下していることを踏まえ、重点配分対象を明確にし、真に必要な事業・計画に十分な交付金が充てられるよう取組をはじめたところ。 平成29年度においても、限られた予算を効率的に使用する観点から、優先度の高い事業・計画に対して十分な支援ができるよう、引き続き必要な改善策を検討し、講じるべきである。	
	改善の方向性	優先度の高い事業・計画に対して十分な支援ができるよう必要な改善策を検討し、予算の重点化を図る。	

**外部有識者の所見**

**行政事業レビュー推進チームの所見**

事業内容の一部改善	地方公共団体からの要望に対する交付金の措置率が低下していることに鑑み、優先度の高い事業・計画に対して十分な支援ができるよう、引き続き必要な改善策を検討し、講じるべき。
-----------	---

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

執行等改善	平成28年度より、真に必要な計画への重点配分、事業の効率性の明確化、住民等への説明責任の向上等の諸課題に対応するため、重点配分対象の明確化、一定の線引きを行った上での費用対効果(B/C)の算出の要件化、不用率・未契約繰越率の把握・公表、整備計画の事前評価・事後評価の公表の徹底など、制度の運用改善の取組を開始しているところ。上記の所見を踏まえ、平成29年度より、地方公共団体との連携を図りつつ、交付金事業のより効果的・適切な執行が図られるよう取組の本格化を図る。
-------	---

**備考**

政策評価において北海道・離島振興は別の政策体系となっており、政策評価との連携をとるため、予算額・執行額及び予算内訳に関しては重複を避けるため、内部分のみ計上している。その他成果実績等に関しては、全国ベースでの分析をしている。

<秋の年次公開検証(秋のレビュー)等の行政改革推進会議による指摘、会計検査院の検査報告、総務省の政策評価、行政評価・監視結果、財務省の予算執行調査結果等の主な指摘及びそれに対する対応>

【平成25年秋のレビュー】

- 主な指摘 資源の配分を老朽化対策に重点化すべきではないか。
- 対応 地方公共団体の社会資本整備を支援する交付金を防災・安全交付金に重点化

【平成26年財務省予算執行調査】

- 主な指摘 効果促進事業の対象事業について抜本的な見直しが必要ではないか。
- 対応 三位一体改革で税源移譲されたもの等について効果促進事業の対象から除外

【会計検査院国会報告(平成28年2月)】

- 主な指摘 地方公共団体において整備計画に係る評価を実施していない等の事態が見受けられた
- 対応 地方公共団体に対して要綱等の規定を周知するとともに、整備計画に係る評価を適切に実施するよう通知

<概算要求額が300億円を超える事業につき1シートにより作成する理由及び国民へのわかりやすさを担保するために行った作成上の工夫>

社会資本整備総合交付金は、国から配分された交付金の用途は地方公共団体の裁量に委ねられており、予算段階で事業ごとの予算は明らかにならないため、レビューシートを分割することは困難。

事業内容等をよりわかりやすくするため、交付金の交付対象事業ごとに別紙を作成し、事業概要及び関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標を記載している。

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成22年度	-	平成23年度	0001	平成24年度	0001	
平成25年度	359	平成26年度	348	平成27年度	365	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省  
899,505百万円

社会資本総合整備計画  
単位で配分

【補助】

A.地方公共団体等  
899,505百万円

交付金事業（基幹事業、  
関連社会資本整備事業、  
効果促進事業）の実施

<東京都の場合>

東京都区部公共下水道事  
業整備計画（東京の現在を  
支え、未来を創る下水道）  
13,550百万円

<事業費内訳>

工事費	
本工事費	27,581百万円
測量設計費	206百万円
合計	27,787百万円

<交付決定ベース>

※交付決定ベースであるため、合計額が社会  
資本総合整備計画ごとの金額とは一致しない。

資金の流れ  
（資金の受け取  
り先が何を行っ  
ているかについ  
て補足する）  
（単位：百万  
円）



支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	東京都	8000020130001	東京都区部公共下水道事業整備計画(東京の現在を支え、未来を創る下水道)他	78,098	-			
2	愛知県	1000020230006	円滑な移動を確保し、モノづくりの産業基盤を支える幹線道路ネットワークの整備 他	53,409	-			
3	北海道	7000020010006	道内各地域の交流・連携の深化に資する道路ネットワークの機能向上・生活基盤形成 他	50,963	-			
4	福岡県	6000020400009	快適な生活環境の整備 他	48,764	-			
5	大阪府	4000020270008	大阪市地域住宅等整備計画〔第2期〕 他	43,951	-			
6	神奈川県	1000020140007	高速道路網及び駅へのアクセス向上に資する道路整備計画 他	37,595	-			
7	兵庫県	8000020280003	兵庫県地域住宅等整備計画 他	30,712	-			
8	埼玉県	1000020110001	埼玉県流域下水道整備計画 他	29,980	-			
9	千葉県	4000020120006	千葉県における流域下水道の推進 他	29,342	-			
10	新潟県	5000020150002	豊かな水環境を育む安全・安心な地域づくり 他	29,293	-			

基幹事業名	道路事業					担当部局庁	道路局、都市局					作成責任者			
						担当課室	環境安全課、街路交通施設課 等	課長	森山 誠二	課長	渡邊 浩司 等				
事業概要	道路事業 一般国道、都道府県道又は市町村道の新設、改築、修繕等に関する事業  (1)道路事業【国費率1/2等】 地方公共団体が行う道路の新設、改築、修繕又は維持(除雪に係る事業又は降灰の除去事業に限る。)に関する事業をいう。														
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					道路による都市間速達性の確保率 H25年度49% → H32年度 55%									
	26年度	51	27年度	集計中	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	55	
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					踏切遮断時間による損失時間 H25年度 約123万人・時/日 → H32年度 約117万人・時/日									
	26年度	122	27年度	121	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	117	



基幹事業名	港湾事業					担当部局庁	港湾局					作成責任者			
						担当課室	計画課					課長 宮崎 祥一			
事業概要	港湾事業 港湾施設の建設又は改良に関する事業及びこれらの事業以外の事業で港湾その他の海域における汚濁水の浄化その他の公害防止のために行う事業 (1)港湾改修事業【国費率 5/10、4/10、1/3 等】 一般公衆の利用に供することを目的として、以下の①～⑤に掲げる港湾施設の建設又は改良を行う事業。ただし、⑤に掲げる施設のみの建設又は改良を行う事業及び水深7.5m以上の係留施設と一体で整備される港湾施設の建設又は改良を行う事業を除く。 ①港湾法第2条第5項第1号に規定する水域施設 ②港湾法第2条第5項第2号に規定する外郭施設 ③港湾法第2条第5項第3号に規定する係留施設 ④港湾法第2条第5項第4号に規定する臨港交通施設 ⑤港湾法第2条第5項第11号に規定する港湾施設用地 (2)港湾施設長寿命化計画策定事業【国費率 1/3】 老朽化が進む港湾施設の必要な機能を維持しつつ、将来の改良・更新コストの抑制を図るため、地方公共団体等が自ら所有する係留施設、外郭施設(防波堤に限る。)及び臨港交通施設の長寿命化を目的とした維持管理計画を策定する事業(防災・安全対策のために特に必要と認められる事業を除く)。(平成29年度までの時限措置) (3)緑地等施設整備事業【国費率 緑地5/10、用地1/3】 臨港地区就業者のための快適な就労環境の確保や港湾を訪れる市民等に開かれたウォーターフロントの形成を図るとともに、震災時において避難地・防災拠点として機能するオープンスペースの確保を図るため、港湾法第2条第5項第9の3号に規定する港湾環境整備施設の建設又は改良を行う事業。ただし、レクリエーションに関する施設の整備事業を除く。 (4)海域環境創造・自然再生等事業【国費率 水質浄化施設5/10、施設改良4/10、沈廃船等処理1/3 等】 海域の環境改善及び適正な港湾利用を図るために行う、以下の①～③に掲げる事業。 ①海浜・水質浄化施設 港湾区域における汚泥上への覆砂、海浜及び当該施設を構成するために必要な突堤及び離岸堤の整備、水質浄化施設の整備 ②施設改良 水質・底質の改善を図るための外郭施設、係留施設等の改良 ③沈廃船等処理 沈廃船:港湾法第37条の3に規定する禁止行為に係る公示をした港湾及びその他適切な規制を講じている港湾において、みだりに捨て又は放置されている所有者不明の船舶の処理 放置座礁船:船舶所有者等に代わり、やむを得ず行う放置座礁船の処理														
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					海上貨物輸送コスト低減効果(対H25年度総輸送コスト) (国内)H32年度約3%								
		26年度	0.1%	27年度	1%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	3%
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					海上貨物輸送コスト低減効果(対H25年度総輸送コスト) (国際)H32年度約5%								
	26年度	0.6%	27年度	1.2%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	5%	
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					全国の港湾からクルーズ船で入国する外国人の旅客数 H26年41.6万人 → H32年500万人									
	26年度	41.6万人	27年度	111.6万人	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	500万人	

基幹事業名	担当部局庁		水管理・国土保全局				作成責任者							
	担当課室		下水道部 下水道事業課				課長 加藤 裕之							
<b>事業概要</b>  下水道事業 下水道法(昭和33年法律第79号)第2条第3号の公共下水道、同条第4号の流域下水道又は同条第5号の都市下水路の設置又は改築に関する事業等 (1)通常下水道事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 公共下水道、流域下水道又は都市下水路の設置又は改築に関する事業で、下水道法施行令(昭和34年政令第147号)第24条の2に定めるものを対象とした事業(ただし、下水道法施行令第24条の2第1項第1号及び第2号並びに第2項の規定に基づき定める件(昭和46年建設省告示第1705号)第6項第4号から第8号までに係るものを除く。)をいう。 (2)下水道浸水被害軽減総合事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 主要なターミナル駅の周辺地区に代表される都市機能が集積しており浸水実績がある地区、床上浸水被害が発生した地区、河川と下水道等が集中的な対策を実施するため共同して計画を策定した地区、内水浸水により一定規模の浸水が想定される地区等の浸水被害の軽減、最小化及び解消を目的として、再度災害防止や事前防災・減災の観点等から、他事業と連携した流出抑制施策やハード対策に加えて地域住民等による自助取組の促進策及び効果的に自助取組を導くためのソフト対策を組み合わせて浸水対策を実施する事業をいう。 (3)効率的雨水管理支援事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 行政と住民等が連携して効率的な浸水対策を図る地域において、浸水リスクに応じたきめこまやかな目標設定と、迅速かつ経済的な浸水対策を推進する事業をいう。 (4)下水道総合地震対策事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水道の地震による被災が市民生活や公衆衛生等に重大な影響を及ぼすことに鑑み、大規模地震対策特別措置法(昭和53年法律第73号)に基づく地震防災対策強化地域、水道水源地域等において、地震に対する安全度を早急に高め、安心した都市活動が継続されることを目的として、地震時に下水道が最低限有すべき機能を確保するための施設の耐震化及び被災した場合の下水道機能のバックアップ対策を併せて進める事業をいう。 (5)合流式下水道緊急改善事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 合流式下水道を採用している地方公共団体において、公共用水域の水質保全等に資することを目的として、合流式下水道の改善を緊急的に実施する事業をいう。 (6)都市水害対策共同事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 効率的な浸水対策を推進することを目的として、内水氾濫対策を受け持つ下水道と洪水氾濫対策を受け持つ河川が連携・共同し、相互の施設をネットワーク化し、出水特性や規模に応じて融通利用を実施する事業をいう。 (7)下水道整備推進重点化事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水道整備の早期概成及び効率化を実現するため、効率的かつ適正な区域の設定や低コスト技術の採用、PPP/PFI手法の導入等により、迅速に下水道整備を行う事業をいう。 (8)下水道ストックマネジメント支援制度【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水道施設の持続的な機能確保及びライフサイクルコストの低減を図ることを目的として、下水道施設全体を一体的に捉えた「下水道ストックマネジメント計画」を策定し、当該計画に基づき、計画的な点検・調査及び長寿命化を含めた改築等を行う事業をいう。 (9)下水道長寿命化支援制度【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 事故の未然防止及びライフサイクルコストの最小化を図ることを目的として、下水道施設の健全度に関する点検・調査結果に基づき、「長寿命化対策」に係る計画を策定し、当該計画に基づき、予防保全的な管理を行うとともに、長寿命化を含めた計画的な改築等を行う事業をいう。 (10)流域下水汚泥処理事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水汚泥の適正な処理処分及び資源化再利用の促進に資することを目的として、流域下水道と公共下水道が一体となって下水汚泥の広域処理を流域下水道管理者である都道府県が実施する事業をいう。 (11)汚水処理施設共同整備事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水道施設を利用することが効果的な場合において、効率的な汚水処理の促進に資することを目的として、下水道及び他の汚水処理施設において共同で汚水を処理する事業をいう。 (12)特定下水道施設共同整備事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水道整備の円滑な促進に資することを目的として、地方公共団体が共同で下水道施設を設置し、利用する事業をいう。 (13)民間活用型地球温暖化対策下水道事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水汚泥等の資源・エネルギー利用を推進し、地球温暖化防止に貢献することを目的として、下水汚泥等の資源化、流通、販売・利用を一体的に捉え、民間企業の有するノウハウを最大限活用する事業をいう。 (14)新世代下水道支援事業制度【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 良好な水循環の維持・回復、リサイクル社会構築への貢献、情報化社会への対応等、下水道に求められている新たな役割を積極的に果たしていくことを目的として実施する事業をいう。 (15)下水道基本計画策定事業【国費率1/3】 国民の良好な生活環境を確保するとともに公共用水域の水質を保全するため、計画的な下水道整備を推進し、円滑な下水道事業の実施に資することを目的として、下水道基本計画を策定する事業をいう。 (16)特定水域高度処理基本計画策定事業【国費率1/3】 湖沼、閉鎖性海域、水源河川の水質保全を図り、あわせて良好な水環境の形成や増大する水需要に対応するため、計画的な高度処理の促進に資することを目的として、特定水域に係る高度処理基本計画を策定する事業をいう。 (17)下水道管理用光ファイバー整備計画策定事業【国費率1/3】 円滑な下水道管理用光ファイバー整備の推進に資することを目的として、下水道管理の高度化・効率化を図る観点から、地方公共団体が下水道管理用光ファイバーの整備を効果的に行うために、下水道管理用光ファイバー整備計画を策定する事業をいう。 (18)効率的汚水処理整備計画策定事業【国費率1/2】 下水道、集落排水、浄化槽等それぞれの汚水処理施設の有する特性、経済性等を総合的に勘案して、地域の実情に応じた効率的かつ適正な整備手法の選定を行い、汚水処理施設の早期概成に資することを目的として、都道府県構想又はアクションプランの策定を行う事業をいう。  都市水環境整備事業 良好な都市の水環境の保全又は創出に関する事業 (1)都市水環境整備下水道事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 良好な都市水環境の保全・創出を図るため、河川事業等との連携を図りつつ実施する下水道事業をいう。	KPI・指標		下水汚泥エネルギー化率 H25年度 約15% → H32年度 約30%											
	26年度	15%	27年度	集計中	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	30%
	KPI・指標		汚水処理人口普及率 H25年度 約89% → H32年度 約96%											
	26年度	90%	27年度	90%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	96%

基幹事業名	海岸事業						担当部局庁	水管理・国土保全局 港湾局				作成責任者		
							担当課室	海岸室 海岸・防災課				室長 内藤 正彦 課長 村岡 猛		
事業概要	海岸事業 海岸保全施設の新設又は改良に関する事業及び海岸環境の整備に関する事業 (1)高潮対策事業【国費率1/2】 高潮、波浪、津波等により被害が発生するおそれのある地域について、堤防・護岸・離岸堤・突堤等の海岸保全施設の新設又は改良を実施する事業をいう。 (2)侵食対策事業【国費率1/2】 海岸侵食により被害が発生するおそれのある地域について、堤防・護岸・離岸堤・突堤等の海岸保全施設の新設又は改良を実施する事業をいう。 (3)海岸耐震対策緊急事業【国費率1/2】 堤防・護岸等の耐震対策等を地域の実情に応じて緊急的に実施することにより、地震発生に伴う堤防・護岸等の防護機能低下による浸水被害を防止する事業をいう。 (4)海岸堤防等老朽化対策緊急事業【国費率1/2】 老朽化により機能が確保されていない又は機能低下の恐れがある海岸保全施設であって、緊急にその機能の強化又は回復を行う必要があるものについて、海岸保全施設の老朽化調査、調査結果を踏まえた老朽化対策計画の策定、老朽化対策計画に基づいた老朽化対策工事を実施する事業をいう。 (5)津波・高潮危機管理対策緊急事業【国費率1/2、※南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法第13条第1項に規定する津波避難対策緊急事業として整備される避難対策としての管理用通路等は2/3】 既存の海岸保全施設の防災機能を的確に発揮させるとともに、住民等の津波又は高潮からの避難を促進するため、①水門等の自動化・遠隔操作化及び改修等、②堤防・護岸等海岸保全施設の破堤防止、局所的な堤防等未整備箇所における堤防等の整備、排水工の整備、③津波・高潮ハザードマップの作成支援、④津波・高潮に関する観測施設、情報提供施設等情報基盤の整備、⑤津波防災ステーションの整備、⑥避難対策としての管理用通路の整備、⑦避難用通路の設置、⑧漂流物防止施設の整備、⑨水門等の整備・運用計画策定支援(計画策定に伴う調査含む。)を総合的に実施する事業をいう。 (6)海岸環境整備事業【国費率1/3】 堤防、突堤、護岸、離岸堤、人工リーフ、砂浜、植栽、飛砂防止施設、安全情報伝達施設、通路(水叩き兼用)、緩衝帯としての緑地・広場、進入路(必要最小限の管理用駐車スペースを含む。)、照明(安全確保上必要最小限のものに限る。)、その他所期の目的を達成するための必要最小限の施設の新設、改良を実施する事業をいう。 (7)海域浄化対策事業【国費率1/2、※公害の防止に関する事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律第3条に該当するもの以外の事業については1/3】 水管理・国土保全局所管海岸に係る汚染の著しい海域等において、海域の浄化を図るため、ヘドロ等の除去等、放置座礁船の処理を実施する事業をいう。													
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標						南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における河川・海岸堤防等の整備率(計画高までの整備と耐震化)及び水門・樋門等の耐震化率 (海岸堤防等) H26年度 約39% → H32年度 約69%						
	26年度	39%	27年度	40%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	69%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標						南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における、水門・樋門等の自動化・遠隔操作化率 (海岸) H26年度 約43% → H32年度 約82%							
	26年度	43%	27年度	48%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	82%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標						個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率 海岸 H26年度 約1% → H32年度 約100%							
	26年度	1%	27年度	7%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	100%

基幹事業名	都市再生整備計画事業					担当部局庁	都市局					作成責任者		
						担当課室	市街地整備課					課長 英 直彦		
事業概要	<p>都市再生整備計画事業 都市再生法第46条第1項の都市再生整備計画（都市再生法第83条第2項の規定に基づき都市再生整備計画の提出があったものとみなされる立地適正化計画）に基づく事業等</p> <p>○都市再生整備計画事業【国費率 概ね4割等】 市町村等が行う地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを総合的に支援し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的とする。</p>													
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					立地適正化計画を作成する市町村数 H32年 150市町村								
	26年度	0	27年度	1	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	150
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 （三大都市圏） H26年度 90.5% → H32年度 90.8%								
	26年度	90.5%	27年度	90.6%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	90.8%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 （地方中枢都市圏） H26年度 78.7% → H32年度 81.7%								
	26年度	78.7%	27年度	79.1%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	81.7%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 （地方都市圏） H26年度 38.6% → H32年度 41.6%								
	26年度	38.6%	27年度	38.7%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	41.6%

基幹事業名	広域連携事業					担当部局庁	国土政策局					作成責任者	
						担当課室	広域地方政策課					課長 中川 雅章	
事業概要	広域連携事業 広域活性化法第5条第1項の広域活性化計画に基づく事業 (1)広域連携事業【国費率 最大45/100】 複数都道府県が連携協力して作成する広域活性化計画に基づく広域活性化法第5条第2項第2号及び第3号の事業をいう。												
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					広域活性化計画における観光入込客数の増加率 H26年度 → H32年度 約12%増							
	26年度	-	27年度	29年度に集計	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度

基幹事業名	都市公園・緑地等事業					担当部局庁	都市局					作成責任者		
						担当課室	公園緑地・景観課					課長 町田 誠		
事業概要	都市公園・緑地等事業 都市公園の整備、歴史的風土の保存及び都市における緑地の保全に関する事業 (1)都市公園等事業(国費率 1/3.1/2) 安全で快適な緑豊かな都市環境の形成を推進し、豊かな国民生活の実現を図るため、都市公園法(昭和31年法律第79号)第2条第1項第1号に規定する都市公園、農山漁村地域の生活環境の向上に資する特定地区公園(カントリーパーク)の整備等を行う事業をいう。 (2)都市公園安全・安心対策事業(国費率 1/3.1/2) 大規模地震に備えた市街地の防災性の向上や、公園施設の戦略的な機能保全・向上対策による安全性の確保、都市公園の適正な管理による公園利用者の安全・安心の確保や、公園施設に係るトータルコストの低減等、都市公園における安全・安心対策事業を実施し、子どもや高齢者をはじめ誰もが安全で安心して利用できる都市公園の整備等を行う事業をいう。 (3)都市公園ストック再編事業(国費率 1/3.1/2) 地域のニーズを踏まえた新たな利活用や都市の集約化に対応し、地方公共団体における都市公園の機能や配置の再編を図る都市公園の整備を行う事業をいう。 (4)市民農園等整備事業(国費率 1/3.1/2) 良好な都市環境の形成に資する生産緑地等の有する緑地機能の保全活用を図るとともに、健康的でゆとりある国民生活の確保を図る市民農園等の整備を行う事業をいう。 (5)緑地環境事業(国費率 1/3.1/2等) 地球温暖化対策の一層の推進、商店街等の中心市街地の活性化等を図るため、公園緑地の整備、公共公益施設の緑化等を行う事業をいう。 (6)古都保存・緑地保全等事業(国費率 1/3.1/2.5.5/10.7.10) 古都における歴史的風土の保存を図るために、古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法(昭和41年法律第1号)第11条の規定による歴史的風土特別保存地区内の土地の買入れ、損失の補償及び施設の整備等を行うとともに、都市における緑地の保全を図るために、都市緑地法(昭和48年法律第72号)第12条の規定による特別緑地保全地区内等の土地の買入れ、損失の補償及び保全利用施設の整備を行う事業をいう。													
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					都市域における水と緑の公的空間確保量 H24年度 12.8㎡/人 → H32年度 14.1㎡/人							
	26年度	13.0㎡/人	27年度	<small>累計中 (平成29年6月 末頃を目途に)</small>	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	14.1㎡/人
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					一定水準の防災機能を備えるオープンスペースが一箇所以上確保された大都市の割合 H24年度 約76% → H32年度 約89%								
	26年度	約79%	27年度	<small>累計中 (平成29年6月 末頃を目途に)</small>	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	約89%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率(公園) H26年度 77% → H32年度 100%								
	26年度	77%	27年度	<small>累計中 (平成29年6月 末頃を目途に)</small>	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	100%

基幹事業名	市街地整備事業					担当部局庁	都市局					作成責任者		
						担当課室	都市安全課 市街地整備課 街路交通施設課					課長 河野 俊郎 課長 英 直彦 課長 渡邊 浩司		
事業概要	<p>市街地整備事業 土地区画整理事業等の市街地の整備改善に関する事業</p> <p>(1) 都市防災推進事業【国費率1/2等】 わが国の都市構造を安全で安心な都市生活を実現できるものへと再構築するため、市街地の防災性の向上及び被災地の早期復興を図るため行われる、次に掲げる事業をいう。 ① 都市防災総合推進事業 市街地の防災性の向上及び被災地の早期復興を図るため、都市の防災構造化、住民の意識向上、被災地における復興まちづくり等を総合的に推進する事業 ② 宅地耐震化推進事業 大地震時等における大規模盛土造成地の滑動崩落及び宅地の液状化による被害を防止するため、大規模盛土造成地等の変動予測調査及び防止対策を推進する事業 ③ 市街地液状化対策事業 大地震時等における地盤の液状化による公共施設の被害を抑制するため、公共施設と宅地との一体的な液状化対策を推進する事業</p> <p>(2) 市街地再開発事業等【国費率1/3等】 都市構造の再編により都市の再生・再構築を戦略的に進めるため行われる、次に掲げる事業をいう。 都市の再生・再構築を推進するため行われる調査、整備計画の策定、都市基盤施設等の整備並びに面的整備及び拠点形成の促進等に関する事業並びにこれらに附帯する事業 ② 都市再生総合整備事業(拠点整備型) 機能的で魅力ある都市拠点の形成を通じて都市の活力を高め、もって都市の再生・再構築に資するため、基幹的な事業の実施にあわせ、地区計画等を活用して行われる事業又は調査で、次に掲げるもの イ 都市拠点形成支援施設整備事業 ロ 都市拠点形成支援基盤整備促進事業 ハ 都市拠点形成特定事業調査</p> <p>(3) 暮らしにぎわい再生事業【国費率1/3】 都市機能のまちなか立地、空きビルの再生及び多目的広場等の整備並びに関連空間整備及び計画コーディネートに関する事業をいう。</p> <p>(4) 都市再生総合整備事業【国費率1/3等】 都市構造の再編により都市の再生・再構築を戦略的に進めるため行われる、次に掲げる事業をいう。 ① 都市再生総合整備事業(総合整備型) 都市の再生・再構築を推進するため行われる調査、整備計画の策定、都市基盤施設等の整備並びに面的整備及び拠点形成の促進等に関する事業並びにこれらに附帯する事業 ② 都市再生総合整備事業(拠点整備型) 機能的で魅力ある都市拠点の形成を通じて都市の活力を高め、もって都市の再生・再構築に資するため、基幹的な事業の実施にあわせ、地区計画等を活用して行われる事業又は調査で、次に掲げるもの イ 都市拠点形成支援施設整備事業 ロ 都市拠点形成支援基盤整備促進事業 ハ 都市拠点形成特定事業調査</p> <p>(5) 都市再生区画整理事業【国費率1/3等】 防災上危険な密集市街地及び空洞化が進行する中心市街地等都市基盤が脆弱で整備の必要な既成市街地の再生、街区規模が小さく敷地が細分化されている既成市街地における街区再編・整備による都市機能更新並びに被災した市街地の復興等を推進するため行われる都市再生事業計画案作成事業、都市再生土地区画整理事業、被災市街地復興土地区画整理事業及び緊急防災空地整備事業をいう。</p> <p>(6) 都市・地域交通戦略推進事業【国費率1/3、1/2(立地適正化計画に位置付けられた事業)】 徒歩、自転車、自動車、公共交通など多様なモードの連携が図られた、自由通路、地下街、駐車場等の公共的空間や公共交通などからなる都市の交通システムを明確な政策目的に基づいて総合的に整備し、都市交通の円滑化を図るとともに、都市施設整備や土地利用の再編により、都市再生を推進するために行われる都市交通システム整備事業をいう。</p> <p>(7) 津波復興拠点整備事業【国費率1/2】 東日本大震災の津波により被災した地域における復興の拠点となる市街地(津波防災地域づくりに関する法律の「一団地の津波防災拠点市街地形成施設」として都市計画決定されたものに限る。)を緊急に整備するために支援を行う事業をいう。</p> <p>(8) 防災・省エネまちづくり緊急促進事業【国費率3/100等】 防災性能や省エネルギー性能の向上といった緊急的な政策課題に対応した質の高い施設建築物等の整備に関する事業及びこれらに附帯する事業をいう。</p> <p>(9) 集約都市開発支援事業【国費率1/3等】 都市の低炭素化の促進に関する法律(平成24年法律第84号)第2条第2項に規定する低炭素まちづくり計画の区域内で実施される同法第12条に規定する認定集約都市開発事業及び同事業と関連して実施される事業を一体的に支援する事業をいう。</p>													
	事業概要													
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					立地適正化計画を作成する市町村数 H32年 150市町村								
	26年度	0	27年度	1	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	150
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (三大都市圏) H26年度 90.5% → H32年度 90.8%								
	26年度	90.5%	27年度	90.6%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	90.8%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (地方中枢都市圏) H26年度 78.7% → H32年度 81.7%								
	26年度	78.7%	27年度	79.1%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	81.7%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (地方都市圏) H26年度 38.6% → H32年度 41.6%								
	26年度	38.6%	27年度	38.7%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	41.6%

基幹事業名	都市水環境整備事業 (統合河川環境整備事業等)						担当部局庁	水管理・国土保全局				作成責任者		
							担当課室	河川環境課				課長 小俣 篤		
事業概要	<p>都市水環境整備事業 良好な都市の水環境の保全又は創出に関する事業</p> <p>(1) 統合河川環境整備事業【国費率1/2等】 良好な河川環境を保全・復元及び創出することを目的に、 (1)汚濁の著しい河川の水質改善、 (2)魚類の遡上・降下環境の改善、 (3)自然環境が著しく阻害されている河川の自然環境の再生、 (4)河川環境教育の場として、又は地域のまちづくりに係る取組みと一体となって治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を行う事業をいう。</p> <p>その他総合的な治水事業 (1) 総合流域防災事業【国費率1/2】 流域単位を原則として、包括的に水害・土砂災害対策の施設整備等及び災害関連情報の提供等のソフト対策を実施する事業をいう。</p>													
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標						水辺の賑わい創出に向け、水辺とまちが一体となった取組を実施した市区町村の割合 H26年度 25% → H32年度 50%							
	26年度	25%	27年度	29%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	50%



基幹事業名	地域住宅計画に基づく事業		担当部局庁	住宅局	作成責任者								
			担当課室	住宅総合整備課 住宅総合整備課住環境整備室 市街地建築課 市街地建築課市街地住宅整備室	課長 松本 貴久 室長 内田 純夫 課長 淡野 博久 室長 石坂 聡								
事業概要	<p>地域住宅計画に基づく事業 地域における多様な需要に応じた公的賃貸住宅等の整備等に関する特別措置法(平成17年法律第79号。以下「地域住宅法」という。)第6条第1項の地域住宅計画に基づく事業等</p> <p>地域住宅計画に基づく事業【国費率1/2等】 地域住宅計画に基づく地域住宅法第6条第2項第1号及び第2号の事業等をいう。</p> <p>交付対象事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域住宅政策推進事業</li> <li>2. 公営住宅整備事業等</li> <li>3. 住宅地区改良事業等</li> <li>4. 市街地再開発事業</li> <li>5. 優良建築物等整備事業</li> <li>6. 住宅市街地総合整備事業(密集住宅市街地整備型に限る。)</li> <li>7. 都心共同住宅供給事業</li> <li>8. 住宅市街地基盤整備事業</li> <li>9. 住宅・建築物安全ストック形成事業</li> <li>10. 公的賃貸住宅家賃低廉化事業</li> <li>11. 災害公営住宅家賃低廉化事業</li> </ol>												
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標						高齢者施設、障害者施設、子育て支援施設等を併設している100戸以上の規模の公的賃貸住宅団地の割合 H25年度 19% → H32年度 25%						
	26年度	20.1%	27年度	集計中	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度

基幹事業名					担当部局庁	住宅局					作成責任者			
	住環境整備事業				担当課室	住宅総合整備課住環境整備室 建築指導課建築物防災対策室 市街地建築課 市街地建築課市街地住宅整備室					室長 内田 純夫 室長 安藤 恒次 課長 淡野 博久 室長 石坂 聡			
事業概要	<p>住環境整備事業 良好な居住環境の整備に関する事業</p> <p>(1)市街地再開発事業【国費率1/3等】 都市再開発法(昭和44年法律第38号)第2条第1号に規定する市街地再開発事業をいう。</p> <p>(2)優良建築物等整備事業【国費率1/3等】 優良な建築物及びこれと一体的に行われる空地等周辺整備並びにこれらに附帯する事業をいう。</p> <p>(3)市街地総合再生施設整備【国費率1/3】 (1)。(2)の各事業の総合的な推進のために必要な施設整備をいう。</p> <p>(4)基本計画等作成等事業【国費率1/3等】 (1)。(2)。(3)の各事業等の推進のために必要となる基本計画等の作成等を行う事業をいう。</p> <p>(5)暮らし・にぎわい再生事業【国費率1/3等】 都市機能のまちなか立地、空きビルの再生及び多目的広場等の整備並びに関連空間整備及び計画コーディネートに関する事業をいう。</p> <p>(6)バリアフリー環境整備促進事業【国費率1/3】 バリアフリー環境整備計画に従って行われる移動システム等の整備に関する事業及び認定特定建築物の建築に関する事業をいう。</p> <p>(7)都市再生総合整備事業【国費率1/3等】 都市構造の再編により都市の再生・再構築を戦略的に進めるため行われる次に掲げる事業をいう。 ①都市再生総合整備事業(総合整備型) 都市の再生・再構築を推進するために行われる調査、整備計画の策定、都市基盤施設等の整備並びに面的整備及び拠点形成の促進等に関する事業並びにこれらに附帯する事業 ②都市再生総合整備事業(拠点整備型) 機能的で魅力ある都市拠点の形成を通じて都市の活力を高め、もって都市の再生・再構築に資するため、基幹的な事業の実施にあわせ、地区計画等を活用して行われる事業又は調査で、次に掲げるもの イ 都市拠点形成支援施設整備事業、ロ 都市拠点形成支援基盤整備促進事業、ハ 都市拠点形成特定事業調査</p> <p>(8)住宅市街地総合整備事業【国費率1/2等】 住宅等の整備、公共施設の整備等に関する事業及びこれに附帯する事業、都心共同住宅供給事業、防災街区整備事業並びに都市再生住宅等の整備に関する事業をいう。</p> <p>(9)街なみ環境整備事業【国費率1/2等】 協議会活動助成事業、整備方針策定事業、街なみ整備事業及び街なみ整備助成事業並びにこれらに附帯する事業をいう。</p> <p>(10)住宅市街地基盤整備事業【国費率1/2等】 良好な住宅又は宅地の供給を行う計画的な住宅宅地事業及び計画的に開発された良質な住宅団地において行われる住宅ストック改善事業に関連する公共施設の整備等に関する事業等をいう。</p> <p>(11)住宅・建築物安全ストック形成事業【国費率1/3等】 住宅・建築物耐震改修事業、住宅・建築物アスベスト改修事業及びびげけ地近接等危険住宅移転事業をいう。</p> <p>(12)狭あい道路整備等促進事業【国費率1/3等】 狭あい道路情報整備等事業及び狭あい道路拡幅整備事業をいう。</p> <p>(13)都市・地域再生緊急促進事業【国費率1/3等】 建設工事費の高騰により、進捗が停滞している市街地再開発事業等の促進に関する事業をいう。</p> <p>(14)防災・省エネまちづくり緊急促進事業【国費率3/100等】 防災性能や省エネルギー性能の向上といった緊急的な政策課題に対応した質の高い施設建築物等の整備に関する事業及びこれらに附帯する事業をいう。</p> <p>(15)集約都市開発支援事業【国費率1/3等】 低炭素まちづくり計画の区域内で実施される認定集約都市開発事業及び同事業と関連して実施される事業を一体的に支援する事業をいう。</p>													
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標				立地適正化計画を作成する市町村数 H32年 150市町村									
	26年度	0	27年度	1	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	150
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標				公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (三大都市圏) H26年度 90.5% → H32年度 90.8%									
	26年度	90.5%	27年度	90.6%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	90.8%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標				公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (地方中枢都市圏) H26年度 78.7% → H32年度 81.7%									
	26年度	78.7%	27年度	79.1%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	81.7%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標				公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (地方都市圏) H26年度 38.6% → H32年度 41.6%									
	26年度	38.6%	27年度	38.7%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	41.6%

政策	10. 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
施策	37 総合的な国土形成を推進する							
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図る。								
政策	8 都市・地域交通等の快適性、利便性の向上							
施策	28 都市・地域における総合交通戦略を推進する							
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
	公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (三大都市圏)	実績値	%	90.3	90.5	90.6	-	-
		目標値	%	-	-	-	-	90.8
	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
	公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (地方中枢都市圏)	実績値	%	77.7	78.7	79.1	-	-
		目標値	%	-	-	-	-	81.7
	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
	公共交通の利便性の高いエリアに居住している人口割合 (地方都市圏)	実績値	%	38.7	38.6	38.7	-	-
		目標値	%	-	-	-	-	41.6
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
総合的な都市交通システムの整備を通じ、自動車に過度に依存することなく移動できる環境を創出することで、公共交通の利便性の高いエリアに居住を誘導し、環境負荷低減型のコンパクトシティへの展開を図る。								
政策	2 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現							
施策	7 良好で緑豊かな都市空間の形成、歴史的風土の再生等を推進する							
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
	都市域における水と緑の公的空間(制度等により持続性が担保されている自然的環境)確保量	実績値	m <sup>2</sup> /人	12.9	13	-	-	-
		目標値	m <sup>2</sup> /人	-	-	-	-	14.1
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
都市公園法(昭和31年法律第79号)第2条第1項第1号に規定する都市公園、農山漁村地域の生活環境の向上に資する特定地区公園(カントリーパーク)の整備等を行うことで、都市域における水と緑の公的空間(制度等により持続性が担保されている自然的環境)確保量を増加させ、良好で緑豊かな都市空間の形成、歴史的風土の再生等の推進を図る。								

<b>政策</b>	2 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現								
<b>施策</b>	8 良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する								
<b>測定指標</b>	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	32	目標年度 年度
	下水汚泥エネルギー化率	実績値	%	15	15		-		30
		目標値	%	-	-	-	-		-
	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	32	目標年度 年度
	汚水処理人口普及率	実績値	%	89	90		-		96
		目標値	%	-	-	-	-		-
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
下水道事業において、下水汚泥のエネルギー利用を促進する下水道事業や未普及対策への支援を行うことにより、下水汚泥エネルギー化率、汚水処理人口普及率の向上に寄与する。									
<b>政策</b>	2 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現								
<b>施策</b>	8 良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する								
<b>測定指標</b>	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	32	目標年度 年度
	水辺の賑わい創出に向け、水辺とまちが一体となった取組を実施した市区町村の割合	実績値	%	-	25	29		-	-
		目標値	%	-	-	-	-		50
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
都市水環境整備事業において、地域のまちづくりに係る取組と一体となった河川管理施設の整備を支援することにより、水辺の賑わい創出に向け水辺とまちが一体となった取組の推進に寄与する。									
<b>政策</b>	6 国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化								
<b>施策</b>	19 海上物流基盤の強化等総合的な物流体系整備の推進、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保を推進する								
<b>測定指標</b>	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	32	目標年度 年度
	海上貨物輸送コスト低減効果(対H25年度総輸送コスト) (①国内) [H27年度は速報値]	実績値	%減	-	0.1	1		-	-
		目標値	%減	-	-	-	-		3
	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	32	目標年度 年度
	海上貨物輸送コスト低減効果(対H25年度総輸送コスト) (②国際) [H27年度は速報値]	実績値	%減	-	0.6	1.2		-	-
		目標値	%減	-	-	-	-		5
	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	30	目標年度 年度
	国際コンテナ戦略港湾へ寄港する基幹航路の便数(② 欧州基幹航路)	実績値	便/週	-	2	2		-	-
		目標値	便/週	-	-	-	-		3

定量的指標			単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
全国の港湾からクルーズ船で入国する外国人旅客数	実績値	万人	-	41.6	111.6	-	-	-
	目標値	万人	-	-	-	-	-	100
定性的指標		目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)				
国際コンテナ戦略港湾へ寄港する基幹航路の便数(①北米基幹航路)	デイリー寄港を維持・拡大	30	デイリー寄港を維持・拡大(平成30年度)					
			施策の進捗状況(実績)					
			デイリー寄港を維持(平成27年度)					
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
港湾施設の建設又は改良の工事に対して支援することにより、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保の推進に寄与する								
政策	6 国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化							
施策	22 国際競争力・地域の自立等を強化する道路ネットワークを形成する							
定量的指標			単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
測定指標	道路による都市間速達性の確保率※ (※主要都市等を結ぶ都市間リンクのうち都市間連絡速度(都市間の最短道路距離を最短所要時間で除したものの)60km/hが確保されている割合) (平成27年度の成果実績については集計中)	実績値	%	49	51	-	-	-
		目標値	%	-	-	-	-	55
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
地方公共団体が行う道路事業への支援により、道路による都市間速達性の確保率の向上に寄与する。								
政策	7 都市再生・地域再生の推進							
施策	25 都市再生・地域再生を推進する							
定量的指標			単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
測定指標	立地適正化計画に位置づけられた誘導施設について、市町村全域に存する当該施設数に対して、都市機能誘導区域内に立地する当該施設数の占める割合が増加している市町村数	実績値	市町村数	-	-	-	-	100
		目標値	%	-	-	-	-	-
定量的指標			単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
測定指標	市町村の全人口に対して、居住誘導区域内に居住している人口の占める割合が増加している市町村数	実績値	市町村数	-	-	-	-	100
		目標値	%	-	-	-	-	-
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
都市機能の立地誘導を通じて、市町村等によるコンパクトシティの取組を促進し、立地適正化計画の具体化を図る。								

政策	8 都市・地域交通等の快適性、利便性の向上							
	施策 29 道路交通の円滑化を推進する							
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
	踏切遮断による損失時間	実績値	万人・時 /日	123	122	-	-	-
		目標値	万人・時 /日	-	-	-	-	117
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
地方公共団体が行う道路事業への支援により、踏切遮断による損失時間の減少に寄与する。								

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>		防災・安全交付金		<b>担当部局庁</b>	大臣官房			<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成24年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	社会資本整備総合交付金等総合調整室			室長 榊 真一		
<b>会計区分</b>	一般会計									
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	都市公園法、河川法、海岸法、下水道法、道路法、港湾法等			<b>関係する計画、通知等</b>	社会資本整備重点計画					
<b>主要政策・施策</b>	国土強靱化施策			<b>主要経費</b>	公共事業					
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	防災・安全交付金は、地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、国民の命と暮らしを守るインフラの再構築及び生活空間の安全確保が図られることを目的とする。									
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	<p>命と暮らしを守るインフラ再構築又は生活空間の安全確保を実現するため、地方公共団体が作成した社会資本総合整備計画(防災・安全交付金)(以下、「社会資本総合整備計画」という。)に基づく次の取組について、政策目的の実現のための基幹的な社会資本整備事業のほか、関連する社会資本整備や効果促進事業等を総合的・一体的に支援。【基幹事業ごとの事業概要は別紙1参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 計画期間 3～5年</li> <li>※ 地方公共団体が単独で、又は共同して社会資本総合整備計画を策定</li> <li>※ 地域の防災性・安全性の向上を測るためのアウトカム指標を掲げる。</li> </ul> <p>・ 地域住民の命と暮らしを守る総合的な老朽化対策及び事前防災・減災対策の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 老朽化したインフラの長寿命化など計画的・戦略的な維持管理の取組み、地震・津波や頻発する風水害・土砂災害に対する事前防災・減災対策、公共施設の耐震化等による安全性向上、密集市街地等の防災性の向上、防災公園の整備等</li> </ul> <p>・ 地域における総合的な生活空間の安全確保の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 通学路の交通安全対策、道路の無電柱化、歩道・公園施設等の公共空間のバリアフリー化等</li> </ul> <p>・ 効果促進事業の活用による効果的な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ ハザードマップ作成、避難計画策定、避難訓練等</li> </ul>									
<b>実施方法</b>	交付									
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求				
	予算の状況	当初予算	997,024	1,033,031	1,042,612	1,047,922	1,232,564			
		補正予算	178,850	48,964	96,884	-				
		前年度から繰越し	500,344	582,418	409,843	402,997				
		翌年度へ繰越し	▲ 582,418	▲ 409,843	▲ 402,997					
		予備費等	-	-	-					
	計	1,093,800	1,254,570	1,146,342	1,450,919	1,232,564				
執行額	1,069,847	1,243,849	1,142,974							
執行率 (%)	98%	99%	100%							
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	全ての社会資本総合整備計画について、成果目標を達成する	社会資本総合整備計画中の成果目標の達成度(%) (全国ベース)	成果実績	%	87	88	85	-	-	
			目標値	%	100	100	100	-	-	
			達成度	%	87	88	85	-	-	
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	社会資本総合整備計画数 (全国ベース)		活動実績	計画	1,471	1,570	1,786	-		
			当初見込み	-	-	-	-	-		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	当該年度の当初配分額(全国ベース) / 当該年度に社会資本整備総合交付金が当初配分された計画数(全国ベース)		単位当たりコスト	百万円	701.8	683.3	607.5	-		
			計算式	百万円 / 計画数	1,032,407 / 1,471	1,072,746 / 1,570	1,085,066 / 1,786	-		
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由						
	交付金事業	1,047,922	1,232,564	「新しい日本のための優先課題推進枠」293,783						
	計	1,047,922	1,232,564							

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策評価		政策	別紙2参照							
	政策評価		施策	別紙2参照							
	政策評価		測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 年度	目標年度 年度
	政策評価			別紙2参照	実績値		-	-	-	-	-
	政策評価			別紙2参照	目標値		-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	別紙2参照										
	改革項目		分野:	社会資本整備等	②地方公共団体による公共施設等総合管理計画の策定促進と、ストック適正化に向けた国の積極的な役割						
	改革項目		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 26年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 32年度
	改革項目			個別施設(道路、公園など各施設)ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率【目標:2020年度末までに100%】	成果実績	%	別紙政策評価欄	別紙政策評価欄	-	-	-
改革項目		個別施設(道路、公園など各施設)ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率【目標:2020年度末までに100%】		目標値	%	-	-	-	-	100	
改革項目		個別施設(道路、公園など各施設)ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率【目標:2020年度末までに100%】		達成度	%	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
防災・安全交付金により、長寿命化計画の策定支援及び老朽化対策に係る長寿命化計画の要件化を通じ、長寿命化計画の策定を促進。											



事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	社会資本整備重点計画で掲げる重点目標と関連する事業を支援するとともに、笹子トンネル天井崩落事故、インフラ長寿命化計画の策定などの社会情勢等の変化に合わせて、交付金制度の見直しや交付金の重点配分を行ってきた。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は地方公共団体等の社会資本の整備等の取組を支援するものであることから、国が行う必要がある。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は地方公共団体等の社会資本の整備等を通じ、経済基盤の強化、都市環境の改善等を図るものであり、平成28年度より、社会資本重点整備計画等のKPI・指標と連動する重点配分対象を設定し、当該対象事業に対して重点的に交付金を配分する取組を始めており、優先度の高い分野の取組を促進している。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-		
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	国と地方公共団体等とは関係法令等に定められた妥当な負担関係を適用したもとなっている。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	地方公共団体等が作成する計画に基づき行う社会資本の整備等のために必要な経費について交付金を配分しており、単位当たりコストは妥当である。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	地方公共団体等が作成する計画に基づき行う社会資本の整備等であって、交付要綱に定める事業に限定している。また、平成27年度より効果促進事業の使途の見直しを行ったところ。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	平成28年度より、限られた予算を効率的に配分するため、社会資本重点整備計画等のKPI・指標と連動した重点配分対象を設定し、重点的に交付金を配分する取組を進めているところ。		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果目標には地方公共団体が設定した計画内の成果目標の達成度を設定しており、地方公共団体が策定した計画に基づく事業を支援する本事業の趣旨に鑑み、適切な指標となっている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	計画内の成果目標を概ね達成できている状況であり、整備された施設等が十分活用されているものと考えられる。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金、社会資本整備総合交付金(全国防災)及び社会資本整備総合交付金(復興)との役割分担については、被災地域の復興等のための事業等にあつては社会資本整備総合交付金(復興)により、東日本大震災を教訓として、全国的に緊急に実施する必要性が高く、即効性のある防災・減災等のための事業にあつては社会資本整備総合交付金(全国防災)により、「命と暮らしを守るインフラ再構築」、「生活空間の安全確保」に対する集中的支援にあつては防災・安全交付金により、成長力強化や地域活性化等につながる事業にあつては社会資本整備総合交付金により支援しており、それぞれ適切な役割分担となっている。	
	所管府省・部局名	事業番号		事業名
	国土交通省大臣官房社会資本整備総合交付金等総合調整室	385		社会資本整備総合交付金
	国土交通省大臣官房社会資本整備総合交付金等総合調整室	387		社会資本整備総合交付金(全国防災)(H27年度で終了)
復興庁統括官付参事官	196	社会資本整備総合交付金(復興)		
点検・改善結果	点検結果	平成28年度については、経済・財政再生計画、財政制度等審議会等の指摘も踏まえ、B/Cの算出要件化、不用率・未契約繰越率の把握、公表等の制度の見直しを行ってきた。また、地方公共団体からの要望に対する交付金の措置率が低下していることを踏まえ、重点配分対象を明確にし、真に必要な事業・計画に十分な交付金が充てられるよう取組をはじめたところ。平成29年度においても、限られた予算を効率的に使用する観点から、優先度の高い事業・計画に対して十分な支援ができるよう、引き続き必要な改善策を検討し、講じるべきである。また、事業の重要性に比して地方公共団体の利用が僅少な事業が一部見られることから、その要因を分析すべきである。		
	改善の方向性	優先度の高い事業・計画に対して十分な支援ができるよう必要な改善策を検討し、予算の重点化を図る。		

外部有識者の所見

防災・安全交付金については、真に必要な事業・計画に交付金があてられているか、本当に地方公共団体の計画に問題がないのか、特に費用対効果がないものに漫然と地方公共団体が交付金を利用していないかなどをしっかりと精査することが必須と考える。平成28年度より進めている運用の改善に向けた効果が着実に発現するよう、平成29年度以降、地方公共団体と連携しつつ、取組を本格化させられたい。なお、「事業の重要性に比して地方公共団体の利用が僅少な事業が一部みられる」とのことであり、例えば、「宅地耐震化推進事業(宅地液化化防止事業)」などは、事業として重要であるにも関わらず地方公共団体からの利用が僅少な事業に該当すると思われるが、結局、これも対象事業の重要度にメリハリがつかっていないことの証左とも言え、地域住民も巻き込んだ事業の重要性についての啓蒙が足りていないのではないかと、災害復興や事後の対応だけでなく、事前の防災・安全が極めて重要であることについての危機意識が各地で醸成されていないため、地方公共団体からのイニシアティブが取られていない可能性があるのではないかと、と思料されることから、地方公共団体と事業の重要性の共通認識を持つよう、取組を講じられたい。

行政事業レビュー推進チームの所見

事業内容の改善

地方公共団体からの要望に対する交付金の措置率が低下していることに鑑み、真に必要な事業・計画に十分な交付金が充てられるよう引き続き必要な改善策を検討し、講じるべき。  
また、宅地耐震化推進事業など、事業の重要性に比して地方公共団体の利用が僅少な事業について、その要因を分析した上で、事業の周知等、改善策を講じるべき。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執行等改善

平成28年度より、真に必要な計画への重点配分、事業の効率性の明確化、住民等への説明責任の向上等の諸課題に対応するため、重点配分対象の明確化、一定の線引きを行った上での費用対効果(B/C)の算出の要件化、不用率・未契約繰越率の把握・公表、整備計画の事前評価・事後評価の公表の徹底など、制度の運用改善の取組を開始しているところ。上記の所見を踏まえ、平成29年度より、地方公共団体との連携を図りつつ、交付金事業のより効果的・適切な執行が図られるよう取組の本格化を図る。  
また、宅地耐震化推進事業については、事業の重要性に比して地方公共団体の利用が僅少な状況に鑑み、その要因の把握・分析、地方公共団体等への予防的対策の必要性の周知徹底など必要な改善策を講じる。

備考

政策評価において北海道・離島振興は別の政策体系となっており、政策評価との連携をとるため、予算額・執行額及び予算内訳に関しては重複を避けるため、内地的のみ計上している。その他成果実績等に関しては、全国ベースでの分析をしている。

<秋の年次公開検証(秋のレビュー)等の行政改革推進会議による指摘、会計検査院の検査報告、総務省の政策評価、行政評価・監視結果、財務省の予算執行調査結果等の主な指摘及びそれに対する対応>

【平成25年秋のレビュー】

- 主な指摘 資源の配分を老朽化対策に重点化すべきではないか。
- 対応 地方公共団体の社会資本整備を支援する交付金を防災・安全交付金に重点化

【平成26年財務省予算執行調査】

- 主な指摘 効果促進事業の対象事業について抜本的な見直しが必要ではないか。
- 対応 三位一体改革で税源移譲されたもの等について効果促進事業の対象から除外

【会計検査院国会報告(平成28年2月)】

- 主な指摘 地方公共団体において整備計画に係る評価を実施していない等の事態が見受けられた
- 対応 地方公共団体に対して要綱等の規定を周知するとともに、整備計画に係る評価を適切に実施するよう通知

<概算要求額が300億円を超える事業につき1シートにより作成する理由及び国民へのわかりやすさを担保するために行った作成上の工夫>  
社会資本整備総合交付金は、国から配分された交付金の使途は地方公共団体の裁量に委ねられており、予算段階で事業ごとの予算は明らかにならないため、レビューシートを分割することは困難。  
事業内容等をよりわかりやすくするため、交付金の交付対象事業ごとに別紙を作成し、事業概要及び関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標を記載している。

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	0001	平成24年度	0001	
平成25年度	359	平成26年度	348	平成27年度	366	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省  
1,085.067百万円

社会資本総合整備計画  
単位の配分

【補助】

A.地方公共団体等  
1,085.067百万円

交付金事業（基幹事業、  
関連社会資本整備事業、  
効果促進事業）の実施

<東京都の場合>

東京都区部公共下水道事  
業整備計画(防災・安全)  
32,750百万円

<事業費内訳>

工事費	
本工事費	77,803百万円
測量設計費	1,192百万円
合計	78,995百万円

<交付決定ベース>

※交付決定ベースであるため、合計額が社会  
資本総合整備計画ごとの金額とは一致しない。

資金の流れ  
(資金の受け取  
り先が何を行っ  
ているかについ  
て補足する)  
(単位:百万  
円)



支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	東京都	8000020130001	東京都区部公共下水道事業整備計画(防災・安全)他	108,452	-			
2	北海道	7000020010006	防災・安全を支える道路ネットワーク強化 他	66,931	-			
3	大阪府	4000020270008	大阪市下水道・河川総合整備計画(防災・安全) 他	59,601	-			
4	福岡県	6000020400009	福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現(防災・安全) 他	44,151	-			
5	神奈川県	1000020140007	横浜市における安全・安心のまちづくり(防災・安全)その2 他	42,843	-			
6	愛知県	1000020230006	名古屋市下水道整備計画(防災・安全) 他	41,556	-			
7	兵庫県	8000020280003	頻発する自然災害に対する安全・安心の確保(防災・安全) 他	40,089	-			
8	新潟県	5000020150002	雪や災害に強く安全・安心に暮らせる地域づくり(防災・安全) 他	38,380	-			
9	静岡県	7000020220001	ふじのくに静岡県の道路構造物(橋梁・トンネル)の適確な維持管理の推進 他	31,422	-			
10	埼玉県	1000020110001	埼玉県流域下水道整備計画(防災・安全) 他	25,222	-			

基幹事業名	道路事業					担当部局庁	道路局、都市局					作成責任者		
						担当課室	環境安全課、街路交通施設課 等					課長	森山 誠二	課長
事業概要	道路事業 一般国道、都道府県道又は市町村道の新設、改築、修繕等に関する事業  (1)道路事業【国費率1/2等】 地方公共団体が行う道路の新設、改築、修繕又は維持(除雪に係る事業又は降灰の除去事業に限る。)に関する事業のうち防災・安全対策のために特に必要と認められる事業をいう。													
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					通学路における歩道等の整備率 H25年度54% → H32年度65%								
	26年度	55	27年度	56	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	65
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					踏切事故件数 H27年比約1割減(H32年)								
	26年度	254	27年度	242	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	218

基幹事業名	港湾事業					担当部局庁	港湾局					作成責任者		
						担当課室	計画課					課長 宮崎 祥一		
事業概要	<p>港湾事業 港湾施設の建設又は改良に関する事業及びこれらの事業以外の事業で港湾その他の海域における汚濁水の浄化その他の公害防止のために行う事業のうち防災・安全対策のために必要と認められる事業。</p> <p>(1)港湾改修事業【国費率 5/10、4/10、1/3 等】 一般公衆の利用に供することを目的として、以下の①～⑤に掲げる港湾施設の建設又は改良を行う事業のうち防災・安全対策のために特に必要と認められる事業。ただし、⑤に掲げる施設のみ建設又は改良を行う事業及び水深7.5m以上の係留施設と一体で整備される港湾施設の建設又は改良を行う事業を除く。 ①港湾法第2条第5項第1号に規定する水域施設 ②港湾法第2条第5項第2号に規定する外郭施設 ③港湾法第2条第5項第3号に規定する係留施設 ④港湾法第2条第5項第4号に規定する臨港交通施設 ⑤港湾法第2条第5項第11号に規定する港湾施設用地</p> <p>(2)港湾施設長寿命化計画策定事業【国費率 1/3】 老朽化が進む港湾施設の必要な機能を維持しつつ、将来の改良・更新コストの抑制を図るため、地方公共団体等が自ら所有する係留施設、外郭施設(防波堤に限る。)及び臨港交通施設の長寿命化を目的とした維持管理計画を策定するもののうち、防災・安全対策のために特に必要と認められる事業。(平成29年度までの時限措置)</p> <p>(3)緑地等施設整備事業【国費率 緑地5/10、用地1/3】 臨港地区就業者のための快適な就労環境の確保や港湾を訪れる市民等に開かれたウォーターフロントの形成を図るとともに、震災時において避難地・防波堤点として機能するオープンスペースの確保を図るため、港湾法第2条第5項第9の3号に規定する港湾環境整備施設の建設又は改良を行う事業のうち防災・安全対策のために特に必要と認められる事業。ただし、レクリエーションに関する施設の整備事業を除く。</p> <p>(4)海域環境創造・自然再生等事業【国費率 水質浄化施設5/10、施設改良4/10、沈廃船等処理1/3 等】 海域の環境改善及び適正な港湾利用を図るために行う、以下の①～③に掲げる事業のうち防災・安全対策のために特に必要と認められる事業。 ①海浜・水質浄化施設 港湾区域における汚泥上への覆砂、海浜及び当該施設を構成するために必要な突堤及び離岸堤の整備、水質浄化施設の整備 ②施設改良 水質・底質の改善を図るための外郭施設、係留施設等の改良 ③沈廃船等処理 沈廃船:港湾法第37条の3に規定する禁止行為に係る公示をした港湾及びその他適切な規制を講じている港湾において、みだりに捨て又は放置されている所有者不明の船舶の処理 放置座礁船:船舶所有者等に代わり、やむを得ず行う放置座礁船の処理</p>													
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率 港湾:平成26年度97% → 平成29年度100%							
	26年度	97%	27年度	97%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	100%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					災害時における海上からの緊急物資等の輸送体制がハード・ソフト一体として構築されている港湾(重要港湾以上)の割合 H26年度31% → H32年度80%								
	26年度	31%	27年度	45%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	80%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					全国の港湾からクルーズ船で入国する外国人の旅客数 H26年41.6万人 → H32年500万人								
	26年度	41.6万人	27年度	111.6万人	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	500万人

基幹事業名	河川事業、その他総合的な治水事業（河川）					担当部局庁	水管理・国土保全局					作成責任者		
						担当課室	治水課 河川環境課					課長 泊 宏 課長 小俣 篤		
事業概要	<p>河川事業 一級河川、二級河川又は準用河川の改良に関する事業</p> <p>(1) 広域河川改修事業【国費率1/2】 河川改修事業の実施において、水系、大支川等を単位として、水系一貫した計画的な整備を図るとともに、規模の大きい事業に限定し、また重点整備箇所を設けて整備を実施する事業をいう。</p> <p>(2) 施設機能向上事業【国費率1/2】 河川改修事業のうち、同一の洪水氾濫域を有する区間において、計画的に既存の河川管理施設の機能向上を図るとともに、重点的に整備を実施する事業をいう。</p> <p>(3) 地震・高潮対策河川事業【国費率1/2】 津波・高潮対策、耐震対策、地盤沈下対策や街地再開発事業等の他の事業と一体となった河川整備等を実施する事業をいう。</p> <p>(4) 特定地域堤防機能高度化事業【国費率1/3】 河川の改良工事と沿川の再開発事業等が一体的に実施される場合に、再開発事業等部分の盛土を実施する事業をいう。</p> <p>(5) 都市基盤河川改修事業【国費率1/3】 河川法(昭和39年法律第167号)第16条の3に基づき、河川管理者との協議により市が事業主体となって改良工事を実施する事業をいう。</p> <p>(6) 流域治水対策河川事業【国費率1/2】 地球温暖化に伴って激化する集中豪雨に対して、河道の整備と併せて流域対策の更なる充実を図るため、流域対策と一体となって河川整備を実施する事業をいう。</p> <p>(7) 調節池整備事業【国費率1/2】 人口が集中する区域や、大規模な開発が実施される区域等において、計画高水流量を低減する調節池の整備を実施する事業をいう。</p> <p>(8) 流域貯留浸透事業【国費率1/3】 近年、局地的豪雨の頻発により浸水被害が多発していることを踏まえ、流域における保水・遊水機能を計画的に確保するため貯留浸透施設の設置を実施する事業をいう。</p> <p>(9) 総合治水対策特定河川事業【国費率1/2】 都市及び都市周辺地域の開発の進行に伴う人口の集中、洪水時の河川への流出量の増大等により、治水安全度の低下が顕著である河川において、流域抑制策を講じるとともに、河川の治水機能を向上させるための整備を実施する事業をいう。</p> <p>(10) 土地利用一体型水防災事業【国費率1/2】 土地利用状況等を考慮し、連続堤で整備する場合に比して効率的かつ効果的である場合において、輪中堤の築造や宅地の嵩上げ、河川沿いの小堤の設置、浸水防止施設、貯留施設の整備等を実施する事業をいう。</p> <p>(11) 総合内水対策緊急事業【国費率1/2】 内水により浸水被害が生ずるおそれがある河川において、排水機場、調節池、その他関連する雨水排水対策施設の整備等のハード対策及び流域における流出抑制、被害軽減等を図るソフト対策を河川管理者と地方公共団体等が連携して実施する事業をいう。</p> <p>(12) 河川・下水道一体型豪雨対策事業【国費率1/2】 外水氾濫対策を受け持つ洪水調節施設と内水氾濫対策を受け持つ下水道を出水特性や規模に応じて融通利用し、一体的な運用を推進する事業をいう。</p> <p>(13) 大規模河川管理施設機能確保事業【国費率1/2】 供用期間が耐用年数を超過し、老朽化が著しい、又は施設の機能に著しい障害が生じている大規模な河川管理施設の改築を実施する事業をいう。</p> <p>(14) 特定構造物改築事業【国費率1/2】 今後、増大する河川管理施設の更新事業費に対して、ライフサイクルコストの最小化を図るため、長寿命化計画の策定、延命化措置及び改築を一体的に実施する事業をいう。</p> <p>(15) 応急対策事業【国費率1/2】 河川工作物の付属施設又は関連施設の構造が不十分若しくは適当でないため、又は、長期間の供用により老朽化が著しいため、前後の一連区間の治水機能に比較して、その周辺の治水機能が劣っているものについて応急的な改良及び新增設の改善措置を実施する事業をいう。</p> <p>(16) 堰堤改良事業【国費率1/2】 都道府県が管理しているダムにおいて、その効用の継続的な発現のため、ダム本体、放流施設、貯留池等の大規模かつ緊急性の高い改良を行うことにより、ダムの機能の回復又は向上を図ることを目的とする。</p> <p>その他総合的な治水事業 (1) 総合流域防災事業【国費率1/2（準用河川改修事業、雨水貯留事業、浄化事業、洪水氾濫域減災対策事業は1/3）】 流域単位を原則として、包括的に水害・土砂災害対策の施設整備等及び災害関連情報の提供等のソフト対策を実施する事業(統合河川環境整備事業の要件に該当する河川環境整備事業にあつては、防災・安全対策のために特に必要と認められる事業に限る。)をいう。</p>													
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					人口・資産集積地区等における河川整備計画目標相当の洪水に対する河川の整備率及び下水道による都市浸水対策達成率 (河川整備率(県管理)) H26年度 約55% → H32年度 約60%							
	26年度	54.7%	27年度	55.3%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	60%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					過去10年に床上浸水被害を受けた家屋のうち未だ浸水のおそれのある家屋数 H26年度 約6.5万戸 → H32年度 約4.4万戸								
	26年度	6.5万戸	27年度	6.1万戸	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	4.4万戸



関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における河川堤防・海岸堤防等の整備率(計画高までの整備と耐震化)及び水門・樋門等の耐震化率 (河川堤防) H26年度 約37% → H32年度 約75%								
	26年度	37%	27年度	42%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	75%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における河川堤防・海岸堤防等の整備率(計画高までの整備と耐震化)及び水門・樋門等の耐震化率 (水門・樋門等) H26年度 約32% → H32年度 約77%								
	26年度	32%	27年度	37%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	77%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における、水門・樋門等の自動化・遠隔操作化率 (河川) H26年度 約40% → H32年度 約78%								
	26年度	40%	27年度	42%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	78%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					人口・資産集積地域等の流域貯留施設の貯留量 H26年度 約72万 <sup>3</sup> → H32年度 約97万 <sup>3</sup>								
	26年度	72万 <sup>3</sup>	27年度	76万 <sup>3</sup>	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	97万 <sup>3</sup>
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率 河川 H26年度 83% → H32年度 100% [地方公共団体]								
	26年度	83%	27年度	84%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	100%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率 ダム H26年度 28% → H32年度 100% [地方公共団体]								
	26年度	28%	27年度	37%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	100%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					最大クラスの洪水・内水に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識向上につながる訓練(机上訓練、情報伝達訓練等)を実施した市区町村の割合 (洪水) H26年度 - → H32年度 100%								
	26年度	-	27年度	0%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	100%

基幹事業名	砂防事業、地すべり対策事業、急傾斜地崩壊対策事業、 その他総合的な治水事業（砂防）					担当部局庁	水管理・国土保全局					作成責任者			
						担当課室	砂防計画課					課長 栗原 淳一			
事業概要	<p>砂防事業 砂防工事に関する事業</p> <p>(1)通常砂防事業【国費率1/2】 砂防堰堤、床固工群等の砂防設備の整備及び必要に応じた除石工事を実施する事業をいう。</p> <p>(2)火山砂防事業【国費率5.5/10】 火山地、火山麓地又は火山現象により著しい被害を受けるおそれがある地域において、土石流、溶岩流、火山泥流等に対する砂防堰堤、遊砂地、導流堤及び床固工群等の砂防設備の整備(必要に応じた除石工事及び土石流の衝撃力に対して必要な当該砂防設備の改良工事を含む。)を実施する事業をいう。</p> <p>(3)火山噴火緊急減災対策事業【国費率1/2】 火山地域における住民の安全確保及び火山噴火時等の緊急的な減災対策を迅速かつ確に実施するため、異常な土砂の動き等を監視し情報伝達するために必要なワイヤーセンサー、雨量計、監視カメラ等の設置や、火山噴火緊急減災対策砂防計画に基づく緊急対策用資材の製作・配備を実施する事業をいう。</p> <p>地すべり対策事業 国土交通大臣が指定する地すべり防止区域等における地すべり防止工事に関する事業</p> <p>(1)地すべり対策事業【国費率1/2】 国土交通大臣が指定する地すべり防止区域等において、排水施設、擁壁その他の地すべり防止施設等を新設し、又は改良する事業、その他地すべり等を防止するために実施する事業をいう。</p> <p>急傾斜地崩壊対策事業 急傾斜地崩壊防止工事に関する事業</p> <p>(1)急傾斜地崩壊対策事業【国費率1/2】 急傾斜地崩壊危険区域内の自然がけに対し、急傾斜地の所有者等が崩壊防止工事を行うことが困難又は不適当な場合、擁壁工、排水工及び法面工等急傾斜地崩壊防止施設の設置その他急傾斜地の崩壊を防止する工事を実施する事業をいう。</p> <p>その他総合的な治水事業 (1)総合流域防災事業 流域単位を原則として、包括的に水害・土砂災害対策の施設整備等及び災害関連情報の提供等のソフト対策を実施する事業(総合河川環境整備事業の要件に該当する河川環境整備事業にあっては、防災・安全対策のために特に必要と認められる事業に限る。)をいう。 1)砂防事業【国費率1/2】 ① 砂防事業 ② 地すべり対策事業 ③ 急傾斜地崩壊対策事業 ④ 雪崩対策事業 ⑤ 砂防設備等緊急改築事業 ⑥ 急傾斜地崩壊防止施設緊急改築事業 2)情報基盤総合整備事業【国費率1/2】 ① 情報基盤整備事業 ② 土砂災害情報共有システム備事業 ③ 河川等情報基盤総合整備全体計画 3)砂防基礎調査・急傾斜地基礎調査【国費率1/3】 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(平成12年法律第57号)に規定する土砂災害の防止のための対策の推進に関する基本的な指針に基づき、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定その他同法に基づき行われる土砂災害防止対策のための調査が必要な区域において実施する急傾斜地の崩壊、土石流、地すべりのおそれがある土地に関する地形、地質、降水等の状況及び土砂災害のおそれがある土地の利用の状況その他の事項に関する調査</p>														
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					要配慮者利用施設・防災拠点を保全し、人命を守る土砂災害対策実施率 H26年度 約37% → H32年度 約41%								
		26年度	37%	27年度	38%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	41%
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					重要交通網にかかる箇所における土砂災害対策実施率 H26年度 約49% → H32年度 約54%								
	26年度	49%	27年度	50%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	54%	
関連する社会資本重点整備計画等のKPI・指標	KPI・指標					土砂災害警戒区域等に関する基礎調査結果の公表及び区域指定数 (公表) H26年度 約42万区域 → H31年度 約65万区域									
	26年度	42万区域	27年度	48万区域	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	65万区域	32年度	-	
関連する社会資本重点整備計画等のKPI・指標	KPI・指標					土砂災害警戒区域等に関する基礎調査結果の公表及び区域指定数 (指定) H26年度 約40万区域 → H32年度 約63万区域									
	26年度	40万区域	27年度	44万区域	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	63万区域	

<b>関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標</b>	<b>KPI・指標</b>					個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率 砂防 H26年度 30% → H32年度 100% [地方公共団体]								
	26年度	30%	27年度	45%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	100%

基幹事業名	下水道事業 (都市水環境整備事業を含む)					担当部局庁	水管理・国土保全局					作成責任者		
						担当課室	下水道部 下水道事業課					課長 加藤 裕之		
事業概要	下水道事業 下水道法(昭和33年法律第79号)第2条第3号の公共下水道、同条第4号の流域下水道又は同条第5号の都市下水路の設置又は改築に関する事業等 (1) 通常の下水道事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 公共下水道、流域下水道又は都市下水路の設置又は改築に関する事業で、下水道法施行令(昭和34年政令第147号)第24条の2に定めるものを対象とした事業(ただし、下水道法施行令第24条の2第1項第1号及び第2号並びに第2項の規定に基づき定める件(昭和46年建設省告示第1705号)第6項第4号から第8号までに係るものを除く。)をいう。 (2) 下水道浸水被害軽減総合事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 主要なターミナル駅の周辺地区に代表される都市機能が集積しており浸水実績がある地区、床上浸水被害が発生した地区、河川と下水道等が集中的な対策を実施するため共同して計画を策定した地区、内水浸水により一定規模の浸水が想定される地区等の浸水被害の軽減、最小化及び解消を目的として、再度災害防止や事前防災・減災の観点等から、他事業と連携した流出抑制施策やハード対策に加えて地域住民等による自助取組の促進策及び効果的に自助取組を導くためのソフト対策を組み合わせて浸水対策を実施する事業をいう。 (3) 効率的雨水管理支援事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 行政と住民等が連携して効率的な浸水対策を図る地域において、浸水リスクに応じたきめこまやかな目標設定と、迅速かつ経済的な浸水対策を推進する事業をいう。 (4) 下水道総合地震対策事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水道の地震による被災が市民生活や公衆衛生等に重大な影響を及ぼすことに鑑み、大規模地震対策特別措置法(昭和53年法律第73号)に基づく地震防災対策強化地域、水道水源地域等において、地震に対する安全度を早急に高め、安心した都市活動が継続されることを目的として、地震時に下水道が最低限有すべき機能を確保するための施設の耐震化及び被災した場合の下水道機能のバックアップ対策を併せて進める事業をいう。 (5) 合流式下水道緊急改善事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 合流式下水道を採用している地方公共団体において、公共用水域の水質保全等に資することを目的として、合流式下水道の改善を緊急的に実施する事業をいう。 (6) 都市水害対策共同事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 効率的な浸水対策を推進することを目的として、内水氾濫対策を受け持つ下水道と洪水氾濫対策を受け持つ河川が連携・共同し、相互の施設をネットワーク化し、出水特性や規模に応じて融通利用を実施する事業をいう。 (7) 下水道ストックマネジメント支援制度【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水道施設の持続的な機能確保及びライフサイクルコストの低減を図ることを目的として、下水道施設全体を一体的に捉えた「下水道ストックマネジメント計画」を策定し、当該計画に基づき、計画的な点検・調査及び長寿命化を含めた改築等を行う事業をいう。 (8) 下水道長寿命化支援制度【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 事故の未然防止及びライフサイクルコストの最小化を図ることを目的として、下水道施設の健全度に関する点検・調査結果に基づき、「長寿命化対策」に係る計画を策定し、当該計画に基づき、予防保全的な管理を行うとともに、長寿命化を含めた計画的な改築等を行う事業をいう。 (9) 流域下水汚泥処理事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 下水汚泥の適正な処理処分及び資源化再利用の促進に資することを目的として、流域下水道と公共下水道が一体となって下水汚泥の広域処理を流域下水道管理者である都道府県が実施する事業をいう。 (10) 新世代下水道支援事業制度【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 良好な水循環の維持・回復、リサイクル社会構築への貢献、情報化社会への対応等、下水道に求められている新たな役割を積極的に果たしていくことを目的として実施する事業をいう。  都市水環境整備事業 良好な都市の水環境の保全又は創出に関する事業  (1) 都市水環境整備下水道事業【国費率1/2、2/3、5.5/10等】 良好な都市水環境の保全・創出を図るため、河川事業等との連携を図りつつ実施する下水道事業をいう。													
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					災害時における主要な管渠及び下水処理場の機能確保率 (管渠)H26年度 約46% → H32年度 約60%							
		26年度	46%	27年度	47%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					災害時における主要な管渠及び下水処理場の機能確保率 (下水処理場)H26年度 約32% → H32年度 約40%							
		26年度	32%	27年度	35%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					人口・資産集積地区等における河川整備計画目標相当の洪水に対する河川の整備率及び下水道による都市浸水対策達成率 (下水道による都市浸水対策達成率) H26年度 約56% → H32年度 約62%							
		26年度	56%	27年度	57%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度

基幹事業名	海岸事業					担当部局庁	水管理・国土保全局 港湾局	作成責任者						
						担当課室	海岸室 海岸・防災課	室長 内藤 正彦 課長 村岡 猛						
事業概要	<p>海岸事業 海岸保全施設の新設又は改良に関する事業及び海岸環境の整備に関する事業</p> <p>(1)高潮対策事業【国費率1/2】 高潮、波浪、津波等により被害が発生するおそれのある地域について、堤防・護岸・離岸堤・突堤等の海岸保全施設の新設又は改良を実施する事業をいう。</p> <p>(2)侵食対策事業【国費率1/2】 海岸侵食により被害が発生するおそれのある地域について、堤防・護岸・離岸堤・突堤等の海岸保全施設の新設又は改良を実施する事業をいう。</p> <p>(3)海岸耐震対策緊急事業【国費率1/2】 堤防・護岸等の耐震対策等を地域の実情に応じて緊急的に実施することにより、地震発生に伴う堤防・護岸等の防護機能低下による浸水被害を防止する事業をいう。</p> <p>(4)海岸堤防等老朽化対策緊急事業【国費率1/2】 老朽化により機能が確保されていない又は機能低下の恐れがある海岸保全施設であって、緊急にその機能の強化又は回復を行う必要があるものについて、海岸保全施設の老朽化調査、調査結果を踏まえた老朽化対策計画の策定、老朽化対策計画に基づいた老朽化対策工事を実施する事業をいう。</p> <p>(5)津波・高潮危機管理対策緊急事業【国費率1/2、※南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法第13条第1項に規定する津波避難対策緊急事業として整備される避難対策としての管理用通路等は2/3】 既存の海岸保全施設の防災機能を的確に発揮させるとともに、住民等の津波又は高潮からの避難を促進するため、①水門等の自動化・遠隔操作化及び改修等、②堤防、護岸等海岸保全施設の破堤防止、局所的な堤防等未整備箇所における堤防等の整備、排水工の整備、③津波・高潮ハザードマップの作成支援、④津波・高潮に関する観測施設、情報提供施設等情報基盤の整備、⑤津波防災ステーションの整備、⑥避難対策としての管理用通路の整備、⑦避難用通路の設置、⑧漂流物防止施設の整備、⑨水門等の整備・運用計画策定支援(計画策定に伴う調査含む。)を総合的に実施する事業をいう。</p> <p>(6)海岸環境整備事業【国費率1/3】 堤防、突堤、護岸、離岸堤、人工リーフ、砂浜、安全情報伝達施設、その他所期の目的を達成するための必要最小限の施設の新設、改良を実施する事業のうち防災・安全対策のために特に必要と認められる事業に限る。</p> <p>(7)海域浄化対策事業【国費率1/2、※公害の防止に関する事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律第3条に該当するもの以外の事業については1/3】 水管理・国土保全局所管海岸に係る海岸保全施設の機能の確保を図るため、放置座礁船の処理等を実施する事業のうち防災・安全対策のために特に必要と認められる事業に限る。</p>													
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における河川・海岸堤防等の整備率(計画高までの整備と耐震化)及び水門・樋門等の耐震化率 (海岸堤防等) H26年度 約39% → H32年度 約69%							
	26年度	39%	27年度	40%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	69%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における、水門・樋門等の自動化・遠隔操作化率 (海岸) H26年度 約43% → H32年度 約82%								
	26年度	43%	27年度	48%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	82%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率 海岸 H26年度 約1% → H32年度 約100%								
	26年度	1%	27年度	7%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	100%

基幹事業名	都市公園・緑地等事業		担当部局	都市局	作成責任者								
			担当課室	公園緑地・景観課	課長 町田 誠								
事業概要	都市公園・緑地等事業 地域防災計画等に位置づけられた都市公園の整備に関する事業等 (1)都市公園等事業(国費率 1/3.1/2) 安全で快適な緑豊かな都市環境の形成を推進し、豊かな国民生活の実現等を図るため、都市公園法(昭和31年法律第79号)第2条第1項第1号に規定する都市公園、農山漁村地域の生活環境の向上に資する特定地区公園(カントリーパーク)の整備等を行う事業の中で、安全で安心できる都市づくりの形成を推進し、災害に脆弱な都市構造の改善を図る、地域防災計画等に位置づけられた都市公園の整備、地域防災計画等に位置づけられた特定地区公園(カントリーパーク)の整備を行う事業であって、防災・安全対策のために特に必要と認められる事業、大都市地域等において大規模な地震等に伴い発生する災害から国民の生命、財産を守るための避難地となる防災緑地の整備を行う事業に限る。												
	(2)都市公園安全・安心対策事業(国費率 1/3.1/2) 大規模地震に備えた市街地の防災性の向上や、公園施設の戦略的な機能保全・向上対策による安全性の確保、都市公園の適正な管理による公園利用者の安全・安心の確保や、公園施設に係るトータルコストの低減等、都市公園における安全・安心対策事業を実施し、子どもや高齢者をはじめ誰もが安全で安心して利用できる都市公園の整備を行う事業をいう。												
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標		一定水準の防災機能を備えるオープンスペースが一箇所以上確保された大都市の割合 H24年度 約76% → H32年度 約89%										
	26年度	79%	27年度	集計中 (平成29年6月末現在を目途に)	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標		個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率(公園) H26年度 77% → H32年度 100%										
	26年度	77%	27年度	集計中 (平成29年6月末現在を目途に)	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度

基幹事業名	市街地整備事業					担当部局庁	都市局					作成責任者		
						担当課室	都市安全課 市街地整備課					課長 河野 俊郎 課長 英 直彦		
事業概要	<p>市街地整備事業 土地区画整理事業等の市街地の整備改善に関する事業</p> <p>(1)都市防災推進事業【国費率1/2等】 わが国の都市構造を安全で安心な都市生活を実現できるものへと再構築するため、市街地の防災性の向上及び被災地の早期復興を図るため行われる、次に掲げる事業をいう。 ① 都市防災総合推進事業 市街地の防災性の向上及び被災地の早期復興を図るため、都市の防災構造化、住民の意識向上、被災地における復興まちづくり等を総合的に推進する事業 ② 宅地耐震化推進事業 大地震時における大規模盛土造成地の滑動崩落及び宅地の液化化による被害を防止するため、大規模盛土造成地等の変動予測調査及び防止対策を推進する事業</p> <p>(2)市街地再開発事業等【国費率1/3等】 防災上危険な老朽建築物が密集する地区等における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るため行われる、市街地再開発事業、住宅街区整備事業、防災街区整備事業及び都市再開発支援事業の中で密集市街地の整備改善等、市街地の防災性の向上に資するものに限る。</p> <p>(3)暮らし・にぎわい再生事業【国費率1/3】 都市機能のまちなか立地、空きビルの再生及び多目的広場等の整備並びに関連空間整備及び計画コーディネートに関する事業の中で密集市街地の整備改善等、市街地の防災性の向上に資するものに限る。</p> <p>(4)都市再生区画整理事業【国費率1/3等】 防災上危険な密集市街地及び空洞化が進行する中心市街地等都市基盤が脆弱で整備の必要な既成市街地の再生並びに被災した市街地の復興等を推進するため行われる都市再生事業計画案作成事業、都市再生土地区画整理事業、被災市街地復興土地区画整理事業及び緊急防災空地整備事業の中で安全市街地形成重点地区に該当する等、市街地の防災性の向上に資するものに限る。</p> <p>(5)津波防災拠点整備事業【国費率1/2】 南海トラフ地震の津波により甚大な被害が想定される地域において、都市の津波からの防災性を高める拠点となる市街地(津波防災地域づくりに関する法律の「団地の津波防災拠点市街地形成施設」として、都市計画決定されたものに限る。)を整備するために支援を行う事業をいう。</p> <p>(6)防災・省エネまちづくり緊急促進事業【国費率3/100等】 防災性能や省エネルギー性能の向上といった緊急的な政策課題に対応した質の高い施設建築物等の整備に関する事業及びこれらに附帯する事業をいう。</p> <p>(7)集約都市開発支援事業【国費率1/3等】 低炭素まちづくり計画の区域内で実施される認定集約都市開発事業及び同事業と関連して実施される事業を一体的に支援する事業の中で密集市街地の整備改善等、市街地の防災性の向上に資するものに限る。</p>													
	関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					地震時等に著しく危険な密集市街地の面積 H26年度 4,547ha → H32年度 おおむね解消							
	26年度	4,547ha	27年度	4,435ha	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	おおむね解消
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					大規模盛土造成地マップ等公表率 H26年度 13.7% → H32年度 約70%								
	26年度	13.7%	27年度	41.0%	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	約70%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標					居住している地域に関する大規模盛土造成地の情報を確認できる人口 H26年度 36百万人 → H32年度 90百万人								
	26年度	36百万人	27年度	44百万人	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	90百万人

基幹事業名	担当部局庁						住宅局						作成責任者	
	地域住宅計画に基づく事業						住宅総合整備課 住宅総合整備課住環境整備室 市街地建築課 市街地建築課市街地住宅整備室						課長 松本 貴久 室長 内田 純夫 課長 淡野 博久 室長 石坂 聡	
事業概要	<p>地域住宅計画に基づく事業 地域における多様な需要に応じた公的賃貸住宅等の整備等に関する特別措置法(平成17年法律第79号。以下「地域住宅法」という。)第6条第1項の地域住宅計画に基づく事業等</p> <p>地域住宅計画に基づく事業【国費率1/2等】 地域住宅計画に基づく地域住宅法第6条第2項第1号及び第2号の事業等のうち防災・安全対策のために特に必要と認められる事業をいう。</p> <p>交付対象事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域住宅政策推進事業</li> <li>2. 公営住宅整備事業等</li> <li>3. 住宅地区改良事業等</li> <li>4. 市街地再開発事業</li> <li>5. 優良建築物等整備事業</li> <li>6. 住宅市街地総合整備事業(密集住宅市街地整備型に限る。)</li> <li>7. 都心共同住宅供給事業</li> <li>8. 住宅市街地基盤整備事業</li> <li>9. 住宅・建築物安全ストック形成事業</li> <li>10. 公的賃貸住宅家賃低廉化事業</li> <li>11. 災害公営住宅家賃低廉化事業</li> </ol>													
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標						住宅・建築物の耐震化率 (住宅) H25年 約82% → H32年 95%							
	26年度	-	27年度	-	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	95%
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標						住宅・建築物の耐震化率 (多数の者が利用する建築物) H25年 約85% → H32年 95%							
	26年度	-	27年度	-	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	95%



基幹事業名	担当部局庁				住宅局				作成責任者						
	住環境整備事業				担当課室				住宅総合整備課住環境整備室 建築指導課建築物防災対策室 市街地建築課 市街地建築課市街地住宅整備室				室長 内田 純夫 室長 安藤 恒次 課長 淡野 博久 室長 石坂 聡		
事業概要	<p>住環境整備事業 良好な居住環境の整備に関する事業</p> <p>(1)市街地再開発事業【国費率1/3等】 都市再開発法(昭和44年法律第38号)第2条第1号に規定する市街地再開発事業(密集市街地の整備改善等市町村の防災性の向上に資するものに限る。)をいう。</p> <p>(2)優良建築物等整備事業【国費率1/3等】 優良な建築物及びこれと一体的に行われる空地等周辺整備並びにこれらに附帯する事業 (津波避難施設の整備・耐震性が低い建築物の建替え等市街地の防災性・建築物の安全性の向上に資するものに限る。)をいう。</p> <p>(3)市街地総合再生施設整備【国費率1/3】 (1)、(2)の各事業の総合的な推進のために必要な施設整備((1)、(2)の各事業に関連して実施するものに限る。)をいう。</p> <p>(4)基本計画等作成等事業【国費率1/3等】 (1)、(2)、(3)の各事業等の推進のために必要となる基本計画等の作成等を行う事業((1)、(2)、(3)の各事業に関連して実施するものに限る。)をいう。</p> <p>(5)暮らしにぎわい再生事業【国費率1/3等】 都市機能のまちなか立地、空きビルの再生及び多目的広場等の整備並びに関連空間整備及び計画コーディネートに関する事業 (密集市街地の整備改善等市街地の防災性の向上に資するものに限る。)をいう。</p> <p>(6)バリアフリー環境整備促進事業【国費率1/3】 バリアフリー環境整備計画に従って行われる移動システム等の整備に関する事業及び認定特定建築物の建築に関する事業をいう。</p> <p>(7)住宅市街地総合整備事業【国費率1/2等】 住宅等の整備、公共施設の整備等に関する事業及びこれに附帯する事業、都心共同住宅供給事業、防災街区整備事業並びに都市再生住宅等の整備に関する事業 (密集市街地の整備改善等住宅市街地の防災性の向上に資するものに限る。)をいう。</p> <p>(8)街なみ環境整備事業【国費率1/2等】 協議会活動助成事業、整備方針策定事業、街なみ整備事業及び街なみ整備助成事業並びにこれらに附帯する事業のうち防災・安全対策のために特に必要と認められる事業をいう。</p> <p>(9)住宅市街地基盤整備事業【国費率1/2等】 良好な住宅又は宅地の供給を行う計画的な住宅宅地事業及び計画的に開発された良質な住宅団地において行われる住宅ストック改善事業に関連する公共施設の整備等に関する事業のうち防災・安全対策のために特に必要と認められる事業をいう。</p> <p>(10)住宅・建築物安全ストック形成事業【国費率1/3等】 住宅・建築物耐震改修事業、住宅・建築物アスベスト改修事業及びびがけ地近接等危険住宅移転事業をいう。</p> <p>(11)狭あい道路整備等促進事業【国費率1/3等】 狭あい道路情報整備等事業及び狭あい道路拡幅整備事業をいう。</p> <p>(12)都市・地域再生緊急促進事業【国費率1/3等】 建設工事費の高騰により、進捗が停滞している市街地再開発事業等の促進に関する事業(防災・安全交付金事業の対象となる市街地再開発事業等を対象事業とする場合に限る。)をいう。</p> <p>(13)防災・省エネまちづくり緊急促進事業【国費率3/100等】 防災性能や省エネルギー性能の向上といった緊急的な政策課題に対応した質の高い施設建築物等の整備に関する事業及びこれらに附帯する事業 (防災・安全交付金事業の対象となる市街地再開発事業等を対象事業とする場合に限る。)をいう。</p> <p>(14)集約都市開発支援事業【国費率1/3等】 低炭素まちづくり計画の区域内で実施される認定集約都市開発事業及び同事業と関連して実施される事業を一体的に支援する事業(密集市街地の整備改善等市街地の防災性の向上に資するものに限る。)をいう。</p>														
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標				住宅・建築物の耐震化率 (住宅) H25年 約82% → H32年 95%										
	26年度	-	27年度	-	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	95%	
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標				住宅・建築物の耐震化率 (多数の者が利用する建築物) H25年 約85% → H32年 95%										
	26年度	-	27年度	-	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	95%	
関連する社会資本整備重点計画等のKPI・指標	KPI・指標				地震時等に著しく危険な密集市街地の面積 H26年度 4,547ha → H32年度 おおむね解消										
	26年度	4,547ha	27年度	4,435ha	28年度	-	29年度	-	30年度	-	31年度	-	32年度	おおむね解消	

<b>政策</b>	10. 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
<b>施策</b>	37 総合的な国土形成を推進する							
<b>測定指標</b>	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値		-	-	-	-	-
		目標値		-	-	-	-	-
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図る								
<b>政策</b>	9 市場環境の整備、産業の生産性向上、消費者利益の保護							
<b>施策</b>	30 社会資本整備・管理等を効果的に推進する							
<b>測定指標</b>	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
	個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率 (①道路((i)橋梁、(ii)トンネル)、②河川((ii)地方公共団体)、③ダム((ii)地方公共団体)、④砂防((ii)地方公共団体)、⑤海岸、⑥下水道、⑦港湾、⑩公園((ii)地方公共団体))	実績値	%	-	①(i)-(ii)- ②(ii)83% ③(ii)28% ④(ii)30% ⑤1% ⑥- ⑦97% ⑩(ii)77%	①(i)-(ii)- ②(ii)84% ③(ii)37% ④(ii)45% ⑤7% ⑥23% ⑦98% ⑩(ii)84%	-	-
		目標値	%	-	-	-	-	①(i)-(ii)- ②(ii)100% ③(ii)100% ④(ii)100% ⑤100% ⑥100% ⑦100% ⑩(ii)100%
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
防災・安全交付金により、長寿命化計画の策定支援及び老朽化対策に係る長寿命化計画の要件化を通じ、長寿命化計画の策定を促進する。								

政策	4 水害等災害による被害の軽減							
	11 住宅・市街地の防災性を向上する							
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
	一定水準の防災機能を備えるオープンスペースが一箇所以上確保された大都市の割合	実績値	%	76	56	-	-	-
		目標値	%	-	-	-	-	約89
	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
	地震時等に著しく危険な密集市街地の面積	実績値	ha	-	4,547	4,435	-	-
		目標値	ha	-	-	-	-	おおむね解消
	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
	大規模盛土造成地マップ等公表率	実績値	%	8	13.7	41	-	-
		目標値	%	-	-	-	-	70
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係							
<p>・地域防災計画に位置付けられた都市公園の整備等を支援することで、一定水準の防災機能を備えるオープンスペースが一定以上確保された大都市を増加させ、避難地等となる都市公園等の確保により、住宅・市街地の防災性の向上を図る。</p> <p>・地方公共団体が行う市街地大火の延焼の拡大防止や避難地・避難路等の確保等の事業を支援することで、避難地・避難路の整備、避難路沿道等の建築物の不燃化を推進し、地震時等に著しく危険な密集市街地の面積の解消を促進することによって、住宅密集地の市街地大火による延焼の遮断・遅延及び避難の安全性の確保を図る。</p> <p>・地方公共団体が行う大規模盛土造成地等の変動予測調査を支援することで、大規模盛土造成地マップの公表を促進し、宅地造成に伴う災害に対する住民の理解を深めることにより、大地震時等における大規模盛土造成地の滑動崩落による被害の防止を図る。</p>								

<b>政策</b>	4 水害等災害による被害の軽減									
<b>施策</b>	11 住宅・市街地の防災性を向上する									
<b>測定指標</b>	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度		
	住宅の耐震化率	実績値	%	82	-	-	-	-		
		目標値	%	-	-	-	-	95		
	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度		
	建築物の耐震化率	実績値	%	85	-	-	-	-		
		目標値	%	-	-	-	-	95		
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
耐震改修等を支援することにより、住宅・建築物の耐震化率が高まり、住宅・市街地の防災性の向上に寄与する。										
<b>政策</b>	4 水害等災害による被害の軽減									
<b>施策</b>	11 住宅・市街地の防災性を向上する									
<b>測定指標</b>	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度		
	下水道による都市浸水対策達成率	実績値	%	-	56	57	-	62		
		目標値	%	-	-	-	-	-		
	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度		
	災害時における機能確保率(①主要な管渠)	実績値	%	44	32	47	-	60		
		目標値	%	-	-	-	-	-		
	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度		
	災害時における機能確保率(②下水処理場)	実績値	%	-	32	35	-	40		
		目標値	%	-	-	-	-	-		
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	下水道事業において、浸水対策や耐震対策を支援することにより、都市浸水対策達成率、災害時における機能確保率の向上に寄与する。									
	<b>政策</b>	4 水害等災害による被害の軽減								
<b>施策</b>	12 水害・土砂災害の防止・減災を推進する									
<b>測定指標</b>	定量的指標	/	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度		
	南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における①河川堤防の整備率(計画高までの整備と耐震化)及び②水門・樋門等の耐震化率(①河川堤防の整備率)	実績値	約〇%	-	37	42	-	-		
		目標値	約〇%	-	-	-	-	75		

測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標		目標年度	
							-	年度	32	年度
南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における①河川堤防の整備率(計画高までの整備と耐震化)及び②水門・樋門等の耐震化率 (②水門・樋門等の耐震化率)	実績値	約〇%	-	32	37	-	-	-	-	
	目標値	約〇%	-	-	-	-	-	77	-	
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標		目標年度	
人口・資産集積地区等における河川整備計画目標相当の洪水に対する河川の整備率(①国管理、②県管理)	実績値	約〇%	-	54.7	55.3	-	-	-	-	
	目標値	約〇%	-	-	-	-	-	60	-	
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標		目標年度	
最大クラスの洪水に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識向上につながる訓練(机上訓練、情報伝達訓練等)を実施した市区町村の割合	実績値	%	-	-	0	-	-	-	-	
	目標値	%	-	-	-	-	-	100	-	
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
河川事業やその他総合的な治水事業において、堤防や水門・樋門等の整備や耐震対策等を支援することにより、堤防の整備率や水門・樋門等の耐震化率等の向上に寄与する。										
政策	4 水害等災害による被害の軽減									
施策	12 水害・土砂災害の防止・減災を推進する									
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標		目標年度	
							-	年度	31	年度
要配慮者利用施設・防災拠点を保全し、人命を守る土砂災害対策実施率	実績値	約〇%	-	37	38	-	-	-	-	
	目標値	約〇%	-	-	-	-	-	41	-	
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標		目標年度	
土砂災害警戒区域等に関する①基礎調査結果の公表及び②区域指定数 (①基礎調査結果の公表)	実績値	約〇万区域	-	42	48	-	-	-	-	
	目標値	約〇万区域	-	-	-	-	-	65	-	
測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標		目標年度	
土砂災害警戒区域等に関する①基礎調査結果の公表及び②区域指定数 (②区域指定数)	実績値	約〇万区域	-	40	44	-	-	-	-	
	目標値	約〇万区域	-	-	-	-	-	63	-	
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
砂防事業やその他総合的な治水事業において、砂防堰堤等の砂防設備の整備や基礎調査を支援することにより、土砂災害対策実施率の向上や基礎調査結果公表及び区域指定の推進に寄与する。										

<b>政策</b>	4 水害等災害による被害の軽減								
<b>施策</b>	13 津波・高潮・侵食等による災害の防止・減災を推進する								
<b>測定指標</b>	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度	
	南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の大規模地震が想定されている地域等における海岸堤防等の整備率(計画高までの整備と耐震化)	実績値	約〇%	-	39	40	-	-	-
		目標値	約〇%	-	-	-	-	-	69
<b>測定指標</b>	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度	
	最大クラスの津波・高潮に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識向上につながる訓練(机上訓練、情報伝達訓練等)を実施した市区町村の割合(①津波)	実績値	約〇%	-	0	50	-	-	-
		目標値	約〇%	-	-	-	-	-	100
<b>測定指標</b>	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度	
	最大クラスの津波・高潮に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識向上につながる訓練(机上訓練、情報伝達訓練等)を実施した市区町村の割合(②高潮)	実績値	約〇%	-	-	0	-	-	-
		目標値	約〇%	-	-	-	-	-	100
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
海岸事業において、海岸堤防等の海岸保全施設の整備、耐震対策及び最大クラスの津波・高潮浸水想定区域調査等のソフト対策を支援することにより、堤防等の整備率、ハザードマップの作成・公表及び住民の防災意識向上につながる訓練を実施した市区町村の増加に寄与する。									
<b>政策</b>	6 国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化								
<b>施策</b>	19 海上物流基盤の強化等総合的な物流体系整備の推進、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保を推進する								
<b>測定指標</b>	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度	
	災害時における海上からの緊急物資等の輸送体制がハード・ソフト一体として構築されている港湾(重要港湾以上)の割合	実績値	%	-	31	45	-	-	-
		目標値	%	-	-	-	-	-	80
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
港湾施設の建設又は改良の工事のうち防災・安全対策のために特に必要なものに対して支援することにより、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保の推進に寄与する。									

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	社会資本整備総合交付金 (全国防災)			<b>担当部局庁</b>	大臣官房			<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成23年度	<b>事業終了 (予定)年度</b>	平成27年度	<b>担当課室</b>	社会資本整備総合交付金等総合調整室			室長 榊 真一		
<b>会計区分</b>	東日本大震災復興特別会計									
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	都市公園法、河川法、海岸法、下水道法、道路法、港湾法等			<b>関係する計画、 通知等</b>	社会資本整備重点計画					
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	公共事業					
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	社会資本整備総合交付金は、地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ることを目的とする。									
<b>事業概要 (5行程度以内。 別添可)</b>	<p>地方公共団体が作成した社会資本総合整備計画(東日本大震災を教訓として、全国的に緊急に実施する必要性が高く、即効性のある防災、減災等のための事業に限定したものに限定。)(以下、「社会資本総合整備計画」という。)に基づき、政策目的実現のための基幹的な社会資本整備事業等を総合的・一体的に支援。</p> <p>東日本大震災の津波による甚大な被害状況や、迅速な避難・救急救援活動による人命確保等の教訓に基づく、堤防等に係る津波対策、緊急輸送道路等に係る耐震対策等のような緊急性の高い事業を対象を限定するとともに、事業着手から1~2年、最長でも集中復興期間中(H27年度まで)に効果が発現する即効性の高い事業を対象を限定し、予算計上している。【平成27年度に交付決定を行った基幹事業ごとの事業概要は別紙参照】</p> <p>※ 切迫性の高い東海、東南海・南海地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、首都直下地震の対策が必要な区域で行われる事業、地域防災計画に基づく事業等に限定。</p> <p>※ 津波対策の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海岸堤防や河川の津波遡上区間における河川堤防のかさ上げ、堤防・水門・閘門・樋門・樋管・陸間の耐震・液状化対策、水門・閘門・樋門・樋管・陸間の自動化・遠隔操作化、防波堤の整備</li> <li>・ 津波避難施設(避難路、津波タワー、津波避難ビル、避難地や防災拠点となる防災公園)の整備</li> <li>・ 津波災害時の避難所・防災拠点となる建築物の耐震化、津波避難ビルとなる公営住宅の耐震化</li> <li>・ 下水処理施設等下水道施設の耐水化</li> </ul> <p>※ 地震対策の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域防災計画に位置づけられた緊急輸送道路・避難路のうち、地震時に不通となる要対策箇所の橋梁耐震化、法面・盛土の防災対策、沿道の住宅・建築物及び避難所の耐震化</li> <li>・ 港湾施設の耐震化</li> <li>・ 重要幹線等の下水道施設の耐震化</li> <li>・ 盛土造成地の滑動崩落対策</li> <li>・ 災害時に被災者の受け入れ先となる公営住宅の耐震化</li> </ul> <p>被災地以外においても、東日本大震災の津波による甚大な被害状況や、迅速な避難・救急救援活動による人命確保等の教訓に基づく、緊急性の高い事業については、復興基本方針に基づき、復興予算として要求したものである。</p> <p>なお、これら以外の風水害対策等の防災・減災対策については、一般会計において要求している。</p>									
<b>実施方法</b>	交付									
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>	予算 の 状 況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
		補正予算	10,183	7,729	9,466	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	51,977	5,442	2,839	5,076				
		予備費等	▲ 5,442	▲ 2,839	▲ 5,076					
		計	-	-	-					
	執行額	56,718	10,332	7,229	5,076	0				
	執行率 (%)	55,632	10,329	7,229						
<b>成果目標及び成 果実績 (アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
	全ての社会資本総合整備計画について、成果目標を達成する	社会資本総合整備計画中の成果目標の達成度 (%) (全国ベース)	成果実績	%	100	100	83	-	-	
			目標値	%	100	100	100	-	-	
			達成度	%	100	100	83	-	-	
<b>活動指標及び活 動実績 (アウトプット)</b>	活動指標	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込				
	社会資本総合整備計画数 (全国ベース)	活動実績	計画	17	12	13	-			
		当初見込み	-	-	-	-				
<b>単位当たり コスト</b>	算出根拠	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込				
	当該年度の当初配分額(全国ベース) / 当該年度に社会資本整備総合交付金が当初配分された計画数(全国ベース)	単位当たりコスト	百万円	587.5	615.1	693.5	-			
		計算式 / 計画数	百万円 / 計画数	9,988 / 17	7,381 / 12	9,015 / 13	-			

平成28-29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由
	交付金事業	-	-	
	計	0	0	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10. 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備									
	施策	37 総合的な国土形成を推進する									
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 年度	目標年度 年度		
			実績値								
			目標値								
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)						
					施策の進捗状況(実績)						
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図る。										
	アクション・プログラム (第一階層)	改革項目	分野:	-	-						
KPI (第一階層)		KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
		成果実績	-	-	-	-	-	-			
		目標値	-	-	-	-	-	-			
	達成度	%	-	-	-	-	-				
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											



事業所管部局による点検・改善

			項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	本事業は 東日本大震災の津波による甚大な被害状況や、迅速な避難・救急救援活動による人命確保等の教訓に基づく、堤防等に係る津波対策、緊急輸送道路等に係る耐震対策等のような緊急性の高い事業に対象を限定しており、国民や社会のニーズを踏まえたものとなっている。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	全国的に緊急に実施する必要性が高く、即効性のある防災、減災等のための取組を推進するものであることから、国による支援が必要である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	本事業は 東日本大震災の津波による甚大な被害状況や、迅速な避難・救急救援活動による人命確保等の教訓に基づく、堤防等に係る津波対策、緊急輸送道路等に係る耐震対策等のような緊急性の高い事業に対象を限定しており、また、事業着手から1～2年、最長でも集中復興期間中(H27年度まで)に効果が発現する即効性の高い事業に対象を限定しており、優先度の高い事業となっている。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			-	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。			無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。			無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。			○	国と地方公共団体等の負担関係は関係法令等に定められており、妥当なものとなっている。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。			○	地方公共団体等が作成する計画に基づき行う社会資本の整備等のために必要な経費について交付金を配分しており、単位当たりコストは妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	地方公共団体等が計画に基づき実施する社会資本の整備等に関する事業であって、東日本大震災の津波による甚大な被害状況や、迅速な避難・救急救援活動による人命確保等の教訓に基づく、堤防等に係る津波対策、緊急輸送道路等に係る耐震対策等のような緊急性の高い事業に対象を限定している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。			-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。			○	成果目標には地方公共団体が設定した計画内の成果目標の達成度を設定しており、地方公共団体が策定した計画に基づく事業を支援する本事業の趣旨に鑑み、適切な指標となっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			○	計画内の成果目標を概ね達成できている状況であり、整備された施設等が十分活用されているものと考えられる。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金、社会資本整備総合交付金(全国防災)(平成27年度で終了)及び社会資本整備総合交付金(復興)との役割分担については、被災地域の復興等のための事業等については社会資本整備総合交付金(復興)により「命と暮らしを守るインフラ再構築」、「生活空間の安全確保」に対する集中的支援にあつては防災・安全交付金により、成長力強化や地域活性化等につながる事業にあつては社会資本整備総合交付金により支援しており、それぞれ適切な役割分担となっている。
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
	国土交通省大臣官房社会資本整備総合交付金等総合調整室	385	社会資本整備総合交付金		
	国土交通省大臣官房社会資本整備総合交付金等総合調整室	386	防災・安全交付金		
	復興庁統括官付参事官	196	社会資本整備総合交付金(復興)		

<b>点検・改善結果</b>	点検結果	「新仕分け」(平成24年11月16日)の評価結果及び「今後の復興関連予算に関する基本的な考え方」(平成24年11月27日復興推進会議決定)に基づき、平成25年度予算からは、「巨大津波による被害を受けて新たに認識された技術上の課題に対応するための公共事業であって、大規模地震の対策地域において、東日本大震災の最大の教訓である素早い避難の確保を後押しする観点から実施され、集中復興期間中に完了するもの(具体的には、河川の津波遡上対策、海岸堤防・防波堤の粘り強い構造の確保・耐震対策、水門等の自動化・遠隔操作化、高台道路への避難階段の付加)」について、厳しい絞込みを行った上で計上することとされているところである。予算の繰越により事業が完了していないなどの理由により、事後評価を実施していない整備計画もあることから、その結果を着実に把握するべきである。
	改善の方向性	引き続き整備計画の事後評価の結果をフォローし、事業の効果を把握する。

**外部有識者の所見**

**行政事業レビュー推進チームの所見**

終了予定	引き続き、整備計画の事後評価の結果を把握し、事業の効果の分析に努めるべき。
------	---------------------------------------

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

予定通り終了	予算の繰り越しにより事業が完了していないなどの理由により、事業評価を実施していない整備計画もあることから、所見を踏まえ、引き続き整備計画の事後評価の結果を把握し、事業の効果の分析に努める。
--------	--

**備考**

政策評価において北海道・離島振興は別の政策体系となっており、政策評価との連携をとるため、予算額・執行額及び予算内訳に関しては重複を避けるため、内地分のみ計上している。その他成果実績等に関しては、全国ベースでの分析をしている。

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成22年度	-	平成23年度	0001	平成24年度	0001	
平成25年度	359	平成26年度	348	平成27年度	367	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省  
9,015百万円

社会資本総合整備計画  
単位で配分

【補助】

A.地方公共団体等  
9,015百万円

交付金事業（基幹事業、  
関連社会資本整備事業、  
効果促進事業）の実施

<東京都の場合>

わが国最大の海拔0m地帯を有  
する愛知県における安全・安心  
な地震防災対策基盤の確保(復  
興基本方針関連(全国防災))  
3,982百万円

<事業費内訳>

工事費	
本工事費	6,706百万円
附帯工事費	635百万円
測量設計費	394百万円
用地費及び補償費	229百万円
合計	7,964百万円

※交付決定ベースであるため、合計額が社会  
資本総合整備計画ごとの金額とは一致しない。

資金の流れ  
(資金の受け取  
り先が何を行っ  
ているかについ  
て補足する)  
(単位:百万  
円)

A.			B.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
交付金事業費	わが国最大の海拔0m地帯を有する愛知県における安全・安心な地震防災対策基盤の確保(復興基本方針関連(全国防災))	3,982			
交付金事業費	名古屋市における河川の地震対策(復興基本方針関連(全国防災))	513			
交付金事業費	名古屋港における総合的な高潮対策の推進(復興基本方針関連(全国防災))	124			
計		4,619	計		0
C.			D.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
E.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
G.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	愛知県	1000020230006	わが国最大の海拔0m地帯を有する愛知県における安全・安心な地震防災対策基盤の確保(復興基本方針関連(全国防災)) 他	4,619	-			
2	高知県	5000020390003	高知県における河川施設の地震防災対策の推進(復興基本方針関連(全国防災)) 他	3,727	-			
3	三重県	5000020240001	三重県における総合的な地震・津波対策の推進(全国防災)	196	-			
4	静岡県	7000020220001	静岡県における安全安心で魅力ある県土づくりを目指した地震・津波対策の推進(復興基本方針関連(全国防災))	181	-			
5	愛媛県	1000020380008	災害に負けない愛ある海岸づくり(復興基本方針関連(全国防災))	115	-			
6	北海道	7000020010006	北海道における河川津波対策の推進(復興基本方針関連(全国防災))	55	-			
7	広島県	7000020340006	広島県港湾海岸における高潮対策の推進(復興基本方針関連(全国防災))	55	-			
8	徳島県	4000020360007	県土の地震・津波に備えた防災・減災の推進(復興基本方針関連(全国防災))	37	-			
9	和歌山県	4000020300004	東海・東南海・南海地震に備えた安全・安心の確保(復興基本方針関連(全国防災))	30	-			

基幹事業名	河川事業、その他総合的な治水事業（河川）		
	担当部局庁	水管理・国土保全局	作成責任者
事業概要	担当課室	治水課	課長 泊 宏
<p>河川事業 一級河川、二級河川又は準用河川の改良に関する事業</p> <p>(1) 広域河川改修事業【国費率1/2】 河川改修事業の実施において、水系、大支川等を単位として、水系一貫した計画的な整備を図るとともに、規模の大きい事業に限定し、また重点整備箇所を設けて整備を実施する事業をいう。</p> <p>(2) 地震・高潮対策河川事業【国費率1/2】 津波・高潮対策、耐震対策、地盤沈下対策や市街地再開発事業等の他の事業と一体となった河川整備等を実施する事業をいう。</p> <p>その他総合的な治水事業 (1) 総合流域防災事業【国費率1/2（準用河川改修事業、雨水貯留事業、浄化事業、洪水氾濫域減災対策事業は1/3）】 流域単位を原則として、包括的に水害・土砂災害対策の施設整備等及び災害関連情報の提供等のソフト対策を実施する事業（統合河川環境整備事業の要件に該当する河川環境整備事業にあっては、防災・安全対策のために特に必要と認められる事業に限る。）をいう。</p>			

基幹事業名	海岸事業	担当部局庁	水管理・国土保全局 港湾局	作成責任者
		担当課室	海岸室 海岸・防災課	室長 内藤 正彦 課長 村岡 猛
事業概要	<p>海岸事業 海岸保全施設の新設又は改良に関する事業及び海岸環境の整備に関する事業</p> <p>(1)高潮対策事業【国費率1/2】 高潮、波浪、津波等により被害が発生するおそれのある地域について、堤防・護岸・離岸堤・突堤等の海岸保全施設の新設又は改良を実施する事業をいう。</p> <p>(2)海岸耐震対策緊急事業【国費率1/2】 堤防・護岸等の耐震対策等を地域の実情に応じて緊急的に実施することにより、地震発生に伴う堤防・護岸等の防護機能低下による浸水被害を防止する事業をいう。</p> <p>(3)津波・高潮危機管理対策緊急事業【国費率1/2、※南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法第13条第1項に規定する津波避難対策緊急事業として整備される避難対策としての管理用通路等は2/3】 既存の海岸保全施設の防災機能を的確に発揮させるとともに、住民等の津波又は高潮からの避難を促進するため、①水門等の自動化・遠隔操作化及び改修等、②堤防・護岸等海岸保全施設の破堤防止、局所的な堤防等未整備箇所における堤防等の整備、排水工の整備、③津波・高潮ハザードマップの作成支援、④津波・高潮に関する観測施設、情報提供施設等情報基盤の整備、⑤津波防災ステーションの整備、⑥避難対策としての管理用通路の整備、⑦避難用通路の設置、⑧漂流物防止施設の整備、⑨水門等の整備・運用計画策定支援(計画策定に伴う調査含む。)を総合的に実施する事業をいう。</p>			

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

事業名	総合交通体系整備推進費			担当部局庁	総合政策局	作成責任者			
事業開始年度	平成19年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務課	課長 高原 修司			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)				関係する計画、通知等	新たな国土形成計画(全国計画)(平成27年8月14日閣議決定)				
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	新たな国土形成計画(全国計画)の実現に向けた施策を具体化するため、様々な交通機関、交通施策による総合的な交通体系の整備の推進により、生活交通の確保及び災害に強いしなやかな国土の形成を図るための調査を行うとともに、将来における総合的な交通体系に係る視点を提示するための調査検討を行うものである。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	地域におけるモビリティ確保に係る施策形成をサポートするための情報、ノウハウの提供等を行う。 また、新たな国土形成計画や交通政策基本計画などの国土政策、交通政策等を踏まえ、地方創生などの重要政策課題における総合的な交通体系の整備のあり方を検討する。 さらに、国及び地方公共団体の総合交通政策担当者による連絡会議を開催し、総合的な交通基盤整備に関する情報共有等を行う。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額 (単位:百万円)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
	予算の状況	当初予算	14	14	11	16	20		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
	計		14	14	11	16	20		
	執行額		13	11	10	-	-		
執行率(%)		93%	79%	91%	-	-			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 30年度	目標最終年度
	国土形成計画の実現に向けた情報、ノウハウの提供等によるモビリティ確保に係る施策形成に関する支援体制の構築	国土形成計画の実現に向けた地域のモビリティ確保に資する施策に関するガイドライン等のとりまとめ件数	成果実績	件	1	2	3	-	-
			目標値	件	1	2	3	6	-
			達成度	%	100	100	100	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								<input type="checkbox"/> チェック	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	国土形成計画の実現に向けた総合交通体系の整備に関する先進事例調査分析数			活動実績	件	12	27	35	
				当初見込み	件	18	27	36	45
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	総合的な交通基盤整備連絡会議(全国交通施策担当者会議)の参加自治体数(累積)			活動実績	自治体数	143	298	358	
				当初見込み	自治体数	134	201	268	335
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	総合交通メールマガジンの受信者数			活動実績	人	1,791	1,903	2,031	
				当初見込み	人	1,800	1,900	2,000	2,100
単位当たりコスト	算出根拠			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	当年度執行額/当年度活動実績数			単位当たりコスト	百万円	3.9	3.5	2.9	3.9
				計算式	執行額/活動実績数	11.6/3	10.4/3	8.6/3	11.8/3
平成28-29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	諸謝金	0.2	0.2	国土形成計画で掲げる「対流促進方国土の形成」における海外との対流促進に向けて、訪日外国人旅行者の属性等を踏まえた流動状況をきめ細かく分析し、その知見を提供することで、各地域における施策への活用を図るため。 ・百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。					
	職員旅費	1	2						
	委員等旅費	0.3	0.3						
	国土形成推進調査費	14	18						
計	15.5	20.5							



政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標年度
		国土形成計画の着実な推進 (対21年度比で進捗が認められる代表指標の項目数)	実績値	項目数	9	8	-		-
			目標値	項目数	15	15	15		15
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	本事業は、新たな国土形成計画(全国計画)の実現に向けた施策を具体化するため、様々な交通機関、交通施策による総合的な交通体系の整備の推進により、生活交通の確保及び災害に強いしなやかな国土の形成を図るための調査を行うとともに、将来における総合的な交通体系に係る視点を提示するための調査検討を行うものであることから、上記代表指標のうち、「地域間の交流・連携のための国土基盤の形成」に資するものである。								
	改革項目	分野:	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度
		成果実績							
目標値									
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度	
	成果実績								
	目標値								
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
事業所管部局による点検・改善									
国費投入の必要性	項目	評価	評価に関する説明						
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	総合的な交通体系の整備は、国土形成計画(全国計画)の推進にも資するものであり、地方公共団体等から強いニーズ・関心がある。						
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	総合的な交通体系の整備は全国的な視点での調査が必要であり、調査の効率性の観点からも、国における対応が不可欠である。						
事業の効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	総合的な交通体系の整備は、新たな国土形成計画の中でもその必要性が掲げられており、優先度の高い事業である。						
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○							
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	調査内容が専門的かつ高度であることから、第三者機関である企画競争有識者委員会に諮り、最適な企画提案を評価したうえで委託先を選定している。						
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無							
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-							
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	調査内容が専門的かつ高度であり、年度毎の実施内容により予算額が異なるが、適切な積算に基づく予定価格を用いて契約を行っており、妥当である。						
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-							
費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	専門的かつ高度な調査を、社会的要請に応えた形で実施するためには、計画的対応が必要であり、内容を精選した上で業務発注をしている。							
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-								
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	専門的かつ高度な調査を社会的要請に応えた形で実施するためには、適正な発注方式を選定する必要があり、調査内容と発注方式を精選したうえで発注している。							

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	成果実績も着実に推移しており、概ね良好である。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	専門性が高い調査を、社会的要請に応えた形で実施するためには、適正な発注方式を選定する必要があり、調査内容と発注方式を精選したうえで発注している。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	いずれの活動実績も当初の見込み通りであり、概ね良好である。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	成果物は、関係行政機関等に提供するだけでなく、ホームページにおいても掲載し、広く活用されている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			-	
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方公共団体等から強いニーズ・関心があり、全国的な視点での調査が必要であることから、国が実施すべきものである。</li> <li>・透明性を確保した上で受注者を選定しており、競争性は十分に確保されている。また、専門性が高い調査を迅速かつ計画的に実施するため、内容を精選したうえで発注している。</li> <li>・総合的な交通体系の整備に係る具体的項目を調査検討したものであり、その成果物は広く活用されている。</li> </ul>			
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の成果について、引き続き利用者ニーズを把握しつつ、より一層の活用が図られるよう努める</li> <li>・受注者の選定に当たっては、引き続き透明性、競争性の確保に努める。</li> </ul>			
<b>外部有識者の所見</b>					
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>					
抜本的な改善	事業全体の改善	自治体の政策立案への反映など本事業の効果を検証し、必要あれば見直しを検討されたい。あわせて、活動指標についても本事業の効果(例えば成果物の活用実績)を定量的に把握できるものとなるよう見直しを検討されたい。			
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>					
執行等改善	改善	本事業の成果について、幅広い活用が図られるよう、HP等で広く情報を提供するとともに、想定される利用者(地方公共団体等)のニーズ把握や政策立案の実態等について、把握を行う。活動指標についても、上記の実態把握等を踏まえ、見直しを検討する。			
<b>備考</b>					
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>					
平成22年度	72	平成23年度	29	平成24年度	33
平成25年度	362	平成26年度	351	平成27年度	368



平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	総合的な交通体系の効果的な整備の推進			<b>担当部局庁</b>	総合政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成25年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総務課		課長 高原 修司		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>				<b>関係する計画、通知等</b>	新たな国土形成計画(全国計画)(平成27年8月14日閣議決定)				
<b>主要政策・施策</b>				<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	全国規模で旅客流動や移動に係る時間・費用等の交通サービス水準の現状を適切に把握し、定量的な分析を行った上で、施策の企画・立案、評価に反映させるほか、関係行政機関(国、地方公共団体)、大学や交通事業者等へ広く情報やツールを提供することで、需要予測の高度化、施設整備の定量的な効果把握、新たなサービスの創出等を促進し、総合的な交通体系の整備を効率的かつ効果的に推進する								
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	全国規模の幹線交通における旅客流動の実態を把握するため、各交通機関の所管部局における実態調査の結果を組み合わせ、モード横断的に旅客の流動量や個人属性、旅行目的等を把握可能なデータの作成を行う。また、刻々と変化する交通サービス水準について、既存の分析ツールに内蔵するデータの更新を図ることにより、最新の交通サービス水準を把握可能なデータの作成を行う。加えて、取りまとめたデータや分析ツールを関係行政機関(国、地方公共団体)、大学や交通事業者等へ提供することで、各関係主体における効率的かつ効果的な取組を促進し、総合的な交通体系の整備を推進する。								
<b>実施方法</b>	委託・請負								
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
	予算の状況	当初予算	40	39	32	32	41		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計	40	39	32	32	41			
執行額	39	39	32						
執行率(%)	98%	100%	100%						
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度
	平成28年度までに全国幹線旅客純流動調査結果(ローデータ)の利用件数を55件に引き上げる	累積利用件数	成果実績	件	21	36	45		
			目標値	件	-	55	55		55
			達成度	%	-	65	82		
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度
	平成28年度までに全国幹線旅客純流動調査の集計結果掲載ページへのアクセス件数を43,200件に引き上げる	累積アクセス件数	成果実績	件	-	14,397	29,966		
			目標値	件	-	43,200	43,200		43,200
			達成度	%	-	33	69		
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度
	平成28年度までに全国幹線旅客純流動調査結果を活用した各種検討を80件に引き上げる	「旅客流動の実態把握」、「将来需要予測」、「経済効果計測」の検討に活用された累積件数	成果実績	件	-	63	74		
			目標値	件	-	80	80		80
			達成度	%	-	79	93		
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度
	平成28年度までに総合交通分析システムの利用件数を200件に引き上げる	累積利用件数	成果実績	件	33	67	138		
			目標値	件	-	200	200		200
			達成度	%	-	34	69		
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度
	平成28年度までに総合交通分析システム利用者の目的達成度を100%に引き上げる	事後アンケート回答者の内、所期の目的が「完全に達成できた」、「概ね達成できた」と回答した人の割合	成果実績	%	-	82	83		
			目標値	%	-	100	100		100
			達成度	%	-	82	83		
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上[別紙1]に記載								<input type="checkbox"/> チェック	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	全国幹線旅客純流動調査のデータ作成における検討課題数		活動実績	件	5	33	14
	当初見込み	件	5	33	11	10	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	全国幹線旅客純流動調査委員会、幹事会の開催数		活動実績	回	-	3	4
	当初見込み	回	-	3	2	5	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	総合交通分析システムの改修項目数		活動実績	項目	-	20	17
	当初見込み	項目	-	13	14	1	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	総合交通分析システムの収蔵データ更新数		活動実績	件	7	7	7
	当初見込み	件	7	7	7	1	
単位当たりコスト	算出根拠	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	当年度執行額/当年度活動実績数		単位当たりコスト	百万円	9.8	9.6	7.9
		計算式	執行額/活動実績数	39.2/4	38.5/4	31.6/4	31.6/4

平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由
	職員旅費	0.2	0.2	全国幹線旅客純流動調査は、調査の準備から純流動データの作成・公表まで5カ年計画で実施しており、年度毎の実施内容により予算額が異なる。 平成27年度:調査実施計画書の作成、各交通機関の所管部局における実態調査の実施 平成28年度:全国幹線旅客純流動調査結果のとりまとめ、純流動データの作成に着手 平成29年度:全国幹線旅客純流動調査結果のとりまとめ、結果の公表 「新しい日本のための優先課題推進枠」7.0 ※百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。
	国土形成推進調査費	32	40	
	計	32.2	40.2	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備										
	施策	37 総合的な国土形成を推進する										
	政策評価	測定指標	定量的指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標年度	27年度	28年度	
			実績値		項目数	9	8	-		-		
		目標値	項目数	15	15	15		15				
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
	本事業は、全国規模の幹線交通における旅客流動の実態に関するデータや交通サービス水準に関する分析ツールを関係行政機関(国、地方公共団体)、大学や交通事業者等へ広く提供することで、需要予測の高度化、施設整備の定量的な効果把握、新たなサービスの創出等を促進し、総合的な交通体系の整備を効率的かつ効果的に推進することから、上記代表指標のうち、「円滑な交流・連携のための国土基盤の形成」に資するものである。											
	改革項目	分野:	-									
	アクション・プログラム (第一階層)	KPI (第一階層)	単位	計画開始時	27年度	28年度	中間目標	目標最終年度	27年度	28年度		
		成果実績										
目標値												
	達成度	%										
アクション・プログラム (第二階層)	KPI (第二階層)	単位	計画開始時	27年度	28年度	中間目標	目標最終年度	27年度	28年度			
	成果実績											
	目標値											
	達成度	%										
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係												

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	旅客流動の実態や交通サービス水準は、施策の企画・立案のほか、交通需要予測や施設の整備効果を把握する上で最も基本的な情報である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	地方自治体の区域を越えた全国規模の幹線交通を対象に実態把握を行うため、国における対応が不可欠である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	旅客流動の実態や交通サービス水準の把握は、施策の企画・立案のほか、交通需要予測や施設の整備効果を把握する上で最も基本的な情報となるため、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	調査内容が専門的かつ高度であることから、第三者機関である企画競争有識者委員会に諮ったうえで、委託先を選定しており、競争性を確保している。
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	調査内容が専門的かつ高度であり、年度毎の実施内容により予算額が異なるが、適切な積算に基づく予定価格を用いて契約を行っており、妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	大規模かつ専門性が高い調査を、変化する調査環境に対応しつつ、社会的要請に応えた形で実施するためには、計画的対応が必要であり、内容を精選した上で業務発注をしている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	平成27年度の総合交通分析システムの改修では、今後のランニングコストに配慮した改良を行った。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	いずれの成果実績も着実に推移しており、概ね良好である。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	平成27年度の総合交通分析システムの改修では、今後のランニングコストに配慮した改良を行った。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	いずれの活動実績も経年の累計で当初の見込み程度であり、概ね良好である。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	全国幹線旅客純流動調査の結果を関係行政機関や大学、交通事業者等へ提供するだけでなく、ホームページに集計結果を掲載することで広く活用された。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅客流動の実態や交通サービス水準の把握は、施策の企画・立案のほか、交通需要予測や施設の整備効果を把握する上で最も基本的な情報となるため、優先度の高い事業である。また、地方自治体の区域を越えた全国規模の幹線交通を対象に実態把握を行うため、国における対応が不可欠である。</li> <li>・透明性を確保した上で受注者を選定しており、競争性は十分に確保されている。また、専門性が高い調査を迅速かつ計画的に実施するため、内容を精選した上で発注している。</li> </ul>	
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の成果について、引き続き利用者ニーズを把握しつつ、より一層の活用が図られるよう努める。</li> <li>・受注者の選定にあたっては、引き続き透明性、競争性の確保に努める。</li> </ul>	

外部有識者の所見

行政事業レビュー推進チームの所見

事業内容の  
一部改善

本件事業の成果が活用されるよう、利用実態の把握や想定ユーザーへのPR活動に取り組まれない。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執行等  
改善

本事業の利用実態の把握するために、利用者へのアンケートを実施するとともに、幅広い活用が図られるようHP等での情報公開を引き続き行う。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-
平成25年度	新25-51	平成26年度	353	平成27年度	369

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省  
32百万円

〔旅客流動の実態や交通サービス水準の現状を把握・分析し、施策の企画・立案、評価に反映するとともに、関係機関等へ広く情報やツールを提供することで、総合的な交通体系の整備を推進するための調査検討〕

〔総合的な交通体系の効果的な整備の推進事業に係る事務費  
0.2百万円  
①職員旅費 0.2百万円〕

【随意契約(企画競争)】

A. (一財)運輸政策研究機構・  
株式会社三菱総合研究所  
16.5百万円

〔幹線旅客流動の把握に関する調査の実施〕

【随意契約(企画競争)】

B. 株式会社ライテック  
14百万円

〔総合的な交通体系の評価手法高度化業務の実施〕

【一般競争入札】

C. 株式会社ライテック  
1.0百万円

〔総合交通分析システム(NITAS)運用支援業務〕

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位: 百万円)





平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	大規模災害に備えた国土形成に資する総合交通体系の確保に係る調査検討			<b>担当部局庁</b>	総合政策局			<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始年度</b>	平成26年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	平成27年度	<b>担当課室</b>	総務課			課長 高原 修司			
<b>会計区分</b>	一般会計										
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画(全国計画)(平成20年7月4日閣議決定) 国土強靱化政策大綱(平成25年12月17日国土強靱化推進本部決定)						
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費						
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	大規模災害発生時において基幹的陸上交通ネットワークが機能停止する事態を回避するため、輸送モード毎の代替性の確保だけでなく、災害時における輸送モード相互の連携・代替性の確保を図る。										
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	大規模災害時において基幹的陸上交通ネットワークが機能停止となった場合に、人流・交通サービスへの影響を最小化することで経済社会活動が機能不全に陥る事態を回避する必要があり、大規模地震等の災害発生時における人流・交通サービスへの影響を推計・分析し、シナリオ検証を踏まえつつ、持続的な社会・経済に必要な人流レベルを想定するとともに、当該影響を軽減するための交通モードを超えたハード・ソフトによる対策のあり方を調査検討する。										
<b>実施方法</b>	委託・請負										
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	-	26年度	14	27年度	13	28年度	-	29年度要求
		補正予算	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		計	0	14	13	0	0				
	執行額	-	14	13	-	-					
	執行率(%)	-	100%	100%	-	-					
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度			
	大規模自然災害発生後においても、経済活動を機能不全に陥らせないための輸送モード相互の連携・代替性の確保	国土強靱化地域計画を策定した都道府県のうち、当該計画において、基幹的陸上交通ネットワークの機能停止を想定した都道府県数	成果実績	%	0	100	100	-	-		
			目標値	%	0	100	100	-	-		
			達成度	%	0	100	100	-	-		
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								<input type="checkbox"/> チェック			
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込					
	基幹的陸上交通ネットワークが機能停止となる被災シナリオに基づく検証パターン数	活動実績	件	-	4	3	-				
		当初見込み	件	-	4	4	-				
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込					
	当年度執行額/当年度活動実績数	単位当たりコスト	百万円	-	13	12.6	-				
		計算式	/	-	13/1	12.6/1	-				
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由							
	計	0	0								

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標年度
		国土形成計画の着実な推進 (対21年度比で進捗が認められる代表指標の項目数)	実績値	項目数	9	8	-		-
			目標値	項目数	15	15	15		15
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	本事業は、大規模地震等の災害発生時における人流・交通サービスへの影響を推計・分析し、シナリオ検証を踏まえつつ、持続的な社会・経済に必要な人流レベルを想定するとともに、当該影響を軽減するための交通モードを超えたハード・ソフトによる対策のあり方を調査検討するものであることから、上記代表指標のうち、「災害に強い国土構造の再構築」に資するものである。								
	改革項目	分野:	-						
	KPI (第一階層)	KPI (第一階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度
		成果実績							
目標値									
KPI (第二階層)	KPI (第二階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度	
	成果実績								
	目標値								
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
事業所管部局による点検・改善									
国費投入の必要性	項目	評価	評価に関する説明						
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	大規模災害に備えた総合交通体系の整備は、国土強靱化の推進にも資するものであり、地方公共団体等から強いニーズ・関心がある。						
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	大規模災害に備えた総合交通体系の整備は全国的な視点での調査が必要であり、調査の効率性の観点からも、国における対応が不可欠である。						
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	国土強靱化アクションプログラムにおいて、「太平洋ベルト地帯の幹線が分断する等、基幹的陸上海上交通ネットワークの機能停止」が15の重点化プログラムに抽出されるなど、優先度の高い事業である。						
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○							
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	調査内容が専門的かつ高度であることから、第三者機関である企画競争有識者委員会に諮り、最適な企画提案を評価したうえで委託先を選定している。						
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無							
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-							
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-							
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-							
事業の有効性	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	専門的かつ高度な調査を、社会的要請に応えた形で実施するためには、計画的対応が必要であり、内容を精選した上で業務発注をしている。						
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-							
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	専門的かつ高度な調査を社会的要請に応えた形で実施するためには、適正な発注方式を選定する必要があり、調査内容と発注方式を精選したうえで発注している。						
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	H27完了したところであり、見込みに見合うものである。						
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	専門性が高い調査を、社会的要請に応えた形で実施するためには、適正な発注方式を選定する必要があり、調査内容と発注方式を精選したうえで発注している。						
活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	H27完了したところであり、見込みに見合うものである。							
整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	H27完了したところであり、見込みに見合うものである。							

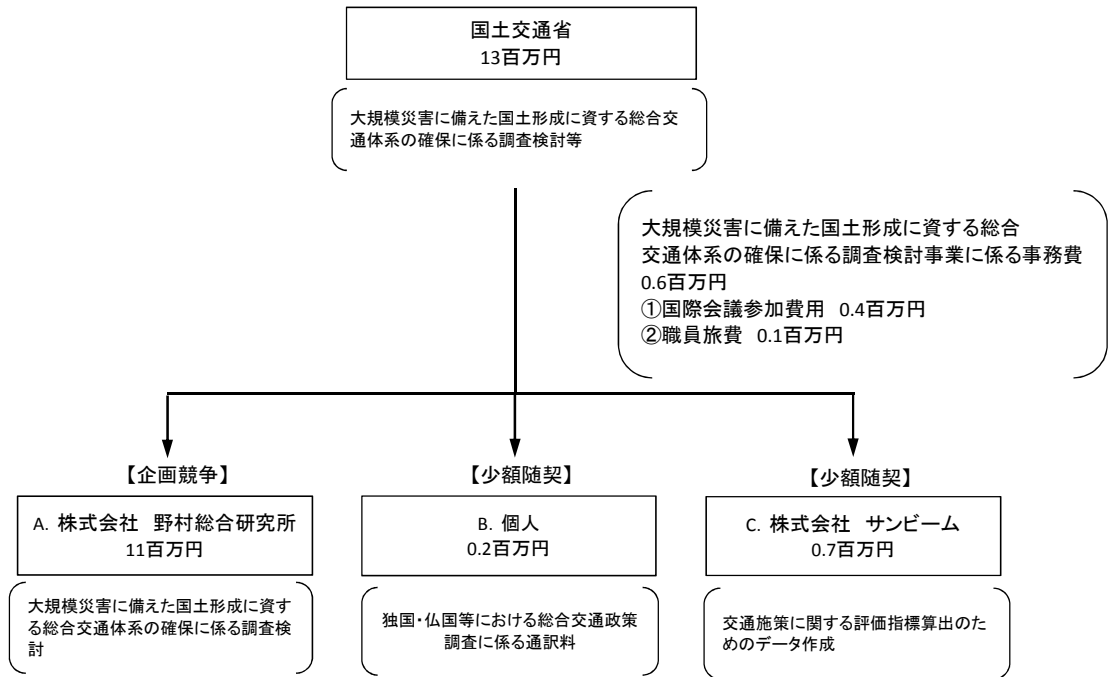
<b>関連事業</b>	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	所管府省・部局名	事業番号	事業名
<b>点検・改善結果</b>	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方公共団体等から強いニーズ・関心があり、全国的な視点での調査が必要であることから、国が実施すべきものである。</li> <li>・透明性を確保した上で受注者を選定しており、競争性は十分に確保されている。また、専門性が高い調査を迅速かつ計画的に実施するため、内容を精選したうえで発注している。</li> <li>・大規模災害時における人流の需供緩和に関する調査検討を行うものであり、その成果物は広く活用される予定。</li> </ul>	
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の成果について、引き続き利用者ニーズを把握しつつ、より一層の活用が図られるよう努める</li> </ul>	
<b>外部有識者の所見</b>			
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>			
終了予定		<p>本件事業のこれまでの成果が十分に活用されるよう取り組まれたい。</p>	
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>			
予定通り終了		<p>本事業の成果について、幅広い活用が図られるよう、広く情報を提供する。</p>	
<b>備考</b>			

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	—	平成23年度	—	平成24年度	—	
平成25年度	新26-73	平成26年度	新26-056	平成27年度	370	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)



費目・用途  
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A.株式会社 野村総合研究所			B.個人		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
役務費	大規模災害時における人流への影響などの分析等を行うための調査検討	11	役務費	独国・仏国等における総合交通政策調査に係る通訳料	0.2
計		11	計		0.2
C.株式会社 サンビーム			D.		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
役務費	交通施策に関する評価指標算出のためのデータ作成	0.7			
計		0.7	計		0



平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	歩行者移動支援の普及・活用の推進			<b>担当部局庁</b>	総合政策局			<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始年度</b>	平成26年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総務課			課長 高原 修司	
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	新たな国土形成計画(全国計画)(平成27年8月14日閣議決定)				
<b>主要政策・施策</b>	観光立国、高齢社会対策、障害者施策、IT戦略、2020年東京オリパラ			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	高齢者や障害者、訪日外国人なども含め誰もがストレス無く自由に活躍できるユニバーサル社会の構築のため、ICTを活用した歩行者移動支援サービス(以下「サービス」という。)の普及促進を図る。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	上記目的を実現するために、有識者委員会にて「オープンデータによる歩行者移動支援サービスの普及促進に向けた提言」(平成27年4月)を取りまとめ、提言を踏まえ「歩行者移動支援サービスに関するデータサイト」(平成27年7月)を開設した。情報コンテンツは国から率先してオープンデータを推進することからバリアフリーに基づく旅客施設のバリアフリーデータ、ユニバーサル情報や訪日外国人向け観光情報を掲載している。今後は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技会場周辺等におけるオープンデータの先行整備・利用促進を図りネットワークデータの整備充実を実施する。								
<b>実施方法</b>	委託・請負								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	0	39	35	42	44		
		前年度から繰越し	0	0	0	0			
		翌年度へ繰越し	0	0	0	0			
		予備費等	0	0	0	0			
		計	0	39	35	42	44		
	執行額	0	38	33					
	執行率(%)	-	97%	94%					
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度
	平成30年度までに、歩行者移動支援専用サイト(平成27年7月開設)に10,000施設以上のデータを掲載すること。	歩行者移動支援専用サイトに掲載した「施設に関するデータ」の施設数	成果実績	施設	-	-	50,000	-	
			目標値	施設	-	-	-	-	10,000
			達成度	%	-	-	100	-	
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度
	平成30年度までに、歩行者移動支援専用サイト(平成27年7月開設)の掲載データを用いて100件以上のアプリが作成されること。	歩行者移動支援専用サイトの掲載データで作成されたアプリの件数	成果実績	件	-	-	6		
			目標値	件	-	-	-		100
			達成度	%	-	-	6		
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載 <input type="checkbox"/> チェック									
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	普及促進に向けた検討のための調査項目数	活動実績	項目	-	16	8			
		当初見込み	項目	-	14	8	7		
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	ICTを活用した歩行者移動支援の普及促進検討委員会の開催回数	活動実績	回	-	3	3			
		当初見込み	回	-	3	2	2		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	-	単位当たりコスト							
		計算式							

平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由 2020東京オリンピックパラリンピック競技大会も控え、訪日外国人旅行者や高齢者、障害者等も含め誰もがストレス無く自由に活動できるユニバーサル社会の構築に向け、ICTを活用した歩行者移動支援サービスの普及促進を図るため、オープンデータを活用した多様なサービスが民間の様々な主体により提供できる環境を整備する必要があるため。 百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。
	諸謝金	0.2	0.4	
	職員旅費	0.2	0.3	
	委員等旅費	0.1	0.4	
	国土形成計画推進調査費	41.9	42.4	
計	42.4	43.5		

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備									
	施策	37 総合的な国土形成を推進する									
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標年度	27年度	目標年度
		国土形成計画の着実な推進 (対21年度比で進捗が認められる代表指数の項目数)	実績値	項目数	9	8	-		-		
			目標値	項目数	15	15	15		15		
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	本事業はICTを活用した歩行者移動支援サービスの普及・促進を実施するもので、関係行政機関(国、地方公共団体)、公益団体、民間団体が保有する施設管理データをオープンデータ化し、バリアフリー情報を考慮した経路案内情報を初めとした様々なサービスの創出を促すもので、総合的な交通体系の整備を効果的に推進することであることから、上記代表指標のうち、「地域間の交流・連携と地域への人の誘致・移動の促進」に資するものである。										
	改革項目	分野:	-								
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度		
		-	成果実績								
目標値											
達成度	%										
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度			
	-	成果実績									
		目標値									
達成度		%									
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
-											

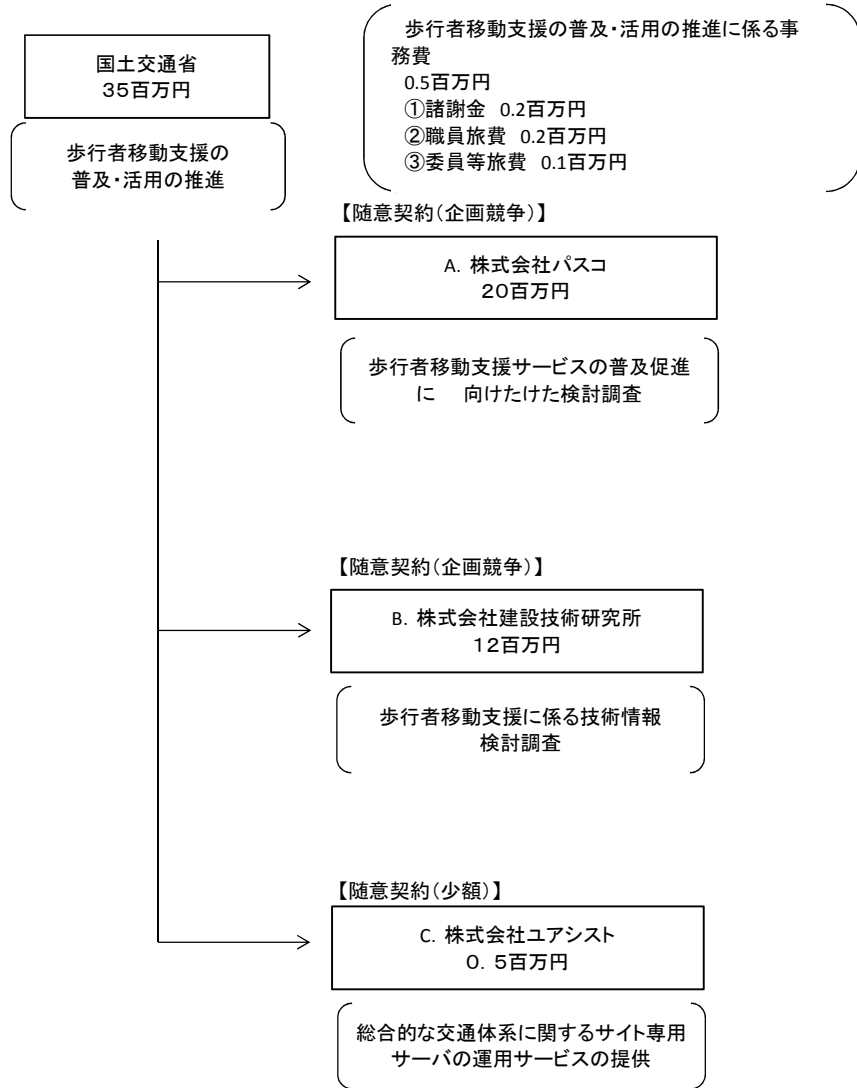


事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	高齢者や障害者をはじめ誰もが必要に応じて移動に関する情報を入手し、積極的に活動ができるユニバーサル社会の構築を目的としているため。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国が率先して取り組むことで自治体等によるオープンデータ等を促進し、民間等様々な主体により多様なサービスが提供されていくための環境整備を行う必要があるため。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	有識者委員会の提言でも述べられているとおり、効率的な達成のためにはオープンデータ化の推進等オープンデータ環境の整備が急務なため。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	調査内容が専門的かつ高度であることから、第三者機関である企画競争有識者委員会に諮り、最適な企画提案を評価したうえで委託先を選定している。
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
事業の有効性	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	専門性かつ高度な調査を社会的要請に応えた形で実施するため、調査内容と発注方法を精選した上で発注している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	専門的かつ高度な調査を社会的要請に応えた形で実施するためには、適正な発注方式を選定する必要があり、調査内容と発注方法を精選した上で発注している。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	いずれの成果実績も、最終目標年度に向け、成果目標に見合ったものになる予定。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	これまでの検討経緯より、オープンデータ化の推進が最も効果的な達成手段であることがわかっているため。
関連事業	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	当初の見込みと大きく乖離することなく、概ね良好である。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	有識者委員会において取りまとめの役割に発言を活用し、オープンデータ化等の推進等普及促進策を着実に実施している。
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省・部局名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	歩行者移動支援の効率的な普及促進の為に必要な検討及び環境整備を実施するものであり、国が実施すべきものである。	
	改善の方向性	引き続き、価格面での競争が働く企画競争実施の公示を早期に行い、業務期間の十分な確保を図ることにより、より一層の競争生の確保に努める。	
外部有識者の所見			
行政事業レビュー推進チームの所見			
事業内容の一部改善	本件事業の成果の活用に向け、より多くの関係者の関与が得られるよう、事業の実施過程において工夫されたい。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
執行等改善	本事業の実施に当たっては、外部有識者や自治体による委員会の開催に加えて、民間事業者等へのヒアリングを行うこととし、検討過程・成果についてもHP等を通じて周知・活用を図っていく。		
備考			

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	87	平成23年度	033	平成24年度	036	
平成25年度	365	平成26年度	352.新26-057	平成27年度	371	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)



平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>		官民連携基盤整備推進調査費		<b>担当部局庁</b>	国土政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成23年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	広域地方政策課調整室		室長 吉田 秀範		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画(全国計画、広域地方計画) 官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援調査費補助金交付要綱				
<b>主要政策・施策</b>	観光立国			<b>主要経費</b>	公共事業				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	官民の多様な主体の連携による地域づくりを通じて地域ポテンシャルを引き出し、各地域の個性や強みを活かした特色ある成長を図るためには、民間の事業活動等と一体的に基盤整備を推進する事により、効果的・効率的な基盤整備事業を行う必要がある。民間の意思決定のタイミングに合わせ、機を逸することなく事業実施段階への円滑な移行を図ることにより、基盤整備の効果発現を早め、民間の活力を最大限活かすことを目的とする。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	地方公共団体が行う基盤整備事業に対して、民間等が行う集客施設や生産・物流拠点の立地等と一体的に整備することにより、優れた効果の早期発現や効率性が期待できる場合、その事業化に向けた必要な検討に要する経費の一部を支援する。 配分先:都道府県、市町村 補助率:1/2								
<b>実施方法</b>	補助								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	9	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	466	397	397	357	419		
	執行額	62	228	217	-	-			
	執行率(%)	13%	57%	55%	-	-			
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	調査実施箇所において調査実施から3年後までに8割を事業実施段階へ移行する。※各年度の目標値は段階的に記載	調査実施箇所における調査実施から事業実施段階への移行割合(平成25年度事業:8割、平成26年度事業:4割、平成27年度事業:0割)	成果実績	%	83	42	11	-	-
			目標値	%	80	40	0	80	80
			達成度	%	104	105	-	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック		
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	調査実施箇所数	活動実績	箇所	7	26	18	-		
		当初見込み	箇所	-	-	30	30		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	各年度の実績額(単位:百万円)÷各年度の調査実施箇所数(単位:箇所)	単位当たりコスト	百万円/箇所	9	9	12	12		
		計算式	百万円/箇所	62÷7	228/26	217/18	357/30		
平成28年度 位:百万円) 29年度 予算内訳 (単	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	官民連携基盤整備調査費補助	357	419	「新しい日本のための優先課題推進枠」J96					
	計	357	419						

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	民間の意思決定のタイミングに合わせ、事業実施段階への円滑な移行を図ることにより、民間投資の誘発等地域の活性化に資する社会資本整備を適切かつ着実に実施する。これによりストック効果を最大限に発揮できる国土基盤の充実を目指す。								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績							
目標値									
達成度		%							
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績								
	目標値								
	達成度	%							
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	「社会資本整備については、民間投資誘発効果の高い事業や、国民の安全・安心を確保するストック効果の高い社会資本へと選択と集中を進める。」としている。(経済財政運営と改革の基本方針2016より)
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	民間活力を活かした地域の活性化は、国として推進している施策であり、国からの一定の支援は必要である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	「社会資本整備については、民間投資誘発効果の高い事業や、国民の安全・安心を確保するストック効果の高い社会資本へと選択と集中を進める。」としている。(経済財政運営と改革の基本方針2016より)
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	本事業は補助事業であるため、直接の委託契約は行っていない。なお、支援案件の選定に当たっては財務省実施計画協議を実施している。
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	要綱に基づき地方公共団体に適正な負担を求めている。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	地方公共団体は、目的を達成するために適正な費用を申請しており、その額を過去の類似案件と比較するなどして査定している。また、本事業の実施により、調査に要する期間が短縮され、官民双方の計画が合理的となることで単位当たりコストの低減が図られた。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	関連法律に基づき適正に執行されるよう指導している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	要綱を定め、それに基づき申請内容を精査し、1件ごとに財務省と協議した上で支援の可否を決定している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	当初、本事業の活用を予定していた地方公共団体の一部が、申請に至らなかった。	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	関係機関への周知や、地域のニーズに応じたより実行性の高い制度となるよう支援対象の拡充を図ってきている。	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	成果実績である。「調査実施から事業実施段階へ移行した割合」は成果目標を超えている。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	調査支援により事業の内容・規模が適正化・効率化される。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	当初、本事業の活用を予定していた地方公共団体の一部が、申請に至らなかったため、当初の見込みより活動実績がやや少なくなっている。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	基盤整備の事業実施段階への移行に寄与している。		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	本調査費の支援対象は、事業の構想及び概略設計という事業検討段階の上流におけるPPP/PFIに限らない民間の事業活動等と一体的に基盤整備を推進するための検討調査である。 本調査は迅速に事業へ移行できるPPP/PFI手法の導入・実施検討調査を支援対象としているが、官民連携政策課の先導的官民連携支援事業は、事業手法検討段階での先導的なPPP/PFI手法の導入・実施のための検討調査が支援対象である。 また、国土交通省所管の他の調査事業の対象となるものは本事業の対象外と規定しており、他部局と適切に役割分担を行っている。		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
	総合政策局官民連携政策課		先導的官民連携支援事業			
点検・改善結果	点検結果	昨年度の行政事業レビューにおける点検結果や行政事業レビュー推進チームのご指摘を踏まえ、平成27年度までの実施計画協議の結果を元に、採択可否の判断を行うにあたっての論点を整理し、採択基準を作成した。また、本事業が有効に活用されるようパンフレットの配布や事例集をHPを通じた広報、関係機関への周知を行うとともに、採択の対象となりうる調査の内容等についてより具体的な助言・情報提供を行った。その結果、本事業の平成28年度第1回配分においては、22件の実施(国費合計202百万円)を決定したところである。				
	改善の方向性	本事業が有効に活用されるよう引き続き制度の周知を図るとともに、より地域のニーズに応じた支援制度となるよう、本事業に係るアンケート調査の結果や現地調査、ヒアリング調査等の結果を踏まえて制度の改善を図る。				
<b>外部有識者の所見</b>						
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>						
事業内容の改善	27年度行政事業レビューを踏まえて採択基準の明確化など抜本的改善を行ったところであり、引き続き、関係機関への周知、助言・情報提供等を通じて事業の有効活用に努める。					
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>						
執行等改善	地方公共団体等に対しHPや説明会で制度のPRを行うとともに、事業そのものを強く推進していくことを引き続き努めていく。 また、官民連携による地域活性化の推進については、地方公共団体の規模の大小に関わらず支援すべき施策であり、地方公共団体の経験・能力に応じ、応募申請前や申請手続きから調査終了後まで適宜助言を行い、円滑に本制度を活用できるように丁寧な対応を行っていく。					
<b>備考</b>						
【平成27年度公開プロセス結果及びとりまとめコメント】(事業番号372、事業名:官民連携基盤整備推進調査費) ①調査が実際の事業に結びついた割合を入れるなど、成果目標をより具体的なものに見直すべき。②採択基準を明確にすべき。③調査の対象をより明確にしつつ、適用事例を積極的にPRするなどして、実績を上げるべき。また、事業化できていないものの分析(原因)も周知すべき。④国が補助することで国の関与・関心が明確になることによって、課題の解決の可能性が高まることは認められるため、事業そのものは強く推進するべき。一方、自治体の能力に応じた補助のあり方の見直しを検討してもよい。						
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>						
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	60	
平成25年度	366	平成26年度	355	平成27年度	372	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省  
国土政策局  
217百万円

[ 予算の配分 ]

【補助】

A. 地方公共団体(18団体)  
217百万円

( 官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業の実施 )

〈名古屋市の例〉

調査委託費  
31百万円  
〈実績報告ベース〉

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・使途  
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.名古屋市			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
補助金	名古屋市への補助金の交付	31			
計		31	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック





平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	多様な主体の理解の促進			<b>担当部局庁</b>	国土政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成18年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総合計画課		課長 中村 貴志		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	国土形成計画法第2条、第3条 国土利用計画法第2条、第4条			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画(全国計画)(平成20年7月閣議決定) 第2次国土形成計画(全国計画)(平成27年8月閣議決定) 第4次国土利用計画(全国計画)(平成20年7月閣議決定) 第5次国土利用計画(全国計画)(平成27年8月閣議決定)				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3程度以内)</b>	第1次国土形成計画(全国計画)が平成27年8月に改正された。また同時に、第4次国土利用計画(全国計画)も改正された。前計画及び第2次国土形成計画(全国計画)、第4次・第5次国土利用計画(全国計画)を推進するため、国・地方公共団体・企業・NPO・国民一人一人の多様な主体による計画への理解を図るとともに、各主体の国土づくり・地域づくりへの参画を促すことを目的とする。								
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	多様な主体の理解を促進するため、地方の住民に対して計画の内容をわかりやすく周知する国土政策フォーラムの開催や、国、地方公共団体の計画担当職員との意見交換や討論を行う国土計画研究交流会の開催、ホームページによる国土計画関係情報の提供等を実施する。								
<b>実施方法</b>	直接実施、委託・請負								
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	9	9	8	8	7		
	執行額	5	7	8	-				
	執行率(%)	56%	78%	100%	-				
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	第1次国土形成計画(全国計画)の戦略的目標5項目の評価指標を、H20年度比で改善する	第1次国土形成計画の戦略的目標5項目の評価指標 * H27実績は把握予定	成果実績	指標数	5	3	-	-	-
			目標値	改善指標数	5	5	5	-	-
			達成度	%	100	60	-	-	-
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	新たな国土形成計画(全国計画)における国土の基本構想実現のための具体的方向性に関する8項目の評価指標を、平成27年度比で改善する	新たな国土形成計画(全国計画)における国土の基本構想実現のための具体的方向性に関する8項目の評価指標	成果実績	指標数	-	-	-	-	-
			目標値	改善指標数	-	-	-	-	8
			達成度	%	-	-	-	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								<input type="checkbox"/> チェック	
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	国土政策フォーラムの開催件数	活動実績	件数	2	2	3	-		
		当初見込み	件数	2	2	2	2		
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	国土計画研究交流会の開催件数	活動実績	件数	1	1	1	-		
		当初見込み	件数	1	1	1	1		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	フォーラム等開催経費/開催件数	単位当たりコスト	百万円	1	1	1	1		
		計算式	経費/件数		2/3	2/3	3/4	2/3	

平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由
	諸謝金	1	1	※百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。
	職員旅費	1	1	
	委員等旅費	0.9	1	
	国土形成推進調査費	5	5	
計	7.9	8		

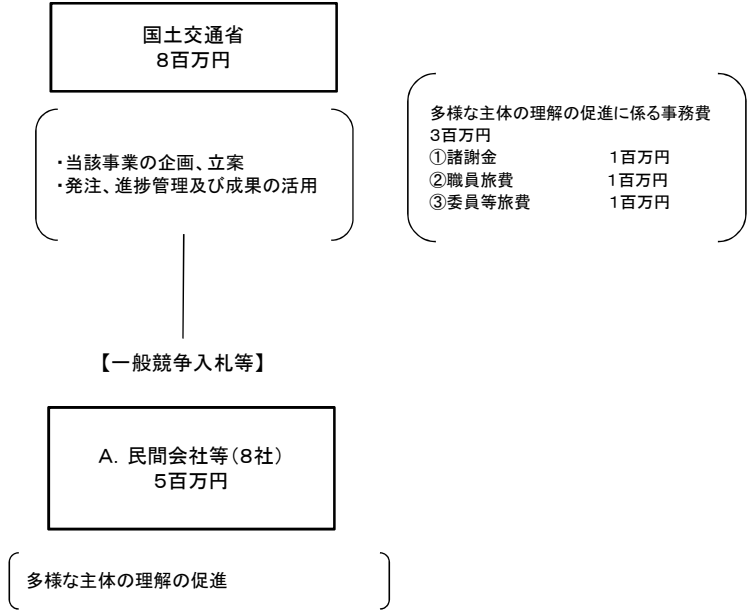
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
		施策	37 総合的な国土形成を推進する						
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	本事業を通じて、多様な主体による国土形成計画及び国土利用計画への理解の醸成や国土づくり・地域づくりへの参画が進み、総合的な国土の形成が推進される。								
	改革項目	分野:	-	-					
	KPI (第一階層)	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績							
目標値									
達成度		%							
KPI (第二階層)	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績								
	目標値								
	達成度	%							
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	国土の形成において、国民の意見やニーズを反映することを目的とする。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	閣議決定された国土形成計画等について、国として積極的にこれを推進するための事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	閣議決定された国土形成計画等について、国として積極的にこれを推進するための事業である。

事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	一般競争入札を実施し、競争性の確保、コスト最適化を図った。			
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無				
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無				
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	一般競争入札を実施し、競争性の確保、コスト最適化を図った。			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-			
事業の有効性	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	調査の進捗管理や成果物の確認を適正に行い、真に必要なものに限定している。			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-			
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	調査の進捗管理や成果物の確認を適正に行い、真に必要なものに限定している。			
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	成果実績は成果目標の達成に寄与した。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	活動見込みを達成した。			
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	より効果を上げるような企画内容となるよう、成果を活用している。			
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-	-			
	所管府省・部局名	事業番号	事業名	-			
点検・改善結果	点検結果	・フォーラムや研究会の開催にあたっては、内容の充実にむけた検討にとどまらず、開催のための情報収集や広報を積極的に行い、安価な会場の確保、記者発表の実施、より多くの参加者の確保など、より一層の経費の縮減と効果的な執行に努めている。 ・参加者へアンケートを実施し、その結果を関係者へフィードバックすることにより開催効果を一層高めるとともに、当該年度の検証を行い、翌年度の実施内容・手法について一層の向上に努めている。					
	改善の方向性	平成27年8月に閣議決定された国土形成計画等の推進に向けて、昨今の社会情勢や地域課題などを開催テーマに踏まえつつ、限られた予算の中で一層効果的な事業の推進に努めていく。					
<b>外部有識者の所見</b>							
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>							
事業内容の改善	新たな国土形成計画の推進に向けて、引き続き、限られた経費を効率的に執行できるよう業務の改善に努める。						
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>							
執行等改善	フォーラムや研究会の開催概要の再点検を行うなど引き続き効率的な執行に努める。						
<b>備考</b>							
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>							
平成22年度	369	平成23年度	62	平成24年度	75		
平成25年度	369	平成26年度	356	平成27年度	373		

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)



費目・使途  
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で表情が分かるように記載)

A. 一般財団法人土地総合研究所			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
請負	事業の企画、立案	1			
計		1	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック



平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	国土形成計画等の進捗管理			<b>担当部局庁</b>	国土政策局			<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始年度</b>	平成18年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総合計画課			課長 中村 貴志	
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	国土形成計画法第2条、第3条 国土利用計画法第2条、第4条			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画(全国計画)(平成20年7月閣議決定) 第2次国土形成計画(全国計画)(平成27年8月閣議決定) 第4次国土利用計画(全国計画)(平成20年7月閣議決定) 第5次国土利用計画(全国計画)(平成27年8月閣議決定)				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国土形成計画法に基づく国土形成計画(全国計画)及び国土利用計画法に基づく国土利用計画(全国計画)について、的確な進捗管理を行い、計画の推進施策の改善に役立てることを目的とする。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	国土形成計画(全国計画)及び国土利用計画(全国計画)の目標の達成状況を把握する。具体的には、国土形成計画に記載された8つの国土の基本構想実現のための具体的な方向性(個性ある地方の創生、活力ある大都市圏の整備等)及び国土利用計画に記載された国土利用の基本方針(適切な国土管理、自然環境を保全等する国土利用、安全・安心を実現する国土利用)の目標達成状況を数値等で把握するため、国土形成・国土利用に関する各種データを収集・整理する。								
<b>実施方法</b>	直接実施、委託・請負								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	81	78	12	10	10		
	執行額	69	71	7					
	執行率(%)	85%	91%	58%					
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	全ての進捗状況調査の結果を計画の推進に反映させる	国土形成計画(全国計画)の推進に反映したモニタリング項目数 * H27実績は把握予定	成果実績	項目数	5	5		-	-
			目標値	項目数	5	5	5	-	-
			達成度	%	100	100		-	-
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	全ての進捗状況調査の結果を計画の推進に反映させる	新たな国土形成計画(全国計画)の推進に反映したモニタリング項目数	成果実績	項目数	-	-	-	-	-
			目標値	項目数	-	-	-	-	8
			達成度	%	-	-	-	-	-
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載</b>								<input type="checkbox"/> チェック	
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	モニタリング実施項目数	活動実績	項目数	5	5	5	-		
		当初見込み	項目数	5	5	5	8		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	調査関係経費/調査実施件数	単位当たりコスト	百万円	4.5	4.4	1.4	5		
		計算式	経費/件数	77/17	66/15	7/5	10/2		
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	国土形成推進調査費	10	10						
	計	10	10						

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
			実績値	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	本事業を通じて、国土形成計画等のPDCAが実施され、国土の形成が推進される。								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
			成果実績						
		目標値							
		達成度	%						
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
		成果実績							
		目標値							
		達成度	%						
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	国民を含めた幅広い意見を聴取して策定された国土形成計画等の進捗管理を行うものであり、国民や社会のニーズを的確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国が策定する国土形成計画等の進捗状況をモニタリングするものであり、国の責任で実施すべきものである。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	国土形成計画等の進捗状況をモニタリングするものであり、計画推進のために必要なプロセスとして、優先度の高いものである。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	一般競争入札を実施し、競争性の確保、コスト最適化を図った。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	一般競争入札を実施し、競争性の確保、コスト最適化を図った。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	調査の進捗管理や成果物の確認を適正に行い、真に必要なものに限定している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	落札残等による	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	調査の進捗管理や成果物の確認を適正に行い、真に必要なものに限定している。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	全ての進捗状況調査の結果を計画の推進に反映させており、成果目標に見合った実績を上げている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	全ての進捗状況調査の結果を計画の推進に反映させており、見込みに見合った活動実績を上げている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	モニタリング結果は、ホームページにて公表するとともに、国土形成計画等の進捗管理、政策評価等に活用されるものである。

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-				
	所管府省・部局名	事業番号	事業名				
点検・改善結果	点検結果	・発注先の選定にあたって、一般競争入札を実施し、透明性・公平性・競争性の確保を図っている。 ・業務の実施にあたっては、調査の進捗を適宜確認するとともに、打ち合わせや完了時の検査により業務の実施状況及び成果について確認を行っている。					
	改善の方向性	・新たな国土形成計画等の効率的かつ効果的な進行管理のために取り組むべき課題を精査し、調査結果が国土・地域づくりの具体的な対策に活かされるよう、引き続き必要な調査を実施するとともに、調査成果については、積極的に情報発信をしていく。					
<b>外部有識者の所見</b>							
事業目的、事業概要をより丁寧に説明すべきである。アウトプット、アウトカムの適切さが判断できない。							
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>							
事業内容の一部改善	新しい国土形成計画にふさわしいモニタリング体制について検討を行う。合わせて、外部有識者から指摘のあった事業目的等の説明の改善を図る。						
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>							
執行等改善	第2次国土形成計画の進捗管理を的確に実施できるよう、モニタリング体系について検討を行う。また、事業概要の説明を詳細に記載し、事業内容を把握できるよう改善した。						
<b>備考</b>							
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>							
平成22年度	73	平成23年度	63	平成24年度	76		
平成25年度	370	平成26年度	357	平成27年度	374		
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：百万円)	※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。						
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">国土交通省 7百万円</div> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">           ・当該事業の企画、立案            ・発注、進捗管理及び成果の活用         </div> </div> <div style="margin: 10px 0;"> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <b>【一般競争入札等】</b>            A. 民間会社等(3社)            7百万円         </div> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">国土形成計画等の進捗管理</div> </div>						





平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	国土形成計画等の基礎的・長期的検討			<b>担当部局庁</b>	国土政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成18年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総合計画課		課長 中村 貴志		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	国土形成計画法第2条、第3条 国土利用計画法第2条、第4条			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画(全国計画)(平成20年7月閣議決定) 第2次国土形成計画(全国計画)(平成27年8月閣議決定) 第4次国土利用計画(全国計画)(平成20年7月閣議決定) 第5次国土利用計画(全国計画)(平成27年8月閣議決定)				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	国土形成計画(全国計画)及び国土利用計画(全国計画)は、経済・社会等に関する総合的見地から国土の利用・整備・保全を推進するための計画であり、常に社会経済情勢等に即した実効性・即時性を伴った計画である必要がある。このため、我が国及び世界における人口、産業その他の社会経済構造の変化を把握するとともに、経済社会情勢の変化等を踏まえて、国土政策の新たな課題に関する分析等を行いその結果を計画に反映し、国土政策を推進することを目的とする。								
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	我が国の人口、産業その他の社会経済構造の動向を把握・分析する。また、平成27年3月に国土審議会計画部会がとりまとめた「新たな国土形成計画(全国計画)中間とりまとめ(案)」及び「第五次国土利用計画(全国計画)骨子(案)」で示された国土政策の新たな課題を踏まえ、具体的な課題分析や国土の形成に資する施策の検討を行う。								
<b>実施方法</b>	直接実施、委託・請負								
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
	予算の状況	当初予算	107	156	152	136	133		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	107	156	152	136	133		
	執行額	96	151	135	-	-			
執行率(%)	90%	97%	89%	-	-				
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	第1次国土形成計画(全国計画)の戦略的目標5項目の評価指標を、H20年度比で改善する	第1次国土形成計画の戦略的目標5項目の評価指標 * H27実績は把握予定	成果実績	指標数	5	3	-	-	-
			目標値	改善指標数	5	5	5	-	-
			達成度	%	100	60	-	-	
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	新たな国土形成計画(全国計画)における国土の基本構想実現のための具体的な方向性に関する8項目の評価指標を、平成27年度比で改善する	新たな国土形成計画(全国計画)における国土の基本構想実現のための具体的な方向性に関する8項目の評価指標	成果実績	指標数	-	-	-	-	-
			目標値	改善指標数	-	-	-	-	8
			達成度	%	-	-	-	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								<input type="checkbox"/> チェック	
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	調査実施件数	活動実績	件数	9	19	16	-		
		当初見込み	件数	9	19	16	9		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	調査関係経費/調査実施件数	単位当たりコスト	百万円	10	8	8	11		
		計算式	経費/件数		86/9	143/19	132/16	124/11	

平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由
	諸謝金	0.7	0.8	※百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。 「新しい日本のための優先課題推進枠」29
	職員旅費	4	6	
	委員等旅費	1	1	
	国土形成推進調査費	130	125	
計	135.7	132.8		

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備										
		施策	37 総合的な国土形成を推進する									
	測定指標		定量的指標					単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	本事業を通じて、経済、社会、文化等に関する施策の総合的見地から国土の形成が推進される。											
	改革項目 （第一階層） （第二階層）	分野:	-									
		KPI （第一階層）	KPI （第一階層）			単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
			成果実績									
目標値												
KPI （第二階層）		KPI （第二階層）			単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度		
		成果実績										
		目標値										
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係												
-												

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	我が国の社会経済情勢を踏まえた事業を実施している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	閣議決定された国土形成計画等について、国として積極的にこれを推進するための事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	閣議決定された国土形成計画等について、国として積極的にこれを推進するための事業である。

事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般競争入札を実施し、競争性の確保、コスト最適化を図った。</li> <li>企画競争の手続については、第三者による有識者委員会の審査を受け、透明性及び競争性の確保に努めた。</li> </ul>		
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		有			
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無			
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	一般競争入札の実施等により、コスト最適化を図った。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-		
事業の有効性	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	調査の進捗管理や成果物の確認を適正に行い、真に必要なものに限定している。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	調査の進捗管理や成果物の確認を適正に行い、真に必要なものに限定している。		
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	成果実績は成果目標の達成に寄与した。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	-		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	活動見込みを達成した。		
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	国土をめぐる諸情勢を踏まえ新たな課題を分析等し、その結果を計画の見直しに活用している。		
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-	-		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名	-		
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新たな国土形成計画(全国計画)中間とりまとめ(案)」(平成27年3月に国土審議会計画部会)等を踏まえ、優先度の高い事項について調査内容の重点化や既存データの活用を図って調査を実施するなどにより、調査の質の確保・向上に努めている。</li> <li>企画競争による手続きにおいては、第三者機関である企画競争有識者委員会の審査を受け、適正な手続きの執行に努めている。また、手続きの中では提案者が判別できないよう匿名方式による評価を実施するとともに、適正な公示期間の確保や提案者の労力縮減、関連データや過年度の調査成果物の提示など企画提案しやすい環境づくりに努めるなど、公平性・透明性・競争性の確保を図っている。</li> <li>業務の実施にあたっては、調査の進捗を適宜確認するとともに、打ち合わせや完了時の検査により業務の実施状況及び成果について確認を行っている。</li> </ul>				
	改善の方向性	成果を活用して平成27年8月に閣議決定された国土形成計画(全国計画)等の推進に向けた取組みにつなげていく。				
<b>外部有識者の所見</b>						
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>						
抜本的な改善	新たな国土形成計画の推進のため、計画推進部会の調査審議が開始されたところであり、同部会における検討状況を踏まえて、調査検討内容の抜本的な見直し・充実を行う。					
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>						
執行等改善	新たな国土形成計画の着実な推進に資するため、適切なテーマ設定等を行い、より効率的・効果的な調査・研究を行う。					
<b>備考</b>						
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>						
平成22年度	75	平成23年度	64	平成24年度	77	
平成25年度	371	平成26年度	358	平成27年度	375	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省  
135百万円

・当該事業の企画、立案  
・発注、進捗管理及び成果の活用

国土形成計画等の基底的・長期的検討に係る  
事務費  
3百万円  
①職員旅費 3百万円  
②委員等旅費 0.3百万円

【一般競争入札等】

A. 民間会社等(13社)  
132百万円

国土形成計画等の基底的・長期的検討

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・使途  
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.株式会社三菱総合研究所			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
請負	事業の企画、立案	23			
計		23	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック



平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	国土形成計画等に係る学官連携の推進			<b>担当部局庁</b>	国土政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成20年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	国土情報課		課長 青戸 直哉		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	国土形成計画法 国土利用計画法			<b>関係する計画、 通知等</b>	国土利用計画(全国計画)(平成27年8月14日閣議決定) 国土形成計画(全国計画)(平成27年8月14日閣議決定)				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)</b>	国土計画・国土政策に関する調査・研究を行う若手研究者に対して研究助成を行い、採択された研究について研究成果を報告会として広く国民一般に提供することにより、国土計画・国土政策の知見を広め、啓発を図るとともに、国土計画・国土政策に関するオピニオンリーダーやサポーターを育成する。								
<b>事業概要 (5行程度以内。 別添可)</b>	国土計画・国土政策に関する調査・研究を行う若手研究者(平成28年度は45歳未満)に対して、研究課題を広く公募し、提出された研究企画案を審査の上、優秀な研究企画案に対し研究助成を行う。研究成果については報告会を開催し広く国民一般に提供する(報告会は公開で、一般傍聴可)。								
<b>実施方法</b>	委託・請負								
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>	予算 の状 況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	21	19	17	17	17		
	執行額	17	19	17	-	-			
	執行率(%)	81%	100%	100%	-	-			
<b>成果目標及び成 果実績 (アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	全ての研究成果が国土政 策上有益であること	研究成果報告会において 有益であると評価された研 究成果数	成果実績	件	7	8	6	-	-
			目標値	件	7	8	6	-	-
			達成度	%	100	100	100	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック		
<b>活動指標及び活 動実績 (アウトプット)</b>	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	国土政策・国土計画に寄与する研究採択件数		活動実績	件	7	8	6	-	
			当初見込み	件	7	8	6	6	
<b>単位当たり コスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	予算執行額 / 研究支援採択件数		単位当たり コスト	百万円	2.4	2.4	2.8	2.8	
			計算式	百万円/件	17/7	19/8	17/6	17/6	
平成28・29年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	職員旅費	0.2	0.2	※百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。					
	国土形成推進調査費	17	16						
計	17.2	16.2							

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備									
	施策	総合的な国土形成を推進する									
	測定指標	定量的指標				単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		155 国土形成計画の着実な推進(対21年度比で進捗が認められる代表指標の項目数)	実績値	件	9	8	-	-	-	-	-
			目標値	件	8	9	8	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	国土計画の基礎となる調査・研究を充実させることにより、これを計画へ反映し、国土政策の推進を図る。										
	改革項目	分野:	-								
	KPI (第一階層)	KPI (第一階層)				単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績									
目標値											
KPI (第二階層)	KPI (第二階層)				単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績										
	目標値										
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
-											
<b>事業所管部局による点検・改善</b>											
	項目					評価	評価に関する説明				
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。					○	社会一般の問題意識にたつて、課題を設定している。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。					○	全国計画は国が策定するため、移管できない。				
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。					○	将来の国土政策を担う若手研究者に支援するため、政策優先度は高い。				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。					○	一般競争入札を実施し、競争性を確保しながら支出先を選定しているが、一者応札であった。入札辞退者からのヒアリング等により、公告期間の延長や仕様のうち説明会出席への義務付けの廃止等の必要性が認められたため、仕様書の改善を実施する。				
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。					有					
	競争性のない随意契約となったものはないか。					無					
	受益者との負担関係は妥当であるか。					-	-				
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。					○	毎年度、概ね同水準で推移しているため、妥当といえる。				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。					○	中間支出は必要最低限の経費に止め、国が採択した研究助成については申請額全額を交付している。				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					○	業務の履行に必要な経費に限定している。				
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)					-	-				
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。					○	支援対象となる費目を適宜見直し、効率性を確保している。				
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。					○	採択された研究は全て公開による報告会を開き、広く一般に提供している。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。					-	-				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。					-	毎年度、一定数の研究を採択している。				
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。					○	成果は国土政策の企画・立案、見直しに還元している。				
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)					-	-				
	所管府省・部局名		事業番号		事業名		-				



点検・改善結果	点検結果	・国土政策上の重要課題に関する研究が重点化されるよう、平成22年度から「指定課題」を設け、該当する研究企画を優先的に選定することとしたところ。今後も引き続き同様の観点から指定課題を設定し、研究内容について精査していく。
	改善の方向性	・「国土のグランドデザイン2050」、平成27年8月14日に閣議決定された国土形成計画等を踏まえた指定課題の設定等により、国土政策上の重要課題に関する研究に一層の重点化を図る。

外部有識者の所見

行政事業レビュー推進チームの所見

事業内容の一部改善	現下の政策課題に対応するだけでなく、国土計画・国土政策に関する将来的な知的基盤を形成するという観点から、幅広い視点での評価、継続的なフォローアップに努める。
-----------	--

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

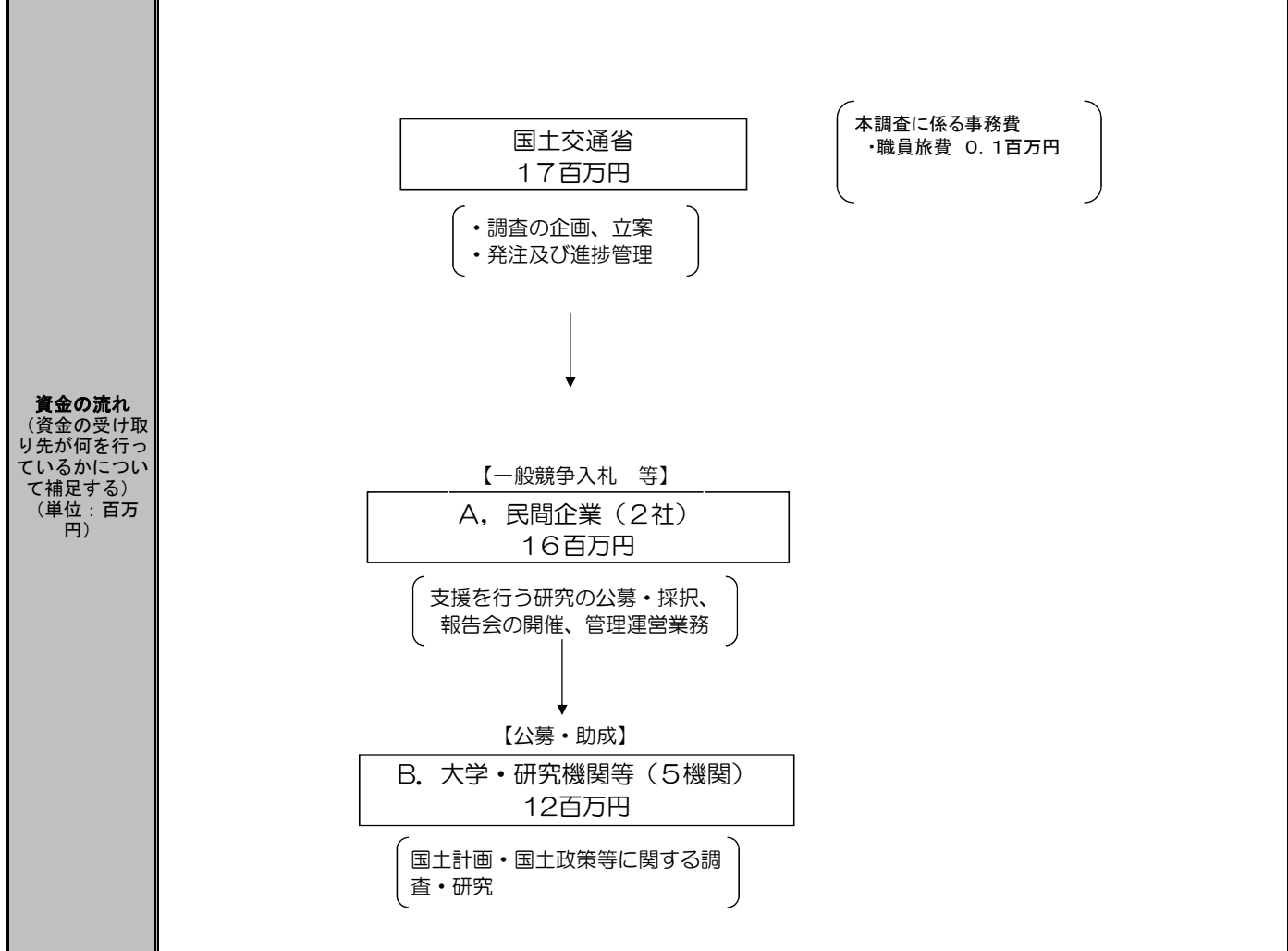
執行等改善	国土交通省において指定する「指定課題」について新たな国土形成計画を踏まえたものに刷新する等、国土計画・国土政策に関する将来的な知的基盤を形成するという観点からのローアップに努めている。
-------	--

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	76	平成23年度	65	平成24年度	78
平成25年度	372	平成26年度	359	平成27年度	376

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.株式会社オーエムシー			B.国立大学法人東京大学		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	業務原価等	直接人件費等業務原価及び一般管理費	4	研究費	人件費(作業補助費)、資料、旅費等	4
	助成金	各研究機関等への助成	12			
	計		16	計		4

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック

支出先上位10者リスト

A 民間企業

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社オーエムシー	9011101039249	支援を行う研究の公募・採択、報告会の開催、管理運営業務	16	一般競争入札	1	94%	
2	株式会社サイマル・インターナショナル	6010001109206	国土政策の研究成果の発表補助	0.1	随意契約(少額)	-	-	

B 大学・研究機関等

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立大学法人東京大学	5010005007398	国土計画・国土政策に関する研究の実施	4	-	31	-	
2	国立大学法人東北大学	7370005002147	国土計画・国土政策に関する研究の実施	2	-	31	-	
3	舞鶴工業高等専門学校	8010105000820	国土計画・国土政策に関する研究の実施	2	-	31	-	
4	国立大学法人筑波大学	5050005005266	国土計画・国土政策に関する研究の実施	2	-	31	-	
5	国立大学法人広島大学	1240005004054	国土計画・国土政策に関する研究の実施	2	-	31	-	

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載  チェック

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	国土数値情報の整備			<b>担当部局庁</b>	国土政策局			<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成20年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	国土情報課			課長 青戸 直哉		
<b>会計区分</b>	一般会計									
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	国土形成計画法 国土利用計画法 地理空間情報活用推進基本法			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画(全国計画)(H20年7月4日閣議決定) 国土利用計画(全国計画)(H20年7月4日閣議決定) 地理空間情報活用推進基本計画(H24年3月27日閣議決定)					
<b>主要政策・施策</b>	科学技術・イノベーション			<b>主要経費</b>	その他の事項経費					
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国土の利用に関する総合的かつ基本的な政策及び計画の策定及び推進を行うためには、国土に関する各種の情報を総合的、体系的に収集・整備・分析するとともに、これらの情報や分析成果を国土づくり・地域づくりに関係する多様な主体に広く提供し、国土に関する理解や取組を促進することが必要である。このため、国土数値情報を整備・更新するとともに、インターネットを通じて一般に無償公開する。また、そのための調査・検討を行う。									
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土のグランドデザイン2050や国土強靱化法等に基づき、発生が想定されている南海トラフ地震や首都直下地震等の災害に対する、防災・減災対策等に関するデータを国土数値情報として整備するため、津波や火山等の各種ハザードマップについての整備手法、整備範囲・対象等を特定し、原典資料の調査と収集、その解析を行い、それらを踏まえて具体的な整備手法の検討、データ仕様の策定等を行う。</li> <li>南海トラフ地震や首都直下地震等の災害に備えるため、防災上の検討に必要な防災・減災対策に資する情報(密集市街地、地下街等)を、国土数値情報として、整備する。</li> <li>国土数値情報として整備した土砂災害警戒区域や全国の最新の行政界情報や地価公示及び都道府県地価、さらに交通施設や交通流動量に関する情報等の更新を行う。</li> </ul>									
<b>実施方法</b>	委託・請負									
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
		計	215	225	201	159	151			
	執行額	206	220	173						
執行率(%)	96%	98%	86%							
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	国土数値情報のダウンロード件数の対前年度維持または増加	国土数値情報のダウンロード件数	成果実績	万件	95	106	114	-	-	
			目標値	万件	94	95	106	-	-	
			達成度	%	101	112	108	-	-	
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック			
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	国土数値情報の製品仕様書・作業手順書作成及び整備・更新データ件数	活動実績	件	23	28	30	-			
		当初見込み	-	-	-	-	-			
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	契約金額/国土数値情報のデータ件数	単位当たりコスト	円/件	145	157	110	-			
		計算式	百万円/万件		6.9/4.8	3.5/2.2	1.3/1.2	-		
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由						
	職員旅費	0.4	0.5	※百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。						
	国土形成推進調査費	158	151							
	計	158.4	151.5							

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		国民への国土に関する情報提供充実度(国土数値情報のダウンロード件数)	実績値	万件	95	106	114	-	-
			目標値	万件	94	95	106	-	114
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	国土数値情報のダウンロード件数が着実に増加していることから、国土数値情報の整備・拡充を行うことで、職員が実施する国土政策の企画・立案業務を支援するとともに、一般国民に様々な分野で幅広く利活用されることが期待できる。								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績							
目標値									
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績								
	目標値								
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									
<b>事業所管部局による点検・改善</b>									
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		評価	評価に関する説明					
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	・国土数値情報は、我が国の土地利用や政策区域に関する諸情報をGIS形式で総合的に配信している唯一の存在であり、行政のみならず、民間など国民各層に幅広く活用されている。 ・その結果として、国土数値情報のダウンロード件数についても、伸びているところ。					
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	・国土の利用に関する総合的かつ基本的な政策及び計画の策定及び推進を行うためには、国が、国土に関する各種の情報を総合的、体系的に収集・整備・分析し、提供する必要がある。 ・整備項目についても、毎年度、政策的な優先度や緊急度の高いデータを選定し、戦略的に整備している。					
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○						
事業の効率性	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無	・業者選定にあたっては、一般競争入札を採用し、十分な競争性を確保している。					
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無						
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	毎年度、概ね同水準で推移しており、妥当といえる。					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	業務の履行に必要な経費に限定されている。					
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-					
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	効率的な事業執行を図っている。						
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	成果実績は成果目標を達成している。					
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	整備データの整備手法や項目、整備内容等が最善であるかを検討し、製品仕様書、作業手順書を作成し、翌年のデータ整備発注時に活用するなど十分なフィードバックを図っている。					
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	毎年度、一定数のデータの製品仕様書等の作成や整備・更新を行っている。					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	整備したデータについては、国土交通省HPにダウンロードサイトを設け広く一般提供しており、各方面で活用されている。					

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	所管府省・部局名	事業番号	事業名
	-	-	-

点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ整備項目として、国土政策の推進に資するデータであり、他の主体が整備しているデータと重複しないよう精査し、特に、政策的な優先度や緊急度の高いデータを重点的に選定している。</li> <li>整備したデータについては、引き続き国土交通省HPより公開し広く一般提供する。</li> </ul>
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後とも、整備する情報の種類の選定や整備手法などを工夫し、国土数値情報の整備の、より一層の効率化を図っていく。</li> </ul>

**外部有識者の所見**

**行政事業レビュー推進チームの所見**

事業内容の一部改善	データ整備項目の精査、整備手法の効率化を通じて効率的な事業実施に努めるとともに、成果の一層の活用を促進する。
-----------	--

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

執行等改善	来年度のより高い目標設定に向けて、今年度、課題整理、利活用の推進方策について検討している。
-------	---

**備考**

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成22年度	77,78,79,81,82	平成23年度	66,67	平成24年度	80,81	/
平成25年度	374	平成26年度	360	平成27年度	377	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位: 百万円)

**国土交通省**  
173百万円

【一般競争入札、随意契約】

**A.民間企業**  
(11社)  
172百万円

本調査に係る事務費  
・職員旅費 0.4百万

・製品仕様書及び作業手順書の作成、データ整備に関する指示及び業務の監督  
・本業務の企画・立案、進捗管理・指導 等

製品仕様書・作業手順書の作成及び国土交通省の定める仕様書、作業手順書に基づくデータ整備、品質評価等の実施





平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	国土数値情報等を利用・管理するシステムの拡充			<b>担当部局庁</b>	国土政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成20年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	国土情報課		課長 青戸 直哉		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	国土形成計画法 国土利用計画法 地理空間情報活用推進基本法			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画(全国計画)(H20年7月4日閣議決定) 国土利用計画(全国計画)(H20年7月4日閣議決定) 地理空間情報活用推進基本計画(H24年3月27日閣議決定)				
<b>主要政策・施策</b>	科学技術・イノベーション			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国土の状況について科学的かつ客観的に分析が可能なシステムを整備することにより、職員が実施する国土政策の企画・立案業務を支援するとともに、国土の政策上の課題に的確に対応した国土に関する情報(国土情報)の整備を戦略的に推進し、様々な分野で幅広く利活用されることを目的として、国民に広く提供する。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	国土数値情報及び各種統計調査を利用・分析し、国土政策の企画立案業務に活用するため省内で用いる地理情報システム(GIS)として整備・提供している国土数値情報利用・管理システム(G-ISLAND)及び一般国民向けに国土数値情報等を提供するためのシステムとして利用する国土情報データベースへ地図データ、統計データ等の各種データの追加を行い、システムの整備・拡充を行う。								
<b>実施方法</b>	委託・請負								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	26	26		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	42	30	26	26	26		
	執行額	30	27	25	-		-		
執行率(%)	71%	90%	96%	-		-			
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	国土数値情報のダウンロード件数の対前年度維持または増加	国土数値情報のダウンロード件数	成果実績	万件	95	106	114	-	-
			目標値	万件	94	95	106	-	-
			達成度	%	101	112	108	-	-
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載</b>							<input type="checkbox"/> チェック		
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	毎年度、国土情報データベースへ日経NEEDSデータを200万レコード以上登録する。	活動実績	万件	215	233	239	-		
		当初見込み	万件	200	200	200	200		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	契約金額/登録データレコード数	単位当たりコスト	円/件	3.4	3.7	3	-		
		計算式	万円/万件	722/215	860/233	715/239	-		
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	国土形成推進調査費	26	26						
	計	26	26						



政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		国民への国土に関する情報提供充実度(国土数値情報のダウンロード件数)	実績値	万件	95	106	114	-	-
			目標値	万件	94	95	106	-	114
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	国土数値情報のダウンロード件数が着実に増加していることから、システムの整備・拡充を行うことで、職員が実施する国土政策の企画・立案業務を支援するとともに、一般国民に様々な分野で幅広く利活用されることが期待できる。								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績							
目標値									
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績								
	目標値								
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									
<b>事業所管部局による点検・改善</b>									
国費投入の必要性	項目				評価	評価に関する説明			
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。				○	国土数値情報のダウンロード件数が着実に増加していることから、利用者のニーズを的確に反映している事業である。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。				○	国土政策の企画立案、国土に関する情報の提供に必要なツールの拡充であるため、国自ら実施する必要がある。			
事業の効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。				○	国土政策の企画立案、国民への情報の提供を実施するために必要な事業である。			
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。				○	一般競争入札による発注を実施しており、少額随契の場合は複数者より見積書を徴している。			
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。				無				
	競争性のない随意契約となったものはないか。				無				
	受益者との負担関係は妥当であるか。				-	-			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。				○	毎年度、概ね同水準で推移しているため、妥当といえる。			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。				-	-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				○	業務の履行に必要な経費に限定されている。			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)				-	-			
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。				○	作業マニュアルを作成するなど、発注業務のコスト削減に努めている。			
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。				○	成果実績は、成果目標を達成しており、見合ったものとなっている。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。				-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。				○	毎年度、活動見込みを上回る実績を達成している。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。				○	ダウンロード件数は着実に増加している。			
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				-	-			
	所管府省・部局名	事業番号	事業名						
	-	-	-						

点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土政策の企画立案業務に活用するための情報システム及び国土数値情報等を一般提供するための情報システムにおいて、最新の情報を利用可能とするため、ユーザーニーズを踏まえ、登録するデータを精査した上で登録を行った。</li> <li>業者選定にあたっては、一般競争入札により発注を行うことで、コスト削減を図っている。</li> </ul>
	改善の方向性	引き続きユーザーニーズを把握し、必要性の高いデータの選定・登録を行うことにより、コスト削減の効率化を図っていく。

**外部有識者の所見**

**行政事業レビュー推進チームの所見**

事業内容の一部改善	引き続き、利用者のニーズを踏まえ、データの精査を行うとともに、効率的な事業執行に努める。
-----------	--

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

執行等改善	登録するデータについては引き続きニーズの高いものに重点化し、システムの利活用を拡大させる。
-------	---

**備考**

- 国土数値情報ダウンロードサービス <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>
- 位置参照情報ダウンロードサービス <http://nlftp.mlit.go.jp/isj/index.html>
- 国土情報ウェブマッピングサービス <http://nlftp.mlit.go.jp/WebGIS/index.html>
- 土地分類調査・水調査 <http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/inspect.html>

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成22年度	80	平成23年度	68	平成24年度	83		
平成25年度	375	平成26年度	361	平成27年度	378		

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省  
25百万円

↓

国土数値情報等を利用・管理するシステムの  
拡充のための企画・立案

↓

【一般競争入札・随意契約】

↓

A.民間企業  
(4社)  
25百万円

↓

国土情報データベースへ統計データ等の  
登録作業を実施

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位：百万円)



平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	首都機能の移転に関する調査等			<b>担当部局庁</b>	国土政策局	<b>作成責任者</b>				
<b>事業開始年度</b>	昭和63年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総合計画課	課長 中村 貴志				
<b>会計区分</b>	一般会計									
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	国会等の移転に関する法律第1条、第3条			<b>関係する計画、通知等</b>	国会等の移転に関する政党間両院協議会「座長とりまとめ」(平成16年12月22日)					
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費					
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	首都機能の移転(国会等の移転)は、政治、経済、文化等の中枢機能の東京への一極集中の是正、災害対応力の強化等を目的に国会等(国会並びにその活動に関連する行政に関する機能及び司法に関する機能のうち中枢的なもの)の東京圏外への移転を目指すものであり、議員立法である「国会等の移転に関する法律」(平成4年)等に基づき一貫して国会主導で進められてきた。本事業はこのような経緯及び法第1条及び第3条に従い、国会における議論に必要な協力を行うため、必要な調査、情報提供を行うものである。									
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	国会においては、平成15年6月に超党派の「国会等の移転に関する政党間両院協議会」が設置され、検討がなされてきたところ、平成16年12月に「座長とりまとめ」がまとめられ、「今後は、政府その他の関係者の協力を得て、分散移転や防災、とりわけ危機管理機能(いわゆるバックアップ機能)の中枢の優先移転などの考え方を深めるための調査、検討を行うこととする」とされた。このため、座長とりまとめに従い、政府として、分散移転や防災に関する分野を中心に調査を行い、国会での議論に協力するとともに、法第3条に従い、広く国民に首都機能の移転に関する適切な情報提供を行うための調査を行う。									
<b>実施方法</b>	委託・請負									
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
		計	13	11	10	10	10	10		
	執行額	12	10	10						
執行率(%)		92%	91%	100%						
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	国会等の移転ホームページへのアクセス件数を前年度と比べ増加させ、国会等の移転に関する情報提供を推進。	国会等の移転ホームページアクセス件数(月平均)	成果実績	件数	-	1,400	1,100	-	-	
			目標値	件数	-	1,400	1,400	-	-	
			達成度	%	-	100	79	-	-	
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック			
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	調査実施件数	活動実績	件数	1	1	1	-			
		当初見込み	件数	1	1	1	1			
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	調査関係経費/調査実施件数	単位当たりコスト	百万円	12	10	10	10			
		計算式	経費/件数		12/1	10/1	10/1	10/1		
<b>平成28・29年度予算内訳(単位:百万円)</b>	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由						
	諸謝金	0.1	0	※百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。						
	職員旅費	0.1	0							
	国土形成推進調査費	9	9							
	計	9.2	9							

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備									
	施策	37 総合的な国土形成を推進する									
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度		
		実績値	-	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-	-		
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	本事業において、国会等の移転については、平成27年8月に策定された新たな国土形成計画においても、東京一極集中の是正、国土の災害対応力の強化、東京のうるおいのある環境づくり等に寄与する重要な課題として国会で検討が進められており、その検討の方向を踏まえた対応が必要とされていることから、分散移転や防災に関する分野を中心に国土形成計画に記された幅広い観点から調査を行い、国会での議論に協力するとともに、広く国民に首都機能の移転に関する適切な情報提供を行うことで、総合的な国土の形成の推進に寄与するものである。										
	改革項目	分野:	-								
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度		
		成果実績									
目標値											
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度			
	成果実績										
	目標値										
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
-											
<b>事業所管部局による点検・改善</b>											
国費投入の必要性	項目	評価	評価に関する説明								
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	国会等の移転に関する法律や国会における検討に基づき、国会における検討状況や方向性に応じた課題の検討及び国民への情報提供に関する調査を行うものである。								
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国会等の移転に関する法律や国会における検討に基づき、国会における検討状況や方向性に応じた課題の検討及び国民への情報提供に関する調査を行うものである。								
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	国会等の移転に関する法律や国会における検討に基づき、国会における検討状況や方向性に応じた課題の検討及び国民への情報提供に関する調査を行うものである。								
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定にあたっては、第三者による有識者委員会の審査を受けるなど企画競争の手続きを適切に実施し、透明性及び競争性の確保に努めている。								
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無									
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無									
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-								
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	適正なコスト水準を確保している。								
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-								
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	業務の履行に必要な経費に限定している。								
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-									
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	調査内容については、過去との重複に留意し、蓄積したデータやノウハウを活用している。									

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果は、ホームページで公表されるなど国民各層や専門家・関係者への情報発信、政策の評価等への活用など、国会における首都機能の移転(国会等の移転)や首都機能のバックアップの検討に活用されている。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	成果は、ホームページで公表されるなど国民各層や専門家・関係者への情報発信、政策の評価等への活用など、国会における首都機能の移転(国会等の移転)や首都機能のバックアップの検討に活用されている。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	成果は、ホームページで公表されるなど国民各層や専門家・関係者への情報発信、政策の評価等への活用など、国会における首都機能の移転(国会等の移転)や首都機能のバックアップの検討に活用されている。			
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-				
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画競争による手続きにおいては、第三者機関である企画競争有識者委員会の審査を受け、適正な手続きの執行に努めている。また、手続きの中では提案者が判別できないよう匿名方式による評価を実施するとともに、適正な公示期間の確保や提案者の労力縮減など企画提案しやすい環境づくりに努めるなど、公平性・透明性・競争性の確保を図っている。</li> <li>業務の実施にあたっては、調査の進捗を適宜確認するとともに、打ち合わせや完了時の検査により業務の実施状況及び成果について確認を行っている。</li> </ul>				
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度にあたっては、法第1条・第3条に基づき、首都機能移転の検討に資するための調査について実施し、国会等の移転ホームページでの情報提供を行う。</li> </ul>				
<b>外部有識者の所見</b>						
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>						
事業内容の一部改善	過去の調査実績の蓄積も活用しつつ、必要な調査を効率的に実施する。					
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>						
執行等改善	過年度に得られた知見も有効に活用し、引き続き、真に必要な施策を効率的に実施する。					
<b>備考</b>						
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>						
平成22年度	90	平成23年度	70	平成24年度	84	
平成25年度	376	平成26年度	362	平成27年度	379	
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:百万円)	<p>※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。</p> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">国土交通省 10百万円</div> <div style="margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業の企画、立案</li> <li>発注、進捗管理及び成果の活用</li> </ul> </div> <div style="margin: 5px 0;">【随意契約(企画競争)】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">A. 日本開発構想研究所(1社) 10百万円</div> <div style="margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>首都機能の移転に関する調査の実施</li> </ul> </div> </div>					

費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で表情が分かるように記載)	A.一般財団法人 日本開発構想研究所			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	請負	平成27年度 首都機能移転の検討に資するための民間企業等の本社機能の移転・分散の在り方に関する調査	10			
	計		10	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック

支出先上位10者リスト

A.								
	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	一般財団法人日本開発構想研究所	2010405000906	平成27年度首都機能移転の検討に資するための民間企業等の本社機能の移転・分散のあり方等に関する調査	10	随意契約 (企画競争)	2	100%	-

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載  チェック

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		-							

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	むつ小川原開発推進調査			<b>担当部局庁</b>	国土政策局			<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始年度</b>	平成13年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	広域地方政策課			課長 中川 雅章	
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画、閣議口頭了解(平成19年)				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	むつ小川原開発地域は、我が国のエネルギー政策、産業政策上重要な地域であることに鑑み、関係府省の協力のもと、企業立地の促進等地域の主体的取組への支援を含めた国として推進すべき措置を講ずること。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	むつ小川原開発地域では、これまで、ITER(国際熱核融合実験炉)関連施設である国際核融合エネルギー研究センターを始め、国家石油備蓄基地、核燃料サイクル施設等の立地が進んでいる。我が国の産業・研究開発の発展とともに、地域の主体的取組への支援を図るため、引き続き、同地域の有効活用方策に関する調査検討が不可欠である。このため、平成27年度においては、企業立地の促進、地域の活性化を図る観点から、むつ小川原開発地区及び周辺の産業創出の方策検討等を行った。								
<b>実施方法</b>	委託・請負								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	6	6	6	6	6	6	
	執行額	6	6	6					
	執行率(%)		100%	100%	100%				
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 30年度	目標最終年度 -年度
	本調査開始当初(平成13年度)に保有していた開発用地(1761ha)の分譲又は賃貸を推進する。	調査開始翌年度からの立地面積の累積	成果実績	ha	428.2	428.4	425.6	-	-
			目標値	ha	-	-	-	438	1,761
			達成度	%	24.3	24.3	24.2	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載									
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	報告書配布先数 (平成27年度は、むつ小川原地域周辺の農産品の6次産業化の課題と展開方法について、先進事例の事業者へのアンケート調査、ヒアリングを実施し、調査・検討を行い、検討結果である報告書を15の関係団体(青森県、六ヶ所村、経済産業省、文部科学省など)に配布し、検討結果を周知した。現在、六ヶ所村において、当該結果に基づく直売所等の整備について検討している。)	活動実績	報告書配布先		15	15	15	-	
		当初見込み	報告書配布先		15	15	15	15	
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	執行額/報告書配布先			単位当たりコスト	百万円	0.4	0.4	0.4	0.4
			計算式	百万円/件数	6/15	6/15	6/15	6/15	
平成28・29年度予算内 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	職員旅費	0	0						
	国土形成推進調査費	6	6						
	計	6	6						



政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	調査の実施内容が地域住民等や企業の活動のヒントとして活用されることで、新たな企業立地や地域の自立的な発展が促進され、本調査開始当初(平成13年度)に保有していた開発用地(1761ha)の分譲又は賃貸を推進し、国土形成計画において示されているむつ小川原開発地域の有効活用を図り、質の高い国土づくりが推進される。								
	改革項目	分野:	-	-					
	KPI (第一階層)	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績							
目標値									
KPI (第二階層)	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績								
	目標値								
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									
<b>事業所管部局による点検・改善</b>									
国費投入の必要性	項目				評価	評価に関する説明			
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。				○	むつ小川原開発は新全総以降累次の全国総合開発計画及び国土形成計画に位置づけられている。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。				○	むつ小川原開発は新全総以降累次の全国総合開発計画及び国土形成計画で位置づけられ、地方自治体及び民間との役割分担の下に推進されている。			
事業の効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。				○	むつ小川原開発は新全総以降累次の全国総合開発計画及び国土形成計画に位置づけられている。			
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。				○	企画競争において、有識者による企画競争委員会における審議を経て委託先を選定している。			
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。				無				
	競争性のない随意契約となったものはないか。				無				
	受益者との負担関係は妥当であるか。				-				
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。				○	むつ小川原開発に係わる複数の関係者との調整の上検討課題、調査事項を決定し、その成果を関係者へフィードバックしている。その結果、各機関が個別に調査を行うよりも合理的・効率的な調査執行が可能となっており、単位的コストの低減が図られている。			
資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。				-					
費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				○	費目・用途については、随時、調査の進捗状況について監督を行っている。				
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)				-					
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。				○	むつ小川原開発に係わる複数の関係者との調整の上検討課題、調査事項を決定し、その成果を関係者へフィードバックしている。その結果、各機関が個別に調査を行うよりも合理的・効率的な調査執行が可能となっており、単位的コストの低減が図られている。				

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	調査結果については、誘致活動に活用されている。					
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	むつ小川原開発に係わる複数の関係者との調整の上検討課題、調査事項を決定し、その成果を関係者へフィードバックしている。その結果、各機関が個別に調査を行うよりも合理的・効率的な調査執行が可能となっており、単位的コストの低減が図られている。					
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	調査の結果については、「むつ小川原開発推進協議会」、「むつ小川原総合開発会議」等を通じて、今後のむつ小川原地域の振興に反映している。					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	調査の結果については、「むつ小川原開発推進協議会」、「むつ小川原総合開発会議」等を通じて、結果の共有を図り、村、県等の関係機関において、地域振興のために活用している。					
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-						
	<table border="1"> <tr> <th>所管府省・部局名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	所管府省・部局名	事業番号	事業名	-	-	-	-
所管府省・部局名	事業番号	事業名						
-	-	-						
点検・改善結果	点検結果	適正な執行が行われるように、随時、調査の進捗について監督して、調査目的の達成状況を把握している。実施前の打ち合わせ及び監督により成果物が調査目的に合致していることを確認している。 定量的指標である分譲・賃貸面積について、H26年度に比べH27年度は若干減少した。これは、施設の老朽化・撤去等により賃貸面積が減少したことに起因したもので、今後、立地企業の新規駐車場による賃貸や風力発電の立地等により用地需要は改善し、減少は一時的なものだと考えている。						
	改善の方向性	調査テーマについて、関係部署と入念な打ち合わせを行い、的確な情勢にあった適切かつ真に必要な政策課題を選択し、出来れば直ぐに事業化につながれば一番良い。						
<b>外部有識者の所見</b>								
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>								
事業内容の改善	引き続き、企業の立地促進につながる調査の効率的な実施に努める。							
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>								
執行等改善	本調査が有効に活用され、同地区への一層の企業立地促進に資するよう、調査テーマについては立地企業の目線に立った真に必要な政策課題に重点化を図るとともに、調査の効率的な執行に努める。							
<b>備考</b>								
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>								
平成22年度	95	平成23年度	73	平成24年度	87			
平成25年度	379	平成26年度	364	平成27年度	380			
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)	※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。							
	<pre> graph TD     A[国土交通省 6百万円] -- "〔調査の企画・立案、進捗管理、指導〕" --&gt; B[事務費 0.04百万円]     B --- C[職員旅費]     A --&gt; D[委託【随意契約(企画競争)】 A. 株式会社 開発計画研究所 6百万円]     D --- E[〔調査の実施(文献・実地調査、勉強会・先進地視察)〕] </pre>							

<b>費目・用途</b> (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A. 株式会社 開発計画研究所			B.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	委託費	むつ小川原開発推進調査	6			
	計		6	計		0
<b>費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載</b>					<input type="checkbox"/> チェック	

**支出先上位10者リスト**

A.								
	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社 開発計画研究所	4010001069410	むつ小川原開発推進調査	6	随意契約 (企画競争)	2	100%	—
<b>支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載</b>								<input type="checkbox"/> チェック

**国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト**

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		—							

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	経済協力開発機構等拠出金			<b>担当部局庁</b>	国土政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成9年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総務課企画室		室長 中川 雅章		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	経済協力開発機構(OECD)地域開発政策委員会(RDPC)は、先進諸国間で国土・地域政策に関する意見交換・発信を行いうる唯一の場であり、先進的な政策の情報収集や蓄積、加盟国の政策担当者との人的ネットワーク等を通じた政策提言を獲得する。国連人間居住計画(国連ハビタット)は、急速な都市化に伴う都市の過密等の人間居住分野の諸問題の解決に取り組む機関であり、そのアジア・太平洋地域事務所(福岡市)のプロジェクトを支援することにより、我が国の国土・地域政策や居住環境改善分野での経験、知見を活かした国際貢献を図るとともに、プロジェクトを通じたアジア・太平洋地域の課題や取組等の情報を把握する。両機関の支援を行うことにより、我が国の国土・地域政策の形成への反映を目的とする。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	OECDへの拠出金は、RDPCの作業計画を踏まえたプロジェクトのうち、我が国の国土・地域政策にとって有益である、国別・地域別の国土・地域政策レビュー(対象国・地域の国土・地域開発の状況や国土・地域政策等について評価を行い、改善方策等を提言するもの)や加盟国の地域のパフォーマンスや競争優位の比較分析、関連する地域指標作成等を支援するものである。国連ハビタットへの拠出金は、そのアジア・太平洋地域事務所(福岡市)が実施する、我が国の有する国土・地域政策や居住環境改善分野におけるノウハウ・技術とアジア諸都市等とのマッチング事業や人間居住分野の諸問題に関する情報発信等を支援するものである。								
<b>実施方法</b>	その他								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	35	41	46	47	44		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	35	41	46	47	44		
	執行額	35	41	46	-	-			
	執行率(%)	100%	100%	100%	-	-			
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	我が国の国土・地域政策形成への毎年1件程度の反映	成果を反映した政策件数	成果実績	件	-	-	1	-	-
			目標値	件	-	-	1	-	1
			達成度	%	-	-	100	-	-
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	我が国の有する居住環境分野のノウハウ・技術とアジア諸都市等とのマッチング事業における毎年1件程度のマッチング	マッチングの成立件数	成果実績	件	-	1	1	-	-
			目標値	件	-	-	1	-	1
			達成度	%	-	-	100	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載 <input type="checkbox"/> チェック									
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	国土・地域政策のテリトリアル・レビュー等の実施件数	活動実績	件	-	2	2	-		
		当初見込み	件	-	2	2	2		
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	我が国の有する居住環境分野のノウハウ・技術とアジア諸都市等とのマッチング事業、同分野の課題やこれに対する我が国の貢献等を発信する事業の実施件数	活動実績	件	-	3	3	-		
		当初見込み	件	-	3	3	3		
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	経済協力開発機構等拠出金	47	44						

（単		計	47	44					
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	政策評価 測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	OECDの活動を支援することによる先進的政策や加盟国における取組等の情報収集、国連ハビタットの活動を支援することによる国際貢献及びアジア地域の課題等の情報収集を行い、これらを我が国の政策形成に反映することを通じ、我が国の総合的な国土形成の推進に貢献している。								
	改革項目	分野:	-	-					
	（第一階層） KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績							
目標値									
（第二階層） KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績								
	目標値								
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									
<b>事業所管部局による点検・改善</b>									
	項目	評価	評価に関する説明						
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	国際機関における事業を支援するものであり、国内および国際社会のニーズを反映している。						
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	当省の政策目的に合致した国際機関の事業であり、国が支出する必要がある。						
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	当省の政策目的に合致しており、政策目的の実現には必要不可欠である。						
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-							
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	-							
	競争性のない随意契約となったものはないか。	-							
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-							
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-							
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-							
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	対象事業を限定して拠出している。						
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-								
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	事業の実施にあたり、執行機関と緊密な連絡・調整を行い、事業目的の達成と効率的な運営の両立を図っている。						
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果目標値を達成している。						
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-							
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動見込みを達成している。						
事業の有効性	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	・テリトリアル・レビュー等の成果を我が国の国土・地域政策の形成に活用している。 ・我が国の国土・地域政策や居住環境改善分野のノウハウ・技術が活用され課題解決に貢献している。						

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			○	国土政策局では、国土・地域政策に直接関わるRDPC及び地域指標作業部会関連プロジェクトのために拠出している。都市局ではRDPC及び都市政策作業部会で実施しているプロジェクトに対し拠出している。
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
	国土交通省都市局	271	国際機関等拠出金		

点検・改善結果	点検結果	OECDについては、その活動を支援し、国土・地域政策分野での加盟国間連携を一層推進するとともに、積極的な情報発信や意見交換を通じて先進的政策や加盟国における取組等の情報収集・分析を深めることは、我が国の国土・地域政策の政策形成に不可欠である。国連ハビタットについては、その活動を支援し、我が国の知見や技術を活用した急速な都市化等に伴う諸課題の解決に貢献するとともに、事業を通じたアジア地域の課題や取組等の情報を獲得することは、我が国の国土・地域政策の政策形成に不可欠である。
	改善の方向性	OECDについては、本年4月に公表された我が国の国土・地域政策レビューの成果を我が国の国土・地域政策の推進に活用するとともに、加盟国等に対して情報発信し、各国の政策形成にも貢献しているところである。今後、個性ある地方の創生など我が国の政策推進に資するテーマの調査研究等が行われるよう拠出先と緊密に連携していく。国連ハビタットについては、20年毎に開催されてきた国連会議「第三回国連人間居住会議」が本年10月に開催予定であり、都市化等に伴う諸課題の解決の取組を推進する好機であることから、我が国の知見や技術等の発信を一層強化するよう拠出先と緊密に連携していく。

**外部有識者の所見**

アウトプット「マッチング事業等の実施件数」とアウトカム「マッチングの毎年1件程度」の関係が不明である。丁寧に説明するか、いずれかを変更すべきである。

**行政事業レビュー推進チームの所見**

事業内容の改善	拠出金による事業が当局の政策目的と合致するよう、拠出先との密接な連絡および調整に努めるとともに、得られた成果の有効活用を図る。なお、外部有識者の指摘を踏まえ、アウトカム及びアウトプットの説明の改善を行う。
---------	--

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

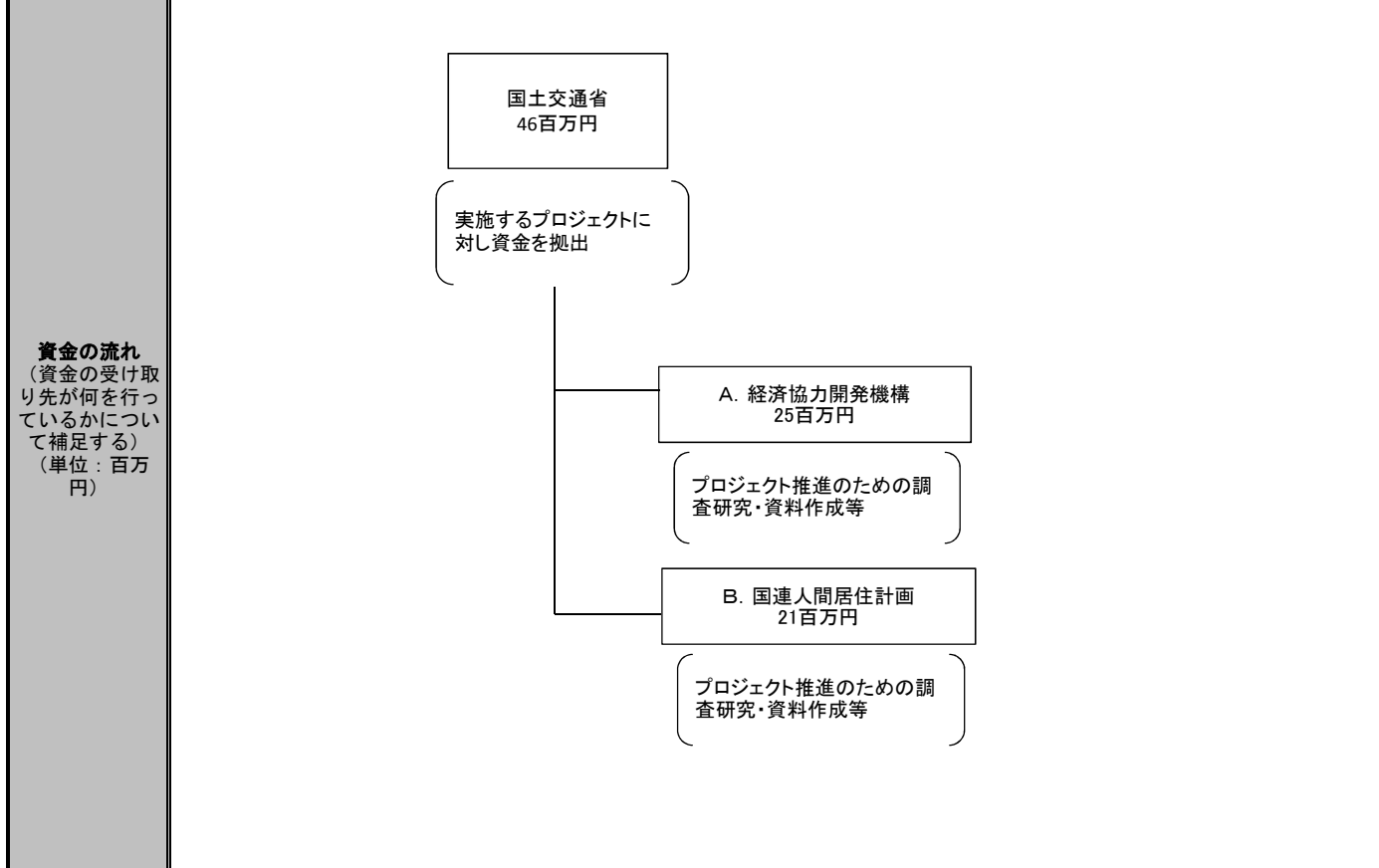
執行等改善	当該事業が当局の政策目的とより合致したものとなるよう、事業の検討や実施にあたり、拠出先とより一層の緊密な連携及び調整を行う。また、関係する国際会議等への積極的な参加等を通じ、先進的政策等の情報収集や蓄積、人的ネットワーク等を通じた政策提言を獲得し、我が国の国土・地域政策形成へ還元するとともに、国際貢献へ向けた政策形成への活用を図る。なお、外部有識者の指摘を踏まえ、アウトプット及びアウトカムの説明を改善した。
-------	---

**備考**

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成22年度	96	平成23年度	74	平成24年度	88	/
平成25年度	380	平成26年度	365	平成27年度	381	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.経済協力開発機構			B.国連人間居住計画		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	拠出金	プロジェクトのための調査研究等を実施	25	拠出金	プロジェクトのための調査研究等を実施	21
	計		25	計		21

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	経済協力開発機構	-	プロジェクト推進のための調査研究・資料作成等	25	-	-	-	

B.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国連人間居住計画	-	プロジェクト推進のための調査研究・資料作成等	21	-	-	-	

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載

チェック

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		-							

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	国土政策に関する国際調査			<b>担当部局庁</b>	国土政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成23年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総務課企画室		室長 中川 雅章		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	諸外国においては、各国の経済社会情勢に応じ、その国の抱える諸課題に対処するため国土・地域政策上の様々な取組がなされていることから、国土・地域計画の策定状況やそれらの諸課題に対する取組状況等の調査、分析、情報蓄積を行い、今後の我が国の国土・地域政策の形成へ反映させるとともに、我が国の経験やノウハウを発信し、同分野における国際的な議論をリードすることを目的とする。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	アジア地域等における国土・地域政策の課題や具体的な取組について、各国の政策担当者との意見・情報交換等を通じて把握するとともに、情報の整理・分析を行い、我が国の国土・地域政策への活用方策を検討するとともに、これら各国の情報を発信するウェブサイトの更新、内容の充実等を行う。また、本年10月に開催予定の国連会議「第三回国連人間居住会議」(ハビタットIII)等の機会を通じ、我が国の国土・地域政策における経験やノウハウを積極的に情報発信するとともに、会議成果の今後の我が国の国土・地域政策への活用方策を検討する。								
<b>実施方法</b>	委託・請負								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	23	28	21	25	37		
	執行額	22	25	20	-	-			
	執行率(%)	96%	89%	95%	-	-			
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	我が国の国土政策の形成への反映等のため、相手国政府との政策対話等を通じて、毎年1ヶ国以上の国土政策情報(課題や取組)	政策対話等を行った国数	成果実績	ヶ国	-	-	2	-	-
			目標値	ヶ国	-	-	1	-	1
			達成度	%	-	-	200	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック		
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	国土政策に関する国際調査の実施件数	活動実績	件数	2	2	2	-		
		当初見込み	件数	2	2	2	2		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠	単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	執行額/調査件数	単位当たりコスト	百万円	11	12.5	10	12.5		
		計算式	百万円/件数	22/2	25/2	20/2	25/2		
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	諸謝金	0	0	※百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。 ※「新しい日本のための優先課題推進枠」11					
	職員旅費	0.8	0.6						
	委員等旅費	0.7	0.8						
	国土形成推進調査費	24	36						
計	25.5	37.4							



政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	我が国の国土・地域政策における課題、各国の最新の動向等に応じた調査、情報収集・分析、我が国の政策形成への検討等を通じ、我が国の総合的な国土政策の推進に寄与している。								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績							
目標値									
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績								
	目標値								
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									
<b>事業所管部局による点検・改善</b>									
国費投入の必要性	項目				評価	評価に関する説明			
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。				○	各国の取組を我が国の政策形成に反映させるものであり、社会的ニーズの高い事業である。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。				○	国の施策に関するものであり、国が実施する必要がある。			
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。				○	諸外国の取組を把握することは、我が国の政策形成において重要である。また、我が国の取組を発信することは国際的な議論をリードする上でも重要である。			
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。				○	調査実施にあたり、企画競争を実施し、有識者による委員会での審議を経て選定している			
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。				無				
	競争性のない随意契約となったものはないか。				無				
	受益者との負担関係は妥当であるか。				-	-			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。				○	調査は目的に即した内容に精査している。また、企画競争において、企画提案書に併せて概算金額も提出させている。			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。				-	-			
費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				○	調査実施にあたり、企画競争を実施し、事業目的に即した内容の提案者を選定している				
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)				-	-				
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。				○	調査は目的に即した内容に精査している。				
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。				○	成果目標を達成している。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。				-				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。				○	活動見込みを達成している。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。				○	調査成果を国土政策の政策形成に反映している。また、ウェブサイト等により広く情報発信している。			
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				-				
	所管府省・部局名	事業番号	事業名						
	-	-	-						

点検・改善結果	点検結果	<p>・我が国の国土・地域政策の形成や国際貢献に資するテーマを選定し調査を実施しており、平成27年度は、ハビタットⅢに向けて、我が国の国土・地域政策の知見やノウハウの効果的な発信等の検討に重点的に取り組んだ。</p> <p>・企画競争による手続きにおいては、企画競争有識者委員会の審査を受け、適正な手続きの執行に努めている。また、手続きの中では提案者が判別できないよう匿名方式による評価を実施するとともに、適正な公示期間の確保や提案者の労力縮減など企画提案しやすい環境づくりに努めるなど、公平性・透明性・競争性の確保を図っている。</p>
	改善の方向性	<p>引き続き、我が国の国土・地域政策における最近の課題、国土・地域政策に係る各国の最新の動向、新興国の目覚ましい成長や国際情勢等を踏まえ、調査内容、調査対象国、テーマ等を機動的に見直し、重点化を図る。特に、本年10月に開催されるハビタットⅢ等の機会を捉え、アジア・太平洋地域を中心とする国土・地域政策の策定・推進について各国を支援するための仕組みの構築に重点的に取り組む。</p>

**外部有識者の所見**

**行政事業レビュー推進チームの所見**

事業内容の一部改善	我が国の国土政策・国土計画の海外展開に資するよう、支援ニーズの高い国に関する調査を重点的に実施する。
-----------	--

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

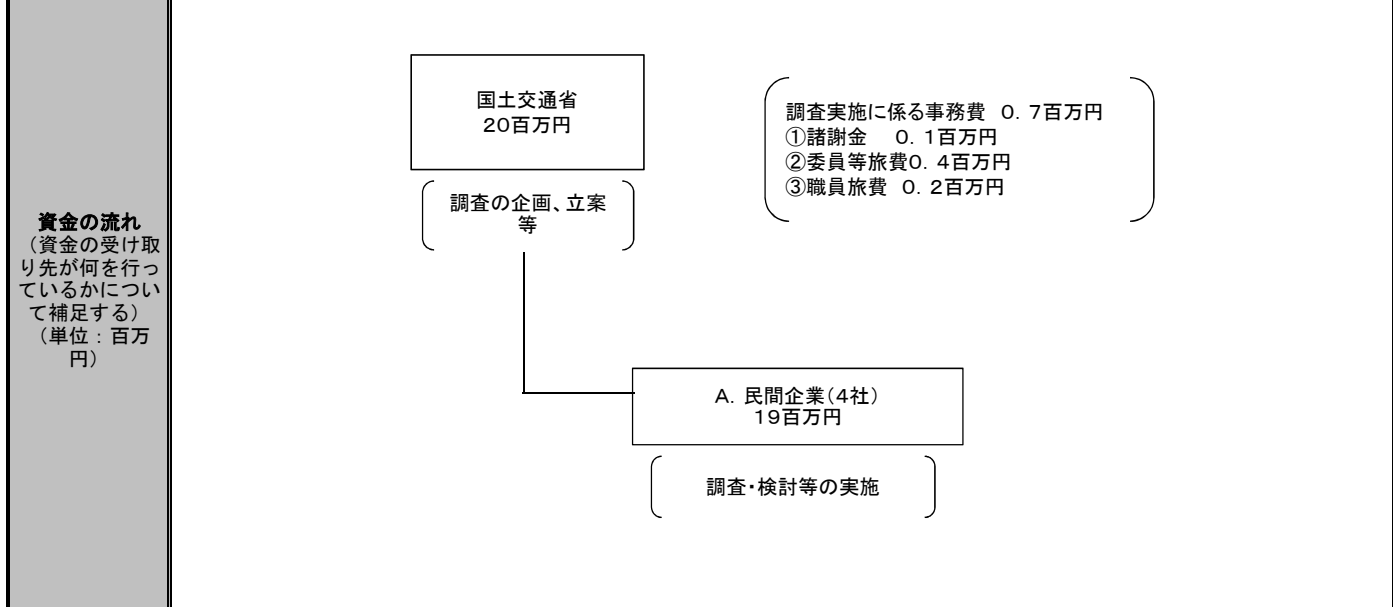
執行等改善	アジア地域の国々を中心に、国土政策上の課題、我が国への支援ニーズの調査・分析、我が国の支援方策の検討等を重点的に実施し、我が国の国土政策の海外展開を積極的に推進する。
-------	---

**備考**

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成22年度		平成23年度	74	平成24年度	89	/
平成25年度	381	平成26年度	366	平成27年度	382	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目	A.株式会社都市経済研究所		B.		
	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
役務費	調査、分析	10			
計		10	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック



平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	多様な主体による地域づくり推進経費			<b>担当部局庁</b>	国土政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成26年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総務課企画室 地方振興課		室長 中川 雅章 課長 長谷川 貴彦		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画(H27.8 閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針(H27.6 閣議決定) まち・ひと・しごと創生総合戦略(H26.12 閣議決定)				
<b>主要政策・施策</b>	地方創生			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	多様な主体による事業型の地域づくり活動(地域ビジネス)等を生み育てるモデル的な仕組みの構築を支援し、当該事例に係る情報を全国の各地域に提供し、地方における地域資源を活かした新たな地域ビジネス等の創出を推進することによって地域の活性化を図ることを目的とする。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	地方部における地域の活性化を図るため、地域金融機関、地元民間企業、地域のNPO等から構成されるモデル的な地域づくり活動支援体制の構築を支援し、多様な主体による地方部の地域づくり活動の、ハンズオン支援等の中間支援活動に対して補助を行う。併せて、全国の各地域の活動支援体制の充実を促進するため関連情報の提供等を行う。さらに、地域の課題解決に資するNPO等の事業の社会的意義を客観的に示す手法を検討する。								
<b>実施方法</b>	委託・請負、補助								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	59	48	35	28		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	0	59	48	35	28		
	執行額	-	53	46	-	-			
	執行率(%)	-	90%	96%	-	-			
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	平成28年度までに地域づくり活動支援体制によって支援された地域づくり活動数を60とする。	地域づくり活動支援体制によって支援された地域づくり活動数	成果実績	件	-	24	57	-	-
			目標値	件	-	60	60	-	60
			達成度	%	-	40	95	-	-
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 31 年度
	平成29~31年度までに地域づくり活動支援体制によって支援された、成果指標明示型の地域づくり活動数を30とする。	地域づくり活動支援体制によって支援された成果指標明示型の地域づくり活動数	成果実績	件	-	-	-	-	-
			目標値	件	-	-	-	-	30
			達成度	%	-	-	-	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載 <input type="checkbox"/> チェック									
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	新たに形成される地域づくり活動支援体制数			活動実績	件	-	9	7	-
				当初見込み	件	-	9	7	6
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
				単位当たりコスト	百万円	-	3	3.4	3.2
	中間支援活動の支援に係る費用/支援件数			計算式	百万円/件数	-	26.61/9	23.51/7	19/6
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	諸謝金	0.2	0.1	事業の効果をより明示的にするため、成果指標明示型の活動を絞り込み、及び調査事業の一部終了による減額 ※百万円未満を四捨五入しているため、「予算額・執行額」欄と誤差が生じている。					
	職員旅費	2	1.9						
	委員等旅費	0.4	0.2						
	国土形成推進調査費	13	9.1						
	地域づくり活動支援体制整備事業費補助金	19	17						
	計	34.6	28.4						

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	地域づくり活動支援体制の構築や活動を補助し、多様な主体による地方部の地域づくり活動に対する中間支援活動を支援することで、各地域における自立的な地域づくり活動が促進され、これらが連鎖することで、多様な広域ブロックが自立的に発展する国土の構築や、美しく、暮らしやすい国土の形成が図られ、質の高い国土づくりに寄与する。								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	-
目標値		-	-	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は多様な主体の連携体制を構築し、地域ビジネスを促進させ、地域の活性化を促進するものであり、国土形成計画や経済財政運営と改革の基本方針推進等に資するものであることから、ニーズの高い事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	先導的な事業であり、地方公共団体や民間等はこのような連携体制構築のノウハウ等が不十分で取組が広がらないため、国が率先して関与していくことが不可欠である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	地域の活性化のためには、地域ビジネスを創出することの優先度は高く、そのためには地域づくり活動支援体制を整備していくことが適切である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	実施にあたっては、企画競争・公募を実施し、有識者で構成される有識者委員会での審議を経て選定している。
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	地域づくり活動を行う経費については担い手自身が負担し、その活動を促進させる中間支援活動の経費を事業において補助している。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	複数の有識者、事業者へのヒアリングから決まった金額であり、水準は妥当であると言える。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	本補助金の交付に当たっては、申請書類等を審査し、事業、費用の使途等を確認するとともに、事業途中におけるヒアリング、事業完了後には完了検査を実施するなどにより、中間支援体制の構築という事業目的に沿った使途となっているかを確認している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	随時進捗状況について監督している。	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	一つの中間支援体制が一つ以上の地域づくり活動を支援することにより、成果実績は成果目標に見合ったものといえる。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動実績は見込みに見合っている。				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	地域づくり活動支援体制の活動をとりまとめた成果については、ホームページ等で広報することにより、同様の中間支援活動を行う主体等に活用されている。				
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-					
	<table border="1"> <tr> <th>所管府省・部局名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	所管府省・部局名	事業番号	事業名	-	-	-
所管府省・部局名	事業番号	事業名					
-	-	-					
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に地域づくり活動支援体制が構築され地域資源を活用した商品化等も進み地域ビジネスが促進された。</li> <li>・地域における地域づくり支援体制の構築がなされていない地域も多く、効率的・効果的な地域づくり活動支援体制を全国に普及・展開を図る必要がある。</li> <li>・全国ネットワークを構築し各体制間のノウハウや地域ごとに異なるニーズを把握・共有する必要がある。</li> </ul>					
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくり活動支援体制の取組を分析し、全国への普及・展開に資するものとする。</li> </ul>					
<b>外部有識者の所見</b>							
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>							
一部改善の	個別地域の成功事例の蓄積だけでなく、ノウハウの全国的な普及に努める。						
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>							
執行等改善	ノウハウを全国的に普及するため、参考となる情報についてWEBや活動成果発表会の開催などを通じて発信に努める。						
<b>備考</b>							
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>							
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-		
平成25年度	-	平成26年度	新26-59	平成27年度	386		
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:百万円)	<p>※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。</p> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">国土交通省 46百万円</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;"> <p>【随意契約(企画競争)】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">A民間企業(2社) 20百万円</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto; margin-top: 10px;">地域づくり活動支援体制の交流連携に資するネットワークの構築に関する調査 等</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;"> <p>【補助】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">B民間企業等(7団体)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto; margin-top: 10px;">地域づくり活動支援体制整備事業</div> </div> </div> <div style="margin-top: 20px; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%; margin: 0 auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助先選定に係る事務費</li> <li>・補助先の進捗管理にかかる事務費</li> <li>①諸謝金</li> <li>②職員旅費</li> <li>③委員等旅費</li> <li>3百万円</li> </ul> </div> </div> </div>						

費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.日本能率協会総合研究所			B.山口市阿東地福地域拠点づくり協議会		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	調査費	平成27年度 地域づくり活動支援体制の交流連携に資するネットワークの構築に関する調査	10	地域づくり活動支援体制整備事業補助金	山口市阿東地福地域における見守りサービスを活用した新たな拠点ネットワーク化に対する中間支援活動	4
計		10	計		4	

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社日本能率協会総合研究所	5010401023057	平成27年度 地域づくり活動支援体制の交流連携に資するネットワークの構築に関する調査	10	随意契約 (企画競争)	2	99.8%	-
2	株式会社価値総合研究所	3010401037091	多様な主体による地域づくり活動の社会的価値の見える化に関する調査	9	随意契約 (企画競争)	7	99.3%	-

B.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	山口市阿東地福地域拠点づくり協議会	-	山口市阿東地福地域における見守りサービスを活用した新たな拠点ネットワーク化に対する中間支援活動	4	-	-	-	-
2	ニセコ羊蹄山麓体験型ツーリズム推進協議会	-	ニセコ・羊蹄山麓における雪と農の体験型ツーリズムを活用した新たな着地型観光のコンテンツ開発に対する中間支援活動事業	4	-	-	-	-
3	うおづ地域づくり協議会	-	魚津地域における地域産品を活用した商品のブラッシュアップ等に対する中間支援活動	3	-	-	-	-
4	おかやまマルシェ起業支援協議会	-	地域のつながりと可能性を伸ばす小商いの苗床「市場・マルシェ」の起業支援とネットワーク構築プロジェクト	3	-	-	-	-
5	銚子円卓会議	-	健康寿命の延伸につながる地域づくり活動を「見える化」「地域ぐるみ化」する中間支援活動	3	-	-	-	-
6	松阪商人サポート隊	-	“豪商のまち”をテーマに新たな資源活用ビジネスを創造する中間支援活動事業	3	-	-	-	-
7	まちなみ・蔵庭プロモーション協議会	-	まちなみと蔵庭を活かした「駅～まちなか」をつなぐプロジェクト	3	-	-	-	-

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載  チェック

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	国土形成計画（広域地方計画）の見直しに向けた調査・検討			<b>担当部局庁</b>	国土政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成27年度	<b>事業終了（予定）年度</b>	平成27年度	<b>担当課室</b>	広域地方政策課		課長 中川 雅章		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	国土形成計画法第9条第1項、第5項			<b>関係する計画、通知等</b>	国土形成計画(全国計画)(平成27年8月14日閣議決定) 各圏域の広域地方計画(平成21年8月4日国土交通大臣決定)				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国土形成計画法(昭和25年法律第205号)に基づき、平成21年8月に全国8ブロックについて策定された国土形成計画(広域地方計画)について、「国土のグランドデザイン2050」(平成26年7月策定)や「国土形成計画(全国計画)」(平成27年8月閣議決定)を踏まえた計画の見直しを実施する。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	「国土のグランドデザイン2050」や「国土形成計画(全国計画)」を踏まえ、「対流促進型国土」の形成を基本的な方向性として以下の調査・検討を実施し、各圏域の広域地方計画を変更した(平成28年3月29日国土交通大臣決定)。 ・時代の潮流に対応した課題についての調査・検討を実施するとともに、これまで実施したモニタリング調査等も踏まえ、各ブロックにおける課題を整理。 ・各ブロックにおいて、時代のニーズと地域発展に資する独自性のある広域ブロックの形成に向けた戦略的目標および目標達成に向けた広域プロジェクトを検討。								
<b>実施方法</b>	直接実施、委託・請負								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	0	0	232	0	0		
	執行額	-	-	223	-				
	執行率(%)	-	-	96%	-				
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 27 年度	
	全ての圏域で、調査・検討結果を広域地方計画の改定に反映させる。	調査・検討結果を広域地方計画の改定に反映した件数(圏域数)	成果実績	圏域	-	-	8	-	8
			目標値	圏域	-	-	8	-	8
			達成度	%	-	-	100	-	100
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載									
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	広域地方計画の見直しに向けた、調査・検討の実施件数(圏域数)	活動実績	圏域	-	-	8	-		
		当初見込み	圏域	-	-	8	-		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	調査関係経費/調査実施件数	単位当たりコスト	百万円	-	-	11	-		
		計算式	百万円/件数	-	-	203/19	-		
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	-	-	-						
	-	-	-						
	-	-	-						
	-	-	-						
	計	0	0						



政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備							
	施策	37 総合的な国土形成を推進する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
			実績値	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	平成27年8月14日に閣議決定された「国土形成計画(全国計画)」を踏まえ、「対流促進型国土」の形成を基本的な方向性として各圏域の広域地方計画を変更した。同計画において検討された戦略目標や広域プロジェクトは、多様な広域ブロックが自立的に発展する国土の構築に資するものである。								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
			成果実績						
		目標値							
		達成度	%						
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
		成果実績							
		目標値							
		達成度	%						
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	・広域地方計画は各圏域の広域地方計画協議会において、国、自治体、経済団体等が協働により検討し、国民の意見も踏まえて作成する計画であり、様々な主体の意見やニーズを踏まえて取りまとめられている。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	・官民の連携確保や当該計画の区域外にわたる施策も含めた、総合的かつ戦略的な計画であり、国土形成計画法に基づき、国が責任を持って策定・推進することとされている。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	・経済財政運営と改革の基本方針2014(平成26年6月閣議決定)や、まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成26年12月閣議決定)にも位置付けられた事業であり、国の施策として優先度の高いものである。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	△	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	・企画競争入札において1者応札となっている事例がある。今後の発注においては、委託業務の実施目的を遂行できる事を大前提としながらも、さらなる競争性の確保のため、入札条件の緩和等可能な事項を検討する必要がある。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	・一般競争入札を実施し、競争性の確保、コスト最適化を図った。 ・企画競争においては、有識者による企画競争委員会における審議を経て委託先を選定している。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	・事業の目的に即した委託を実施している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	・費目・費途については、調査の進捗管理や成果物の確認を適正に行い、真に必要なものに限定されていることを確認している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	・8ブロック全体をまとめた対外説明資料の作成等について外注せず、既存の資料を活用し本省にて作業を実施することで、効率化を図っている。	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	・全ての調査・検討の結果を計画の見直しに反映させており、成果目標に見合った実績を上げている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	・全ての圏域において、計画見直しのための調査・検討を実施しており、見込みに見合った活動実績を上げている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	・調査・検討の結果は、広域地方計画の見直しに反映されており、成果物が十分に活用されている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			-	
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	急激な人口減少、異次元の高齢化、巨大災害の切迫、インフラの老朽化、グローバル化の進展、ICTの劇的な進歩といった時代の潮流に対応しつつ、多様な地域のポテンシャルを最大限活かし、成長力を絶えず生み出す広域ブロックのビジョンを再構築するため、全国8ブロックごとに独自の戦略的目標や広域連携プロジェクトの検討を実施した。			
	改善の方向性	- (平成27年度にて事業終了)			
<b>外部有識者の所見</b>					
地方整備局等からの支出に一者応礼が多い。理由を分析し、来年度以降は対策を講じることを求める。ただし同一企業が複数の広域地方計画を受託することのないよう配慮する必要がある。					
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>					
終了予定	予定通り終了している。				
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>					
予定通り終了	一者応礼であった地方整備局等に対し、一者応礼となった理由の聞き取りを行い、今年度中にその結果を踏まえ対策を検討する。				
<b>備考</b>					
<b>関連する過去のレビューシートの実業番号</b>					
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-
平成25年度	-	平成26年度	-	平成27年度	新27-0053

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省  
223百万円

・広域地方計画の見直しに向けた企画・立案  
・業務の発注・進捗管理及び成果の活用

広域地方計画の見直しに関する  
調査・検討に係る事務費  
11百万円

- ① 諸謝金 0.2百万円
- ② 委員等旅費 1百万円
- ③ 職員旅費 8百万円
- ④ 印刷・製本費 1百万円

(※百万円未満を四捨五入しているため、  
合計額に誤差が生じている。)

委託【随意契約(企画競争・少額)】

A. 民間企業(3社)  
49百万円

・広域地方計画の見直しにあたり、各圏域に共通する課題となる、官民連携、自立した都市圏形成や広域連携に関する調査・検討を実施

【予算示達】

B. 地方整備局、地方運輸局(11局)  
163百万円

各圏域の広域地方計画の改定作業及び、  
計画の見直しに向けた調査・検討を実施

広域地方計画の見直しに関する  
調査・検討に係る事務費  
9百万円

- ① 諸謝金 0.1百万円
- ② 職員旅費 5百万円
- ③ 印刷・製本費 0.3百万円
- ④ 会場借上費 4百万円

委託【一般競争入札・随意契約(企画競争・少額)】

C. 民間企業等(14社)  
154百万円

各地方整備局の発注による調査を実施

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて  
補足する)  
(単位:百万円)



B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	関東地方整備局	-	首都圏広域地方計画の見直しに向けた調査・検討を実施した。	30	-	-	-	
2	四国地方整備局	-	四国圏広域地方計画の見直しに向けた調査・検討を実施した。	22	-	-	-	
3	中部地方整備局	-	中部圏広域地方計画の見直しに向けた調査・検討を実施した。	20	-	-	-	
4	北陸地方整備局	-	北陸圏広域地方計画の見直しに向けた調査・検討を実施した。	20	-	-	-	
5	近畿地方整備局	-	近畿圏広域地方計画の見直しに向けた調査・検討を実施した。	19	-	-	-	
6	九州地方整備局	-	九州圏広域地方計画の見直しに向けた調査・検討を実施した。	19	-	-	-	
7	中国地方整備局	-	中国圏広域地方計画の見直しに向けた調査・検討を実施した。	19	-	-	-	
8	東北地方整備局	-	東北圏広域地方計画の見直しに向けた調査・検討を実施した。	15	-	-	-	
9	北陸信越運輸局	-	北陸圏広域地方計画の見直しに向けた会議等に出席した。	0.1	-	-	-	
10	四国運輸局	-	四国圏広域地方計画の見直しに向けた会議等に出席した。	0.1	-	-	-	

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	計量計画研究所・福山コンサルタント設計共同体	5011105004806	平成27年度首都圏広域地方計画等検討業務	30	随意契約 (企画競争)	1	99.9%	-
2	大日本コンサルタント(株)	8013301006938	平成27年度 四国圏広域地方計画推進検討等業務	21	随意契約 (企画競争)	1	100%	-
3	(株)福山コンサルタント	5290001016276	平成27年度 九州圏広域地方計画等資料作成検討業務	18	随意契約 (企画競争)	1	100%	-
4	日本工営(株)	2010001016851	平成27年度 北陸の地域づくり検討業務	17	随意契約 (企画競争)	1	100%	-
5	(株)地域未来研究所	7120001145148	地域づくり地方計画策定業務	17	随意契約 (企画競争)	2	80.9%	-
6	(公)中国地方総合研究センター	2240005000705	中国圏広域地方計画策定業務	17	随意契約 (企画競争)	2	99.7%	-
7	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	3010401011971	平成27年度 中部圏広域地方計画検討業務	16	随意契約 (企画競争)	1	96.8%	-
8	(株)福山コンサルタント東北支社	5290001016276	東北圏広域地方計画検討業務	14	一般競争入札	1	79.7%	-
9	(公)中国地方総合研究センター	2240005000705	中国圏の現状等資料整理	1	随意契約 (少額)	-	-	-
10	名古屋ショーケース(株)	1180001010764	中部圏歴史・文化を活かした地域づくりフォーラム	0.9	随意契約 (少額)	-	-	-
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							<input type="checkbox"/> チェック	



平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	大都市戦略検討調査経費			<b>担当部局庁</b>	都市局			<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始年度</b>	平成24年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	都市政策課 まちづくり推進課 都市計画課			課長 井崎 信也 課長 望月 一範 課長 宇野 善昌	
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	首都圏整備法 近畿圏整備法 中部圏開発整備法ほか			<b>関係する計画、 通知等</b>	首都圏整備計画 近畿圏整備計画 中部圏開発整備計画ほか				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	我が国が、人口減少・高齢化社会を迎えつつある中、新成長戦略において「国としての国際的広域的視点を踏まえた都市戦略」の必要性が指摘され、大都市圏戦略のあり方等の調査審議を行った国土審議会政策部会国土政策検討委員会で、引き続き検討を進めるように提言(H23.2)された。このため、国の成長エンジンとなる大都市圏特有の国家的・広域的な課題に対応した大都市における戦略を推進する。								
<b>事業概要 (5行程度以内。 別添可)</b>	我が国の大都市(首都圏・中部圏・近畿圏)は、都府県等の行政エリアを越えて人口や産業の集積が進んでいる地域であるが、社会経済情勢の変化とともに、国際競争力の相対的な低下、災害に対する脆弱性、都市環境の悪化、土地・空間利用の不整合など、国家的・広域的に取り組むべき課題が顕在化している。 一方、諸外国では、大都市の機能強化のため、国家的観点から大都市の戦略を策定・推進していることなど、「我が国の経済活力を牽引する成長エンジンとしての大都市圏の魅力を総合的に高めるとともに、国内外の投資、あるいは企業や人材を惹きつけるための政策を国家戦略として明確に位置づけることが必要である。」ことが国土審議会政策部会国土政策検討委員会の最終報告(平成23年2月14日)等においても指摘されている。 人口減少や高齢化について今後更なる進が見込まれ、さらに東日本大震災の影響による国際競争力の低下が危惧される中、国の成長エンジンとなる大都市の機能を強化するため、大都市で顕在化している課題に関する調査を通じて計画の実施状況を把握し、大都市における戦略の策定に反映させる。								
<b>実施方法</b>	委託・請負								
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	83	40	40	36	38		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
	計		83	40	40	36	38		
	執行額		80	40	39	-			
執行率(%)		96%	100%	98%	-				
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 29年度	目標最終年度 -年度
	三圏法に基づく大都市圏計画の実施状況の報告・公表等の実施	大都市圏に係る課題と対応の方向性及び計画の実施状況に関する報告・公表等の件数	成果実績	件	3	3	3	-	-
			目標値	件	3	3	3	-	-
			達成度	%	100	100	100	-	-
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 29年度	目標最終年度 -年度
	大都市をめぐる最近の動向の調査分析等の結果について、大都市の機能強化に活用する件数(4件)	大都市の機能強化に向けた調査分析等の活用件数	成果実績	件	-	-	-	-	-
			目標値	件	-	-	-	4	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載 <input type="checkbox"/> チェック									
<b>活動指標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	調査実施件数			活動実績	件	8	5	5	-
				当初見込み	件	5	4	5	4
<b>単位当たり コスト</b>	算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	実績額 / 件数 ※少額随契を除く			単位当たり コスト	百万	10	8	8	9
				計算式	実績額/ 件数	80/8	40/5	39/5	36/4
<b>平成28・29年度 予算内訳 (単位:百万円)</b>	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	(目)国土形成推進調査費	36	38	調査内容の充実による増					
	計	36	38						

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策		10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備									
	施策		37 総合的な国土形成を推進する									
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度			
			実績値	-	-	-	-	-	-			
			目標値	-	-	-	-	-	-			
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
	持続可能な大都市圏の形成のため、大都市で顕在化している課題に関する調査を通じて、計画の実施状況の把握、三圏法に基づく大都市圏計画の実施状況の報告・公表等の実施により、大都市における戦略の策定に活用され、もって総合的な国土形成の推進に寄与する。											
	改革項目	分野:	-									
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)			単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度		
			成果実績									
		目標値										
		達成度	%									
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)			単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度			
		成果実績										
		目標値										
		達成度	%									
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係												
-												



事業所管部局による点検・改善					
項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	・人口減少や高齢化、国際競争力の低下等の社会状況の変化を踏まえた検討を実施した。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	・大都市圏計画の実施状況を把握するものであり国が実施すべきものである。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	・国の成長エンジンとなる大都市の機能強化を図るため、国が主導的に検討すべき課題に関する調査に重点化した。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	・企画競争において1者応札が1件あったが、企画競争の実施にあたっては、応募された提案書を匿名審査方式により適切に評価を行った上で、第三者機関である企画競争有識者委員会の審査を受けており支出先の選定は適切である。		
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有			
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	・支出先の選定については、競争性が確保されており、単位当たりのコストは妥当である。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-			
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	・費目・用途については、企画競争委員会における外部の有識者委員会による審査を導入し、随時、調査の進捗状況についても監督している。		
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-				
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-				
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	・大都市圏特有の課題に関する調査に際し、競争性のある企画競争方式により契約した受託先と適宜協議を行いながら、効率的・効果的な事業実施を推進している。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	・大都市における機能強化及び整備のあり方について、競争性のある企画競争方式により契約した受託先と適宜協議を行いながら、効率的・効果的な事業実施を推進している。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	・受託先と適宜協議を行い、調査事項や整理方法など目的に則した内容の成果物となっていることを確認している。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	・調査結果は、首都圏白書として国会へ報告を行う等、成果は十分に活用されている。		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-			
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	・発注先の選定にあたっては、より一層の透明性及び公平性の確保を図る観点から、引き続き企画競争の手続きの中で、提案者が判別できないよう匿名方式による評価を実施するとともに、第三者機関である企画競争有識者委員会の審査を受け適正な手続きの執行に努めている。 ・調査終了後、完了時の検査を通じて、成果物(報告書)の内容が国の求める調査事項を網羅しているか、国が指示した報告書の整理方法となっているか等の確認を行っている。			
	改善の方向性	・調査内容について、過年度の調査結果を踏まえ、国が主導的に検討すべき国家的・広域的な課題に関する調査検討であるか厳格に審査した上で、競争性の確保及び調査内容の重点化を図り、限られた予算の中で調査の質の確保・向上に努めていく。			
外部有識者の所見					
-					
行政事業レビュー推進チームの所見					
一部改善の内容	・我が国の大都市の政策課題を踏まえつつ、調査内容の重点化を図るべき。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
執行等改善	・急激な人口減少や高齢化等、社会情勢の変化の中でも持続可能な大都市が形成されるよう、我が国の大都市の政策課題を踏まえつつ、調査内容の重点化を図り、効果的な調査となるよう努めていく。				
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	1017
平成25年度	384	平成26年度	370	平成27年度	387
※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。					

国土交通省  
39百万円  
各調査等の企画・立案、進捗管理・指導

【一般競争入札】  
A. 民間会社  
2百万円  
首都圏整備に関する年次報告(首都圏白書)作成

【随意契約(企画競争)】  
B. 民間会社(4社)  
37百万円  
社会環境の変化に応じた大都市圏の圏域構造に関する調査検討業務など

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何をやっているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・使途 （「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）	A.勝美印刷(株)			B.(株)三菱総合研究所		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
その他	首都圏整備に関する年次報告(首都圏白書)作成		2	調査費	社会環境の変化に応じた大都市圏の圏域構造に関する調査検討業務	11
計			2	計		11

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック

支出先上位10者リスト

A.民間会社

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	勝美印刷(株)	9010001001855	首都圏整備法の規定に基づき、国会に対し報告する首都圏整備計画の策定等についての報告書及び公表資料の印刷費用	2	一般競争入札	3	42%	-

B.民間会社

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)三菱総合研究所	6010001030403	大都市圏の圏域の状況について、三圏計画の実施状況の把握・整理及び評価検証を行い、「国土のグランドデザイン」や「国土形成計画」の策定状況も踏まえた、圏域特性に応じた圏域構造のあり方についての検討。	11	随意契約 (企画競争)	4	99.8%	-
2	(一財)国土技術研究センター	4010405000185	大都市圏のうち、今後急速な高齢者の増加が見込まれる都心周辺部において、社会参加意欲を持つ高齢者が社会の活力維持に貢献する具体的な方策についての検討及びその方策の実施による効果の推計。	11	随意契約 (企画競争)	2	99.7%	-
3	(株)パスコ	5013201004656	大深度地下の情報収集及び情報提供の促進を図るため、地下利用データの更新・管理が容易な大深度地下情報システムを構築し、大深度地下の公共的使用を検討している事業者の利便性を向上させることを目的とする。	10	随意契約 (企画競争)	1	99.5%	-
4	(株)ブレック研究所	5010001081785	平成16年に策定・公表された首都圏の都市環境インフラのグランドデザインに基づく地方公共団体の取組の推進とグランドデザインそのものの進展を図るため、自然環境の有する機能に着目し、ケーススタディ調査や調査手法の整理等を行う。	5	随意契約 (企画競争)	3	99.8%	-

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載

チェック

